

令和6年度 施策評価/
令和6年度 夢・未来・たからづか創生
総合戦略評価

宝 塚 市
令和7年10月

◇施策評価について

本市では、市の最上位計画である総合計画の進行管理や評価に基づく業務の改善、市民の皆様への説明責任を果たすこと等を目的として、総合計画の体系に基づき、行政評価に取り組んでいます。このうち、第6次宝塚市総合計画の【基本構想】で掲げられている「6つのめざすまちの姿」を実現するために行政が取りまとめている【基本計画】においては、31の施策分野に分かれた「83の施策」を定めています。

この「83の施策」について、成果指標の達成状況等を「評価」することで、「総合計画」の進捗管理を行っています。

施策評価の目的

施策評価は、下記の目的により実施しています。

- (1) 宝塚市総合計画の進行管理
- (2) 評価に基づく改革・改善、資源（財源、人材等）の効果的配分
- (3) 実施手法の検証による市民との協働の推進
- (4) 市民に向けての行政の説明責任の遂行
- (5) 職員の意識改革及び職場風土の改革

施策評価の方法（令和7年度）

83の施策毎に「施策評価表」を作成し、その中で設定された成果指標の直近の数値を入力するとともに、担当部局において、下記の【A～C】の基準で担当部評価を実施し、施策を進める上で課題とそれを踏まえた今後の取組についてフィードバックを行います。

【A】めざすまちの姿の実現に向け、指標の達成状況がいずれも順調である。

【B】めざすまちの姿の実現に向け、指標の達成状況がいずれも概ね順調である。

【C】めざすまちの姿の実現に向けた指標の達成状況が順調でない。

本市では上記に加え、令和4年度～6年度の3か年をかけて、施策評価表について行政評価委員会（外部評価委員により構成）にてローリング評価を行ってきました。

令和7年度においては、全ての施策評価について、「市長・副市長と各部局長の対話」を通して、施策の振り返りと次年度以降の施策の方向性を「対話」により評価する「総合評価」を実施しました。

今後、この「対話」の中で見えた課題を精査し、特に議論が必要と思われる具体的な事業をピックアップしたうえで、行政評価委員会において審議いただく機会を設ける予定です。

市長・副市長と各部局長の対話実績

実施期間:2025/7/23~9/3

実施部局:施策評価に該当しない会計課、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局、議会事務局を除く15部局。

実施時間:原則各部90分。(上下水道局、消防本部、市立病院経営統括部は60分。健康福祉部は120分)

対話を踏まえて(令和8年度予算編成に向けて留意すべきこと)

「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち宝塚」という目標を見失わず、軸を貫く必要がある。そのためには、今そこにある課題を解決するだけでなく、中長期的な視点を持って改革することが必要。新しいものを次々に買い増やすのではなく、様々な方の意見や経験、データや質の高い情報を生かし、十分な分析と検討を重ねたうえで、今ある豊かな自然環境と歴史ある様々な資源を最大限に活用することを踏まえて、下記の項目に留意する。

- 持続可能性を高めるための事業の見直し・転換
- デジタル化などの業務効率化(投資額以上の効果が見込めるもの)
- 歳入の確保に資する施策の実施
- イベントについてのゼロベースの検討(事業費のみでなく人件費も発生していることを考慮)

◇夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価について

本市では、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく「第2期 夢・未来 たからづか総合戦略」の策定・効果検証のための手引き(ガイドライン)に従い、幅広い分野の知見を得た方々からの意見をいただくため、行政評価委員会において評価検証を行っています。

今年度は「基本目標1」における6施策を評価対象とし、成果指標の達成状況について審議するとともに、地方創生交付金(デジタル田園都市国家構想交付金)事業の評価を実施しました。

上記内容については、別紙の「令和7年度行政評価(令和6年度実施分)に係る答申」のとおりです。

【施策評価表シート】

1 都市経営

- | | | |
|-----|-----------|--------|
| 【1】 | 市民自治・協働 | P1-6 |
| 【2】 | 人権・男女共同参画 | P7-12 |
| 【3】 | 開かれた市政 | P13-18 |
| 【4】 | 情報化 | P19-22 |
| 【5】 | 行財政経営 | P23-28 |

2 安全・都市基盤

- | | | |
|-----|------------|--------|
| 【1】 | 危機管理・防災・消防 | P29-34 |
| 【2】 | 防犯・交通安全 | P35-38 |
| 【3】 | 消費生活 | P39-40 |
| 【4】 | 土地利用 | P41-46 |
| 【5】 | 住宅・住環境 | P47-50 |
| 【6】 | 道路・交通 | P51-58 |
| 【7】 | 河川・水辺空間 | P59-62 |
| 【8】 | 上下水道 | P63-66 |

3 健康・福祉

- | | | |
|-----|-------|--------|
| 【1】 | 健康・医療 | P67-72 |
| 【2】 | 地域福祉 | P73-76 |
| 【3】 | 高齢者福祉 | P77-80 |
| 【4】 | 障害者福祉 | P81-88 |
| 【5】 | 社会保障 | P89-92 |

4 子ども・教育

- | | | |
|-----|------------|----------|
| 【1】 | 児童福祉・青少年育成 | P93-100 |
| 【2】 | 学校教育 | P101-106 |
| 【3】 | 社会教育 | P107-110 |

5 環境

- | | | |
|-----|-------|----------|
| 【1】 | 都市景観 | P111-112 |
| 【2】 | 緑化・公園 | P113-118 |
| 【3】 | 環境保全 | P119-126 |
| 【4】 | 循環型社会 | P127-130 |

【5】 都市美化・環境衛生 P131-134

6 観光・産業・文化

【1】 観光 P135-140

【2】 商工業 P141-146

【3】 農業 P147-152

【4】 雇用・労働環境 P153-158

【5】 文化・国際交流 P159-166

【夢・未来 たからづか 創生総合戦略 評価結果】

宝塚市行政評価委員会

「令和7年度行政評価(令和6年度実施分)に係る答申」

P167-188

施策評価表

施策分野	1-1 市民自治・協働	
めざすまちの姿	<p>○一人ひとりがやりたいことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。</p> <p>○協働の理解や取組が更に広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。</p>	
施策	(1) 市民自治の基盤となる地域自治の確立	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○まちづくり協議会の活動の充実を支援し、市民への認知度の向上に取り組めます</p> <p>○地域ごとのまちづくり計画の実現に向け、地域との調整を図る仕組みを構築し、地域と連携しながら取り組めます</p> <p>○まちづくりに関わるすべての個人や団体（自治会、市民活動団体など）の連携を促進します</p> <p>○自治会の加入率向上などに関する支援を行います</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	コミュニティ活動支援事業	自治会活動支援事業

実施した主な内容	<p>まちづくり協議会補助金を交付し、地域課題の解決の促進を図った。また、定例会への出席、代表者交流会を開催した。地域ごとのまちづくり計画について、協働の取組推進担当次長が地域に訪問しながら、顔の見える信頼関係を構築し計画を推進した。</p> <p>自治会補助金を交付するとともに、自治会補助金申請・精算報告説明会、自治会長意見交換会を開催し、自治会組織の育成及び活動促進を図った。令和6年度から、連合体等への加入の有無に関わらず全自治会に補助金の10割を交付するよう見直したとともに、市の委員推薦や行事への協力について任意制に変更し、自治会の負担軽減を図った。</p>	
----------	---	--

成果指標	指標名									めざす方向性	
	①	まちづくり協議会ポータルサイトアクセス件数									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		件	155142	目標	158000	159000	160000	161000	162000	163000	
				実績	198109	222308	301594				
	達成状況とその理由	まちづくり協議会の活動が活発化し、ブログ更新の頻度が上昇した結果、アクセス数が増加し、目標を達成した。									
	指標名									めざす方向性	
	②	地域ごとのまちづくり計画において達成又は順調に進んでいる取組の数									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		件	-	目標	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上			
				実績	929	1046	1107				
	達成状況とその理由	協働の取組推進担当次長が地域に訪問し、顔の見える信頼関係を構築しながら、地域ごとのまちづくり計画を協働で推進するための仕組みに基づき推進した結果、目標値を達成した。									
	指標名									めざす方向性	
	③	自治会の加入率									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	57.8	目標	60.5	61	54.5	53.0	53.0	53.0	
			実績	55.7	54.5	53.0					
達成状況とその理由	転入者に対し、加入促進チラシを配布するなど加入率向上に向けて取り組んだが、目標値に達しなかった。										
指標名									めざす方向性		
④											
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
			目標								
			実績								
達成状況とその理由											

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>①ではポータルサイトへのアクセス数が前年度比1.36倍に増加し、目標値を達成した。②でも達成または順調に進んでいる取組数が前年度比5.8%増加した。③では自治会の加入率が減少傾向にあるため、自治会補助金の見直しを行い、自治会の負担軽減を図った。また、自治会長との意見交換を3回実施し、自治会加入率の低下、担い手不足などの課題抽出を行った。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>令和5年度市民アンケートにおいて、まちづくり協議会の認知度は「知っている」と回答した人の割合は前回調査では26.4%だったが23.9%に減少している。まちづくり活動への参加状況についても「既に参加している」、「参加しようと思っている」と回答した人の割合が前回調査では18.6%が、18.7%となりほぼ横ばいである。</p> <p>まちづくり協議会のポータルサイトで活動内容を発信しており、引き続き、地域活動のデジタル化を促進していく必要がある。また、自治会加入率の低下、運営の負担軽減、幅広い担い手の確保が課題である。</p> <p>今後も、まちづくり協議会ポータルサイトのブログやSNS等での情報発信の支援を行うなど、市民への認知度の向上に取り組むとともに、地域ごとのまちづくり計画の実現に向け、地域と顔の見える信頼関係を構築しながら、地域と協働で推進するための仕組みに基づき推進する。</p> <p>自治会加入のメリット等を周知するとともに、補助金の申請手続の電子化等負担を減らす取組を検討する。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>地域自治の担い手不足に対応するための今後の施策展開としては、短期的には事務負担軽減のためにデジタル化を進めることとし、中長期的には地域のことが自分事になるように、まちづくり協議会、自治会、市民団体等と連携して取組を進めていく。</p>		

施策評価表

施策分野	1-1 市民自治・協働	
めざすまちの姿	<p>○一人ひとりがやりたいことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。</p> <p>○協働の理解や取組が更に広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。</p>	
施策	(2) 様々な市民活動の充実	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○様々な分野における市民活動の充実に向け、コミュニティビジネスなどの育成や支援に取り組めます</p> <p>○市民の広域的な活動や地域課題を解決する活動などを支援し、活動を促進します</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	市民活動促進支援事業	きずなづくり推進事業

実施した主な内容	<p>NPOの起業・運営相談支援184件、コミュニティ・ビジネス育成等支援160件、ICT支援業務98件を実施した。また、まちづくり協議会ホームページのポータルサイトを運営し、まちづくり協議会のブログによる情報発信の支援を行い、ページアクセス数は、昨年度比1.36倍の301,594件であった。また、きずなづくり推進事業補助金について募集し、提案内容をきずなづくり推進事業審査会で書類審査及びプレゼンテーションによる審査を行った。提案事業数15件に対し、自由提案型7件、行政提案型7件の計14件を採択し、市が事業費の一部を補助した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性	
		市内のNPO法人数									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		団体	111	目標	113	114	100	94	94	94	
				実績	105	100	94				
	達成状況とその理由	令和6年度新規設立は2件あったが、解散・所轄庁変更で8件減少し、目標達成には至らなかった。									
	②	指標名								めざす方向性	
		きずなづくり推進事業提案事業数									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		件	-	目標	11	12	13	14	15	16	
				実績	9	14	15				
	達成状況とその理由	コロナ禍が収束して日が経ち、多くの市民活動が活発に行われた結果、目標を達成した。									
	③	指標名								めざす方向性	
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
実績											
達成状況とその理由											
④	指標名								めざす方向性		
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
			目標								
			実績								
達成状況とその理由											

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①は解散したNPO法人があり目標値を達成しなかったが、指標②は目標値を達成することができたためB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>多様化、複雑化する地域課題に対応していくため、市民活動が充実する必要があるが、市内のNPO法人数は前年度に比べて6団体減少し、目標値を達成することができなかった。市民活動等相談・助言件数は増加しており、市民が気軽に相談できる体制を維持する必要がある。</p> <p>市民の広域的な活動や地域課題を解決する活動を支援するため、きずなづくり推進事業補助金について市民活動を行う団体にとってよりわかりやすく、使いやすい制度へ見直すとともに、オンライン申請を取り入れ、申請時に窓口に来なければいけない煩わしさの軽減を図る。</p> <p>きずなの家認定団体が補助終了後も事業継続されるよう関係部及び関係機関と連携して取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	1-1 市民自治・協働	
めざすまちの姿	<p>○一人ひとりがやりたいことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。</p> <p>○協働の理解や取組が更に広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。</p>	
施策	(3) 市民と行政の協働の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○「協働の指針」の周知及び活用を図り、協働を更に推進します</p> <p>○協働型事業の推進と検証に努めるとともに、更なる拡大を目指す新たな仕組みを構築します</p> <p>○活動の担い手の発掘・育成の支援とつながりづくりに取り組みます</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	市民協働推進事業	

実施した主な内容	<p>協働のまちづくり推進会議にて審議し、つながりカフェの実施、協働の事例集の更新に着手した。また、地域活動きずな研修を実施した他、職員研修会を計4回（協働の取組推進担当次長対象2回、地域活動きずな研修受講職員対象2回）開催し、協働についての意識醸成を図った。</p> <p>市制70周年記念事業の一環として、市制70周年記念市民活動支援補助金を70の市民活動団体に交付し、市民と市の協働のまちづくりを推進した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「協働の取組への意向を持っている」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	12.9(H30)	目標	17.7	20.1	22.5	25	27.4	29.8
				実績	19.3	27.3	27.3			
	達成状況とその理由	令和5年度の市民アンケート調査において、「協働の取組への意向を持っている」割合が27.3%であり目標を達成した。（令和6年度は実施なし）								
	②	指標名								めざす方向性
		地域やNPOと行政との協働事業数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	-	目標	645	660	675	690	705	720
				実績	615	639	754			
	達成状況とその理由	後援・共催事業の増加、包括連携先との新規事例の増加により目標を達成した。								
	③	指標名								めざす方向性
		きずなづくり推進事業提案事業数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	0	目標	11	12	13	14	15	16
			実績	9	14	15				
達成状況とその理由	コロナ禍が収束して日が経ち、多くの市民活動が活発に行われた結果、目標を達成した。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①②③の全ての目標値を達成したため、A評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>地域活動の担い手不足が大きな課題である中、協働のまちづくり推進会議において、協働のまちづくり推進条例や協働のマニュアルの検証等を通して、協働が実際にどのように進んでいるかを把握するとともに、地域で活動している人同士の交流の機会を設けるなど、時代の変化にも対応しながら地域活動の担い手の発掘・育成の支援とつながりづくりに取り組んでいく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	1-2 人権・男女共同参画	
めざすまちの姿	○すべての人の人権が尊重され、平和の下で、誰もがありのままに自分らしく生きている。	
施策	(1) すべての人の人権が尊重されるまちづくりの推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○部落差別をはじめとする様々な差別解消に向けて、あらゆる施策を人権尊重の視点に立って進めます ○地域や学校など様々な場における人権教育及び啓発を推進します ○市民と行政の協働により人権教育及び啓発を進めます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	くらんど人権文化センター管理運営事業	まいたに人権文化センター管理運営事業
	ひらい人権文化センター管理運営事業	人権啓発総務事業
	人権啓発推進事業	人権文化センター総務事業

実施した主な内容	憲法週間記念事業講演会、心のふれあう市民のつどい、人権を考える市民のつどい、性的マイノリティに関する講演会、ブロック別市民のつどい、各種定例講座、解放文化祭、人権学習会などを実施した。 また、SNSを活用した情報発信、公共交通機関での啓発ポスター掲示、法務局や人権擁護委員と連携した人権相談の実施や街頭啓発など、市民や職員の人権意識向上に取り組んだ。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		人権啓発事業における定員充足率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	73.8(R4)	目標	70	75	80	85		
				実績	73.8	70.5	75.4			
	達成状況とその理由									
	②	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>人権啓発事業を実施した際の定員充足率は目標値に届かなかったものの、昨年度と比較して約5ポイント伸びていることから、実施内容の充実をさらに検討しながら、様々な方が参加出来るような事業となるよう継続的に取り組んでいける土壌があると判断できる。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>人権啓発については、初めて啓発に触れる人やこれまで学びがある人など、様々な人が同じ事業に参加する機会が多い。どの人々にとっても新たな学びがあるよう、また時代に即したテーマとなるよう、日ごろから人権を取り巻く社会的な変化を捉えておく必要がある。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>「何をどう市民の活動に結びつけたいのか」などを目標に設定することで、指標にも工夫の余地が生まれると考えられるので、検討すべきである。 相談については、「悩みごと相談の傾向が過去から見て現在どうなっているか、今後、何を目指していくか」の検討が必要である。</p>		

施策評価表

施策分野	1-2 人権・男女共同参画	
めざすまちの姿	○すべての人の人権が尊重され、平和の下で、誰もがありのままに自分らしく生きている。	
施策	(2) 戦争や核兵器のない平和な社会の実現	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○市民と行政の協働による平和事業に取り組みます	
--------	-------------------------	--

施策を構成する主な事務事業	戦没者追悼式関係事業	非核平和都市推進事業

実施した主要内容	日本非核宣言自治体協議会設立40周年記念講演会、毎年実施しているピースウォーク、原爆忌・終戦記念日の黙とう、平和映画会などにより、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の尊さについての意識向上を図った。令和6年度には市制70周年記念事業の一環として平和モニュメント「火の鳥」タイムカプセル開封・収納セレモニーも実施した。
----------	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		平和映画会の30歳代以下の参加者の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	14.1	目標	-	20	21	22	23	24
				実績	-	18	14			
	達成状況とその理由									
	②	指標名								めざす方向性
										↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
			-	目標						
				実績						
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	市制70周年記念事業の一環ではあったが、日本非核宣言自治体協議会設立40周年記念講演会や火の鳥タイムカプセル開封・収納セレモニーは新聞やテレビにて報道されるなど、情報発信や啓発の観点で有意義であった。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	一過性のイベントにとどまることなく継続的・永続的に平和に関するメッセージを発信するためには、映画による啓発など引き続き次世代にも分かりやすい形で伝えていく必要がある。内容については30歳代以下の参加者により強くアピールするようなテーマを平和事業検討委員会などで検討していく。子どもたちの平和絵画コンテストの応募数が低下しており、周知方法などさらに工夫する必要がある。		
総合評価	第二次世界大戦や原爆被害という側面からの啓発も引き続き大切であるが、「なぜ戦争が起こるのか」という根本的な問題にメスを入れ、昨今世界で起きている戦争の話の方が身近に感じるような若者にとっても自分事としてもらえるような取組を検討すべきである。		

施策評価表

施策分野	1-2 人権・男女共同参画	
めざすまちの姿	○すべての人の人権が尊重され、平和の下で、誰もがありのままに自分らしく生きている。	
施策	(3) すべての人が性別にとらわれず、自分らしく暮らせるまちづくりの推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○すべての施策を男女共同参画の視点に立って進めます ○男女共同参画社会実現に向けた教育及び啓発を推進します ○あらゆる場への女性の参画を進めます ○女性への暴力の根絶とDVを許さない社会づくりを進めます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	男女共同参画センター管理運営事業	男女共同参画施策推進事業
	DV対策推進事業	

実施した主な内容	男女共同参画基礎講座、男性セミナー、女性のための相談、男女共同参画に係る市民活動支援、男女共同参画プランの進捗管理、DV相談、デートDV予防教室、男女共同参画の視点に立った防災セミナー、男女共同参画リーダー研修。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		男女共同参画センターの利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	37343(R4)	目標	55500	55500	55000	55000		
				実績	37343	38408	41123			
	達成状況とその理由									
	②	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		法律及び条例設置の附属機関に占める女性の参画率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	35.4	目標	40	45	45	50		
			実績	36.7	37.5	38.3				
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>目標値には及ばなかったが、男女共同参画センターの利用者数は増加傾向にある。また、男女共同参画プラン推進フォーラムへの若年層の参加が多いことなどから、市民の意識の高まりを引き続き感じている。各種相談では定員が埋まるなど、実社会においても本事業が掘り所して機能していると感じる。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>人権啓発事業と同じく、男女共同参画に関する事業についても社会的な変化、個々人が抱える悩みなどを的確に捉えて、課題や問題に即した事業を展開していく必要がある。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>指標については実効性のあるものが望ましい。 男性職員の育児休暇取得率だけでなく、家事参加時間なども指標にできないか検討すべきである。</p>		

施策評価表

施策分野	1-3 開かれた市政	
めざすまちの姿	○市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。 ○まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着を抱(いだ)く人が増えている。	
施策	(1) 市民との情報共有の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○発信する情報の量と内容の充実に努めます ○各種広報媒体を活用し、すべての市民に必要な情報を的確に伝えます ○行政情報の積極的な公開と、ビッグデータ・オープンデータの利活用を推進します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	情報公開及び個人情報保護事業	広報事業
	コミュニティー・FM放送事業	

実施した主な内容	ホームページのページ数削減など各媒体の改善に取り組んだ。また、広報基本戦略に基づく取組を着実に進めるため、全職員対象の研修を実施した。オープンデータについては、可視化ツールを使ってグラフ化したり、ダッシュボード化する取組を行っている。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市政の情報提供が「十分できている」「できている」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	30.9(H30)	目標	-	40	60	65		
				実績	-	58.6	-			
	達成状況とその理由									
	②	指標名								めざす方向性
		情報を受け取る手段として「市ホームページ」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	23.3(H30)	目標	-	37	42	47		
				実績	-	34.3	-			
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		市ホームページのオープンデータのページへのアクセス件数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	31,549(R1)	目標	40000	40000	30000	30000		
			実績	28346	22109	29167				
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	実績値は目標に届いていないが、広報基本戦略に基づき研修の実施、ホームページのページ数削減などを行い、広報力の向上や媒体の効果的活用に向けた取組を進めている。また、オープンデータを可視化ツールを使ってデータをグラフ化する取組を開始した。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報基本戦略に基づき、職員が目指すまちの姿を共有した上で、市の取組や地域の魅力を市民に伝え、理解してもらい、市民の信頼や共感を得て、参画と協働に基づく姿勢運営を実現していくため、広報力向上研修やアドバイス会議等、同戦略に示す具体的な施策の方向性に沿った取組を着実に進める。 ・ ホームページについては、定期的に不要なページの削除を行い、かつ、必要な情報にアクセスしやすく分かりやすくするための改善を図っている。加えて、令和7年度のシステム更新に向けて準備作業を行っていく。課題としては、他の媒体との連携による効果的な発信である。 ・ ビックデータの利活用については、データ分析を行う事ができる人材を育成する必要があるため、引き続きデータ利活用推進担当者を支援する。オープンデータについては、国が推奨するデータを市ホームページ上で公開しているが、市民にとって分かりやすいようデータをグラフ化したり、ダッシュボード化する取り組みを更に進めていく。 		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果指標のうち市政の情報提供が「十分できている」「できている」と回答した市民の割合は目標値を大幅に上回っており評価できる。 ・ 今後、重視してもらいたい視点は「広報」を包括的に考えること。市民とやりとりできるチャンネルは市の窓口も含めて考えるとかなり幅広い。情報がどう伝わっているか、どう伝えるかは財政再建と同じくらい重要な話である。現状の課題は広報課が全て主導していること。各部局の職員が広報マインドを持ち、全庁をあげて取り組んでいけるよう今後も取組を進めてほしい。その過程で「本市のブランディングにどうつなげるか」という点も含めて検討願いたい。 ・ 紙媒体の広報たからづかは、文字数を減らしてメッセージ性を強くすること。 ・ 様々な自治体がYouTubeチャンネルを始めており本市でも導入を検討願いたい。リッチなコンテンツではなく小さなコンテンツを沢山作る時代。作りこみに再生回数が比例するとは限らない。調査研究を進めてほしい。 ・ ホームページについては、これまでも不要なページの削減等に取り組んでいただいているが、引き続き、見やすく分かりやすいページの作成に各課協力しながら取り組んでほしい。 ・ オープンデータ化は今後の課題。現時点での情報量に不足はないか等、検証が必要である。 		

施策評価表

施策分野	1-3 開かれた市政	
めざすまちの姿	○市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。 ○まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着を抱(いだ)く人が増えている。	
施策	(2) 市民との交流と対話の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○ICTの活用など、市民の意見を聴く機会や仕組みの充実を図ります ○交流と対話、参画の場の充実に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	広聴事業	パブリック・コメント事業

実施した主要内容	法律相談を年間155回(原則週3回+第1火曜日)、家庭問題相談を年間35回(木曜日)など専門家による各種相談を実施した。 市民からの意見等のうち、87件について市長から回答した。 ふれあいトークを年間50回実施し、市職員が直接市民と対話した。 また、パブリック・コメント審議会を4回開催(実施状況説明他1回、実施状況評価2回、答申書作成1回)し、令和5年度に実施した7件のパブリック・コメントについて検証を行った。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		ふれあいトーク(出前講座)の開催回数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	20	目標	30	40	40	45	45	45
				実績	41	27	50			
	達成状況とその理由	各団体へPR活動をしたことにより、開催回数が目標値を達成できた。								
	②	指標名								めざす方向性
		法律相談等開催回数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	-	目標	230	227	226	225	225	225
				実績	227	225	223			
	達成状況とその理由	法律相談は予定回数全て実施するなど、概ね例年通り実施した。								
	③	指標名								めざす方向性
		法律相談利用者アンケートの満足度								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%		目標	85	87	85	85	85	85
			実績	87	84	84				
達成状況とその理由	相談員が丁寧な回答に努めていただいたことにより、高い満足度を維持している。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>①について前年度より大きく増加し目標値を達成し、②③についても概ね例年通り実施できたため。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>法律相談の利用率は例年80%を超えており、利用者アンケートによる満足度も高い。一方で、相談日の相談枠数が限られており、同日に申し込みが偏る場合がある。その際には、別日での案内や県などの無料法律相談窓口を案内することにより対応していく。 ふれあいトークは、各団体へのPRなどにより開催回数が増えた。今後も様々な方法によりPRを継続し、より多くの市民に市政の説明を行う。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	1-3 開かれた市政	
めざすまちの姿	○市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。 ○まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着を抱(いだ)く人が増えている。	
施策	(3) まちの魅力の効果的な発信	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○まちへの関心や愛着を高めるようなまちの情報や魅力を広く発信します ○市民や事業者と共に効果的なPRに取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	市民表彰等事業	市制70周年記念事業

実施した主要内容	市民からInstagramで寄せられた情報を広報誌で紹介する等、媒体の特性を生かしたまちの魅力発信に取り組んだ。 宝塚市制70周年記念事業基本方針に基づき、市制70周年記念式典をはじめ各事業を実施した。 ふるさと納税の新しい返礼品の提案を行い、体験型返礼品の開拓に取り組んだ。現地決裁型のふるさと納税にも取り組み、より多くの寄附につながるよう取り組んだ。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		ふるさと納税の件数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	3410	目標	6300	6550	6800	7050		
				実績	7527	8329	7908			
	達成状況とその理由									
	②	指標名								めざす方向性
		「宝塚市に愛着を感じている」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	63	66	69	72		
				実績	-	82.6	-			
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	ふるさと納税については、人気である宝塚歌劇の公演チケットに加え、現地決裁型のふるさと納税にも取り組み、より多くの寄附につながるよう取り組みが目標値をクリアしたものの昨年度より減少する結果となった。 SNS利用等の様々な広報媒体の活用等、効果的な情報発信の取組が、市に愛着を感じる市民の増にもつながっていると考える。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	ふるさと納税については、全国的に制度の認知度が高まっていることもあり、市民が他自治体へふるさと納税する額も増加している。今後もPRや新たな体験型等の返礼品を増やすなど、新たな返礼品の開拓と人気商品の継続により増収を目指す必要がある。 宝塚歌劇のまちとして知られる強みを生かしながら、多様なまちの魅力と市の取組に関する情報を、市内外に効果的に発信していく。広報基本戦略に基づく取組を着実に進めることにより、全庁職員のマインドを高め、求められる情報や各施策の特徴、まちの魅力が分かりやすい広報を目指す。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策を構成する主な事務事業の一つに市民表彰等事業がある。令和6年度においては、市民活動を行った600近い個人や団体を表彰し、市制70周年の機運醸成につなげたことは評価できるが、今後も功労者表彰が必要かは検討願いたい。 ・ シビックプライドはいずれかのタイミングで整理が必要であると考え。地域ごとに考えるのか、世代ごとに考えるのか、検討を進めていくべきである。 ・ 政策についてというよりは、市民がどう考えているかを知る上でアンケートは一定必要だ考える。現在は成果指標の一つに「市に愛着を感じていると回答した市民の割合」が設定されているが、市民意識調査等への回答率を成果指標とする案も検討願いたい。アンケートは回答してもらうことがまず第一のハードルであり、愛着であろうと不満であろうと、回答率が高いことそのものが成果とも言える。 ・ ふるさと納税については、都市部では寄附額より流出額が多い傾向にあり本市も同様である。そこで、寄附件数を成果指標とするのではなく、寄附額と流出額の差を成果指標とする案も検討すべきである。 		

施策評価表

施策分野	1-4 情報化	
めざすまちの姿	○ICTの活用によるスマート自治体の推進により、行政事務が効率化するとともに、市民の利便性が向上している。	
施策	(1) 誰もが利便性、サービス向上を実感できるデジタル行政の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○行政手続がデジタル上で完了する基盤を整備します ○高度なICTを活用し、教育、福祉などあらゆる分野で質の高い市民サービスを目指します ○システムの安定運用と個人情報の保護・情報セキュリティ対策の強化を進めます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	社会保障・税番号制度個人番号カード交付事業	電子自治体化推進事業

実施した主要内容	マイナンバーカードの交付については、市内の介護施設等において出張申請受付を実施し、コンビニ交付についても引き続き広報活動を行い交付率の向上に努めた。また、チャットボットシステムについては、定額減税に関するQ&Aを準備して、繁忙期における事務軽減に取り組み、行政手続のオンライン化については、対象手続の拡充を図り、粗大ごみの収集・持ち込みの申込等のオンライン化を行った。加えて、インターネットの脅威から市の重要な情報を守るために三層に分離したネットワークの運用を行うなどの対策を実施した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		マイナンバーカード交付率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		率	30.72	目標	100	100	100	100	100	100
				実績	68.8	79.7	88.1			
	達成状況とその理由	交付率88.1%となっている。マイナポイント事業の実施でカードは急速に普及したが、カードの更なる普及や利用の定着などが課題である。								
	②	指標名								めざす方向性
		申請手続のオンライン化率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		率	-	目標	12	30	60	100	100	100
				実績	20	38	82			
	達成状況とその理由	粗大ごみの収集・持ち込みの申込などのオンライン化を行ったため。								
	③	指標名								めざす方向性
		チャットボットの年間アクセス数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	-	目標	5400	16200	22000	22000	22000	22000
			実績	4158	21812	21476				
達成状況とその理由	令和6年度は新型コロナワクチンにかかる自治体業務の終了に伴い、当該業務に関する問い合わせが減少したため(704件⇒56件)。									
④	指標名								めざす方向性	
	コンピュータウィルス感染による障害件数								→	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	件	0	目標	0	0	0	0	0	0	
			実績	0	0	0				
達成状況とその理由	三層に分離したネットワークの運用および最新のウィルス対策ソフトの適用などにより、コンピュータウィルス感染による障害は発生しなかった。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①および③については、目標値に届かなかったものの「めざす方向性」に向かって進捗していること、また、指標②および指標④については、目標を達成したため。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指標①については、マイナンバーカードの交付率100%を達成するために引き続き広報の強化や市内各所での申請サポートなどを通して普及促進を図っていく。 ・指標②については、業務に精通する人材不足やシステム連携などに課題があるため、庁内検討において情報共有を行うなど、より推進を図っていく。 ・指標③については、引き続き取り組んでいく。 ・指標④についても、引き続き対策を継続していく。ただし、物価高騰や人件費上昇の影響から、セキュリティ対策にかかる費用の増加は避けられないものと考えられる。 		
<p>総合評価</p>	<p>標準化の取組を着実に進めるとともに、申請手続きのオンライン化など、利便性向上を図ること。マイナンバーカードについても、引き続き普及促進を図ること。</p>		

施策評価表

施策分野	1-4 情報化	
めざすまちの姿	○ICTの活用によるスマート自治体の推進により、行政事務が効率化するとともに、市民の利便性が向上している。	
施策	(2) デジタルシフトによる効率的な行政事務の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○職員が最大のパフォーマンスを発揮できるICT環境を整備します ○定型、繰り返し業務の徹底的な自動化を進めます ○業務情報のデータ化とエビデンスに基づく政策立案（EBPM）の推進に向けた環境整備に取り組みます ○ICT活用人材の育成に取り組みます ○自治体間の共同システムの利用を推進します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	情報ネットワークシステム管理事業	

実施した主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ログチャットシステムやweb会議、在宅勤務が可能となる環境の整備など、ICT環境の整備を行った。 ・従来から取り組んでいるRPAに加え、ノーコードツールやAI-OCRの取組を進め、業務効率化や各種手続のオンライン化等による市民サービスの向上に取り組んだ。 ・データ利活用やBPRにかかる研修を行うとともに、データ利活用を推進するチームや業務改革を推進するワーキンググループを軸に人材育成や各取組の庁内への波及に向けた発信等を行った。 	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		ICTの活用による定型・繰り返し業務や非効率業務の削減時間								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		時間数	1906	目標	22000	25000	91035	91335	91635	91935
				実績	79398	89895	98321			
	達成状況とその理由	RPA等により10,997時間、web会議により2,549時間、ログチャットシステム導入により83,701時間、AIチャットボット導入により1,074時間を削減することができたものと考えている。								
	②	指標名								めざす方向性
		データ分析に基づき新規事業の立案や既存事業の見直しを実施された件数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件数	-	目標	0	2	2	0	0	0
				実績	0	2	2			
	達成状況とその理由	令和5年度に分析した2事業（介護保険課、クリーンセンター業務課）の分析結果について施策の改善や検討材料として活用した。								
	③	指標名								めざす方向性
		ICT活用人材の育成研修の実施								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		受講延べ人数	-	目標	880	540	0	0	0	0
実績				732	359	251				
達成状況とその理由	ICT活用人材の育成については委託事業が終了したため令和6年度以降の目標値を設定していないが、CX0補佐官や職員によるICT関連の研修を実施し、延べ251人が受講した。									
④	指標名								めざす方向性	
	オープンデータ等を分かりやすく可視化したダッシュボードの掲載数								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	個	0	目標	-	-	2	4	6	10	
			実績	-	-	6				
達成状況とその理由	人口動態、地域カルテ、予算や決算に関するダッシュボードを公開した。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①は目標値を達成し、指標②および指標③についても継続して成果を上げているため。具体的には、EBPMの推進に向けた環境整備については、過年度データ分析をした2事業において、その結果を施策の改善や検討材料として活用した。また、ICT活用人材の育成については、委託事業が終了したため目標値を設定していないが、CXO補佐官や職員による研修を複数回実施し、継続的に研修を実施できる体制を構築した。加えて、自治体間の共同システムの利用推進については、令和4年度に共同導入したAIチャットボットを引き続き運用した。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>ノーコードツールや生成AIなどのデジタル技術は日々進化を遂げているため、市の業務に適した技術を取捨選択し、経費を抑えながら最大限の効果を出すことが重要と考えている。そのため、従前からの業務のやり方を見直し、職員は職員にしかできない業務にこれまで以上に携わることができるよう、業務改革やデータ利活用の取組をさらに進めていく。また、デジタル技術等を活用して業務課題を解決する人材が重要であることから、人材育成の取組にも注力していく。なお、自治体間の共同システムの利用推進については、AIチャットボットではQ&Aを更新する必要があるため、全庁に対して定期的な更新を呼び掛けていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	1-5 行財政経営	
めざすまちの姿	○人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、経営資源の適正な配分により、効率的・効果的な市民サービスが提供されている。	
施策	(1) 時代にふさわしい市民サービスの追求	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○自治体や民間などとの連携を進め、効率的・効果的で質の高い市民サービスを提供します ○業務改革を推進し、時代にふさわしい市民サービスを提供します ○公共施設マネジメントを推進します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	財産管理事業	自治体連携事業
	公共施設マネジメント推進事業	施設保全管理事業
	総合窓口化推進事業	行財政経営推進事業
	包括連携推進事業	企画調整事業

実施した主要内容	①窓口業務における「書かない窓口」の実施以降も、各種手続のオンライン化を進めた。 ②包括連携協定先との宝塚大会議を開催。連携に対する庁内の意識醸成も進み、取組を大きく増やした。 ③公共施設マネジメントについて、関係部署と連携しながら、議論及び検討を行い最適化方針の取組を進めた。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「時代にふさわしい市民サービスが提供されていると思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	53	55	58	60		
				実績	-	53.1	-			
	達成状況とその理由	令和5年度のアンケート調査結果は「十分できている」が3.6%、「できている」が8.0%、「普通」が41.5%である。								
	②	指標名								めざす方向性
		包括連携協定を締結している企業・大学との連携取組実績の総数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		取組	-	目標	20	23	50	55	60	65
				実績	44	52	80			
	達成状況とその理由	包括連携先との丁寧な対話を重ねることにより、本市との協働・共創に理解・協力が得られたことや庁内での意識醸成が進み、積極的に取り組んだため。(過去実績を踏まえ、目標値を上方修正している)								
	③	指標名								めざす方向性
		宝塚市公共施設(建物施設)保有量最適化方針に掲げる取組対象施設の取組完了施設数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		施設	2	目標	11	16	21	26		
			実績	6	6	8				
達成状況とその理由	保有量最適化方針の取組について関係部署とコミュニケーションを図った上で、公共施設マネジメント推進会議にて議論及び検討を行うことにより、目標値には届かなかったが2施設の取組が完了した。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>指標①は目標値に届かなかったものの、業務改革推進の観点からRPA等の活用により年間10,997時間（理論値）を創出し、職員が非定型業務に取り組むための環境を整えているため。</p> <p>指標②は目標値を達成した。</p> <p>指標③は目標値に届かなかったものの、目指す方向に進んでいる。目標値に届かなかったのは、施設利用者などの関係者との合意形成に時間を要していることが要因である。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>①人的資源（職員数）や財源、情報等といった経営資源に限られる中、これからの時代にふさわしい市民サービスを提供していくためには、デジタル技術の活用等によるDXの推進に向けた取組を進めていく。</p> <p>②連携取組の更なる広がり、深化を図って行くために、包括連携先と地域課題や目標を十分に共有していく。</p> <p>③最適化の推進には、最適化される施設サービスが、どのような施設サービスに変わるのかを示せるかが課題である。そのために、施設再編の基本的な考え方や各施設再編方針などを、公共施設マネジメント推進会議において議論し、意思決定を着実に進めていく。</p>		
総合評価	<p>DXについては、この3年間の取組後のテイクオフが非常に重要。標準化など整備してきたものを使って、どのように仕事をしていくか、仕事のあり方を考えるフェーズに入っている。職員の業務だけでなく、市民の利便性も意識すること。包括連携、宝塚大会議は、提携先を増やすのではなく取組の中身を重視するフェーズに移っていく。民間がやりたいことではなく、市として民間と連携すべきと考える分野での取組を能動的に進めていくこと。</p> <p>本庁舎周辺の空間資源や公共施設を最大限に活かすことは市として重要であり、武庫川兩岸の広域的な範囲で再編の方向性を検討することが必要であると考え。また、より適正な公共施設マネジメントにおける施策評価や事業評価のあり方についても検討する必要があると考え。</p>		

施策評価表

施策分野	1-5 行財政経営	
めざすまちの姿	○人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、経営資源の適正な配分により、効率的・効果的な市民サービスが提供されている。	
施策	(2) 時代の変化に対応できる職員の育成と組織体制の整備	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○協働を基本に問題解決を図る職員を育成します ○スマート自治体への転換に向けた取組を進めます ○機能的で連携の取れた組織体制を整備します ○職員のワーク・ライフ・バランス、働き方改革を推進します ○職員の意識や組織風土の改善に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	人事管理事業	総務事業
	人事管理事業	研修事業
	人事管理事業	

実施した主な内容	①組織体制整備 市立病院建替のため職員を増員。歳入増に取り組む専属チーム設置を検討 ②働き方改革の取組 これまでの週2日に加え月1回定時退勤の完全実施日を設定 ③協働の職員育成 採用4年目職員の政策づくり基本研修や、採用5、6年目職員の地域活動きずな研修を実施。次長級職員を20のまちづくり協議会担当としてまちづくり計画の取組などの助言や支援を行った。 ④職員意識改革 民間企業やデジタル庁への職員派遣とDXを推進、外部人材の活用としてCXO補佐官と弁護士職員に相談や1on1を実施、広報や生成AIの研究なども継続して実施 ⑤業務改革 業務改善の取組を表彰する制度として「業務改善アワード」を実施	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		電子決裁率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	47.89	目標	80	90	90	90	90	90
	達成状況とその理由	決裁率の低い部署に聞き取りを行い、利用を促進した。								
	②	指標名								めざす方向性
		男性職員の育児休業取得率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	22.5	25	27.5	85	85	85
	達成状況とその理由	出産を把握した際に、上司から育休制度の周知を図っていることや、グループウェアでPRをしている。特に令和6年度は前年度に取得しなかった職員がこの年度に取得した例が多数あったため。								
	③	指標名								めざす方向性
		研修受講満足度の平均値								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		ポイント	-	目標	3.7	3.8	3.9	4.3	4.3	4.3
	達成状況とその理由	令和6年度についても目標値を上回ることができた。受講後に実施しているアンケートを参考に、ニーズに合致した研修が実施できたものと考えられる。								
	④	指標名								めざす方向性
単位		現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>施策を構成する事務事業は順調に進捗しているが、設定している3つの指標だけでは、「時代の変化に対応できる職員の育成と組織体制の整備」がどう進捗しているか客観的に示せない。そのため、事務事業の総合的な進捗状況を加味しつつ、この3つの指標を基本に評価をする。①は目標は達成していないが、前年度の実績値を超えている。②と③は目標値を超えている。そのため、令和6年度の評価はBとする。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>職員の意識を変え、行動の変容を促し、時代に合った組織風土に変え、持続可能な人事・組織体制とすることは、取組が広範であり、中長期的で継続的に意識を醸成するような取組が必要である。そのため、客観的で数値的な成果を示す指標を設定することは難しい。</p> <p>労働生産人口の減少等に伴い、市の職員確保は徐々に難しくなっており、今度は職員数が縮小する想定の中で、これまでの行政サービスを維持出来るよう職員の育成、組織体制の整備、DXの推進などに取り組む必要がある。</p> <p>また、働き方の多様化により、中途の退職と採用が増えており、新卒を前提とした人材育成は改める必要がある。同様に、育児休暇の取得も男女で意識の差は縮まってきており、男女とも取得する前提で、人事配置や人事異動、代替措置などを検討することが必要となっている。</p> <p>働きやすい労働環境を整備するため、時差出勤やリモートワーク、時間外勤務縮減、ペーパーレスなどに取り組んでいるが、民間企業の取組も参考にしていく。</p>		
総合評価	<p>人事・給与・定員管理など課題は整理されており、その方向性で引き続き改革の取組を進めること。</p> <p>また、改革の取組は、外部への情報発信が非常に重要であるため、併せて注力すること。</p> <p>生成AIなど、デジタル技術が革新的な進化を遂げており、積極的な活用を図るためにも、現在実施している職員研修等を充実すべきである。</p>		

施策評価表

施策分野	1-5 行財政経営	
めざすまちの姿	○人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、経営資源の適正な配分により、効率的・効果的な市民サービスが提供されている。	
施策	(3) 将来の見える行財政経営の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○財政規律に基づき財政健全化を図り、将来にわたる責任ある行財政経営を推進します</p> <p>○施策の有効性や効果などについて可視化し、市民から信頼される効率的、効果的な行財政経営を推進します</p>	
施策を構成する主な事務事業	企画調整事業	
実施した主要内容	<p>○多様化・複雑化する市民ニーズに応え、市民サービスの維持や向上を図るため、事務事業見直しを行いました。事務事業見直しでは、事業の必要性や有効性の視点から、事務事業の廃止・縮小への検討を行うとともに、短期的・中期的な視点から改めて591事業の事務事業を点検し早急に対応できるものは早期に予算等に反映しました。</p> <p>○適正な賦課徴収を推進し、市税収入の確保を図った。</p>	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		実質単年度収支のプラスの維持								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		千円	1264877	目標	0以上	0以上	0以上	0以上		
				実績	15879	-825351	-420184			
	達成状況とその理由	R5年度に引き続き経常経費の増などにより、財政調整基金等の影響を考慮しない収支である実質単年度収支はマイナスとなった。引き続き持続可能な行財政経営の実現に取り組む。								
	②	指標名								めざす方向性
		経常収支比率								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	95.0%程度	95.0%程度	95.0%程度	95.0%程度		
				実績	93.7	95.8	96.9			
	達成状況とその理由	歳入において地方交付税等が増加した一方、歳出において人事院勧告に基づく人件費増や物価高騰による物件費の増、扶助費の増により目標値より指標が悪化した。								
	③	指標名								めざす方向性
		財政調整基金残高の標準財政規模に対する割合								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	12.5	目標	10%以上	10%以上	10%以上	10%以上		
			実績	16.2	14.3	13.0				
達成状況とその理由	予算の執行留保などの取組により、標準財政規模の10%である約48.7億円に対し財政調整基金残高は約63.1億円と指標は達成した。									
④	指標名								めざす方向性	
	市税現年度分収納率								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%	99.1	目標	99.2	99.3	99.3	99.4			
			実績	99.5	99.5	99.5				
達成状況とその理由	目標を上回る収納率を達成し、高水準で推移している。納税案内センターによる電話催告など早期に滞納整理に着手することにより、年度内の収納を確保することができた。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>歳入の根幹である市税においては、目標の収納率を達した。 市全体の経営状況を図る指数については、実質単年度収支のマイナス額は改善した一方、経常収支比率については前年度に比べ人件費・扶助費などの経常経費が増加したことなどにより悪化している。 このような状況の中、新体制のもと財政健全化に向けた取り組みを着実に進めていることから、当該評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>歳入の根幹である市税について、収納率は高水準で推移しており、翌年度繰越額も圧縮している。引き続き適正な課税を推進するとともに、収納においては期限内自主納付を基本としつつ、早期に滞納整理に着手して市税収入の確保に努める。また、税務分野においても各種事務の電子化が進んでおり、より一層効率的な事務の執行に努める。</p> <p>成果指標としている実質単年度収支や経常収支比率の目標数値を達成することは、持続可能な行財政経営実現の1つの目安である一方、目標数値達成のためには、一定の痛みも伴う変革は避けられず、迅速な意思決定と本市の状況を如何に市民の皆様が私事となってお理解いただけるように働きかけるかが重要であるため「市民と市長との対話」や「広報たからづか」などにより情報発信していくとともに、次年度予算編成に向けてしっかりと財政健全化に取り組んでいく。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市税の収納率は目標を上回り、県内順位も年々向上しているほか、滞納繰越額もここ数年で大幅に改善しており評価できる。今後も適切な課税や滞納繰越額の圧縮に引き続き取り組んでいくべきである。 ・実質単年度収支や経常収支比率については目標値を下回っており、依然として厳しい財政状況が続いていることから、聖域なき見直しを行い持続可能な行財政運営を早期に達成できるよう、引き続き全庁を上げて取り組むこと。 		

施策評価表

施策分野	2-1 危機管理・防災・消防	
めざすまちの姿	<p>○命や生活に関わる危機に市民と行政が共に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応を取れる体制が整っている。</p> <p>○地震や風水害、感染症に市民と行政が共に備え、地域で助け合う意識が高まることにより危機対応力が強化されている。</p> <p>○充実した消防・救急体制のもとで、安心して暮らしている。</p>	
施策	(1) 迅速・適切な危機管理体制づくり	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○危機管理施設の整備を推進します</p> <p>○危機管理体制を整えます</p> <p>○危機対応力の向上を図ります</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	水防対策事業	災害対策事業
	防災情報伝達事業	

実施した主要内容	<p>災害対策（警戒）本部を3回設置し、風水害及び南海トラフ地震臨時情報発表における対策にあたった他、備蓄食料や感染症対策物品を購入するとともに、その受け皿となる防災備蓄倉庫を更新し備蓄体制の強化を図った。</p> <p>避難情報の伝達のため防災行政無線や安心メール、SNSなど緊急時の伝達手段の訓練を実施した他、安心メールやコスモキャストの新規登録の啓発を図った。</p> <p>また、図上訓練や市民参加型の避難所体験会、シェイクアウト訓練などの総合防災訓練を実施した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		安心メール登録者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件数	33031	目標	35400	36600	37800	39000	40200	
				実績	41376	44004	45267			
	達成状況とその理由	新規登録の促進を行った結果、順調に登録者数が増加し、目標値の達成につながった。								
	②	指標名								めざす方向性
		「緊急時の避難所を知っている」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	83.9	目標	0	80	0	80	0	
				実績	0	78.9	-			
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		全庁における危機管理対応マニュアル作成率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	94	目標	100	100	100	100	100	
			実績	94	94	100				
達成状況とその理由	全庁に働きかけ、目標値の達成につながった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	指標①、③は目標を上回り、指標②は市民アンケートごとに計測する指標であり、令和6年度の実績が把握できないものの、年間の市民からの防災出前講座の要請件数が従前と比較し非常に増加しており、市民の防災に対する関心が高いことが実感できるためAとするもの
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	本市の災害危機対応を行政側と市民側（地域）の双方において高めていかなければならない。行政側においては、防災情報システムや各種マニュアルに基づく訓練及び研修を行い、職員の災害対応力の向上を図る必要がある。 昨年は、元旦に発生した令和6年能登半島地震や8月には南海トラフ地震臨時情報が初めて発表され、今後30年以内の発生確率も80%に上昇するなど市民の防災意識が一気に高まっている。この機会を逸さずに市民への防災に関する啓発や情報発信は出前講座をはじめ、安心メールや各種SNSにより引き続き積極的な広報に努める。		
総合評価	備蓄物資の保管については、保管スペース不足が全国的な課題であると認識され、本市においても有効な対応策の検討が必要であると考ええる。スギ薬局との協定締結を視野に協議を進めていることは一定の成果であるが、必ずしも特定の事業者に限定せず、双方に利益が生じる形での連携を模索することが重要である。特に期限付き物資の管理については、民間事業者によるストック活用が効率的であると考えられ、協定の枠組みを最大限活用した仕組みづくりの検討が必要である。		

施策評価表

施策分野	2-1 危機管理・防災・消防	
めざすまちの姿	<p>○命や生活に関わる危機に市民と行政が共に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応を取れる体制が整っている。</p> <p>○地震や風水害、感染症に市民と行政が共に備え、地域で助け合う意識が高まることにより危機対応力が強化されている。</p> <p>○充実した消防・救急体制のもとで、安心して暮らしている。</p>	
施策	(2) 自助・共助の体制づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○防災活動に携わる様々な団体と共に地域防災力の向上と感染症への備えを推進します</p> <p>○災害時要援護者の支援体制を整えます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	災害時要援護者支援事業	地域防災力アップ事業

実施した主要内容	<p>自助・共助の体制づくりを進める地区防災計画の策定により地域防災力向上を図ることができた他、防災出前講座や防災アドバイザー派遣、地域防災訓練などを通じて防災減災の取組を推進することができた。</p> <p>災害時要援護者避難支援制度については、出前講座など地域への制度説明を積極的に行い啓発に取り組んだ。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性	
		「日ごろから災害に対する備えをしている」と回答した市民の割合									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	48.9	目標	0	50	0	50	0		
				実績	-	47.7	-				
	達成状況とその理由										
	②	指標名								めざす方向性	
		災害時要援護者避難支援組織数									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		組織	-	目標	51	52	53	54	55		
				実績	52	55	58				
	達成状況とその理由	市民に対する説明会の開催等により、支援組織の立ち上げについて周知し、目標を達成した。									
	③	指標名								めざす方向性	
		地区防災計画作成数（小学校区単位）									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		地区	6	目標	8	9	12	13	14		
			実績	8	11	13					
達成状況とその理由	安倉地区まちづくり協議会（安倉小及び安倉北小）で地区防災計画が作成され、目標を達成した。										
④	指標名								めざす方向性		
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
			目標								
			実績								
達成状況とその理由											

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標②、③は目標を上回り、指標①は市民アンケートごとに計測する指標であり、令和6年度の実績が把握できないものの、年間の市民からの防災出前講座の要請件数が従前と比較し非常に増加しており、市民の防災に対する関心が高いことが実感できるためAとするもの</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>災害時における自助・共助については、市民がその必要性を認識し、地域での取組につなげることが重要であり、その自助・共助の集大成ともいえる地区防災計画の策定をはじめ、地域の防災ニーズに応じた支援を推進していく。</p> <p>①防災、減災に対する市民意識の向上を図るための啓発、支援を継続して実施し、情報発信をしていく。</p> <p>②自助・共助の必要性について啓発し、平常時での地域での見守りにつながるよう支援していく。</p> <p>③各まちづくり協議会での地区防災計画の策定支援に取り組んでいく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>県がキッチンカー協定を締結した事例は有効な取組であり、広域的な連携を推進する上で参考になると考える。本市においても、県全体の枠組みを活用した広域的な連携体制を構築することが効果的であると考えます。</p> <p>そのため、災害時の物資供給や支援体制の実効性を高める観点から、広域的な協定の在り方について検討が必要である。</p>		

施策評価表

施策分野	2-1 危機管理・防災・消防	
めざすまちの姿	○命や生活に関わる危機に市民と行政が共に備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応を取れる体制が整っている。 ○地震や風水害、感染症に市民と行政が共に備え、地域で助け合う意識が高まることにより危機対応力が強化されている。 ○充実した消防・救急体制のもとで、安心して暮らしている。	
施策	(3) 消防・救急体制の充実	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○災害対応能力の充実に図り、市民生活の安全・安心を確保します ○消防力の充実に図ります ○防火安全対策を推進します ○消防団と自主防災組織を中心に、地域の消防防災体制の充実に図ります ○消防の連携・協力体制を強化します	
施策を構成する主な事務事業	消防指令業務共同運用事業	消防警防事業
	消防予防事業	消防救急事業
	非常備消防事業	消防救急デジタル無線整備事業
	消防車両整備事業	
実施した主要内容	・災害対応能力の充実に図り、市民生活の安全・安心を確保するため、常備消防車両整備計画に基づき老朽化した救急自動車 1 台を更新整備し、15m級はしご車のオーバーホールを実施した。 ・「めざすまちの姿」に向かって、救命講習の内容変更及び年齢層の拡充を図り、継続して救命講習を実施した。	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		救命講習受講者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	51	目標	10000	10000	10000	10000		
				実績	4283	4648	5316			
	達成状況とその理由	子育て世代の方が救命講習を受講できるよう保育士を配置した救命講習等、内容を重視する講習会としたため目標値に届かなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		出火率								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件/万人(年中)	-	目標	1.2	1.2	1.2	1.2		
				実績	1.2	-	-			
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		更新消防車両率								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	-	100	100	100	100	
			実績	-	100	100				
達成状況とその理由	常備消防車両整備計画に基づき救急自動車 1 台を更新整備し、15m級はしご車のオーバーホールを実施し、指標としている更新消防車両率の目標を達成した。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>成果指標の更新消防車両は、常備消防車両整備計画に基づき救急自動車 1 台を入札から制作・調達まで完了させ、15m級はしご車のオーバーホールも完了させて目標値を達成した。 救命講習受講者数は、子育て世代の方が救命講習を受講できるよう保育士を配置した救命講習を実施することで参加者の年齢層を拡充し、内容重視の講習会としたが目標値に届かなかった。しかし、救命講習を継続することで病院前救護体制の強化を図り「めざす方向性」に向かっているためA判定とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>○継続して救命講習を推進する中で、子育て世代の方が救命講習を受講できるよう保育士を配置した救命講習を実施するとともに子育てサークルなどに出向いて救命講習を実施していく。 ○消防力を充実させていく上で適切な消防車両の更新整備は必要不可欠である。市の財政状況を鑑みて、組織体制や災害発生傾向の変化を注視しながら事業を推進していく。 ○高齢化の進展とともに増加していく救急需要の適切な対応のため、救急隊員の労務軽減の対応策や救急自動車の適切な配置場所などの検証を継続して行い、結果に応じた対策を講じていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救命講習は、受講者数がコロナ前より減少しているため、目標値を見直すとともに、動画配信等による実施方法の拡充を検討する。 ・消防車両の更新は、近隣市との仕様統一化によるコスト削減の検討など、将来的な広域化に備える必要がある。 ・消防団については、女性団員の活動範囲の見直しなど、多様な人材活用を進める。 		

施策評価表

施策分野	2-2 防犯・交通安全	
めざすまちの姿	○犯罪や交通事故がなく、誰もが安全・安心に暮らしている。	
施策	(1) 防犯対策の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○防犯意識の啓発や防犯活動組織への支援など、地域の防犯力を高めます ○犯罪被害者等の総合的な支援に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	防犯事業	

実施した主な内容	主要幹線と生活道路が交差する箇所などを中心に市域全体を網羅する230台の防犯カメラ（安全・安心カメラ）により、犯罪の未然防止や市民の日常生活の安全を確保した。 特殊詐欺未然防止のため、市広報誌やHPへの掲載による注意喚起を行うとともに、庁内や青色防犯パトロール巡回時の放送で特殊詐欺に対する注意喚起や情報提供を行った。また、地域に向いて実施する防犯講習会の中で、特殊詐欺に対する啓発や宝塚警察署と合同で金融機関の店頭などで詐欺防止キャンペーンを実施した。さらに、特殊詐欺被害防止の啓発チラシを自治会等に回覧依頼、直接配布を実施した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		アトム防犯グループ数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		グループ	137	目標	139	140	141	142	143	144
				実績	139	140	140			
	達成状況とその理由	防犯講習会による啓発活動を努めるが、目標値を達成しなかった。一定の団体数に達したのと考えている。								
	②	指標名								めざす方向性
		防犯講習会参加者数（年間）								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	856	目標	1040	1040	1040	1040	1040	1040
				実績	1712	1888	1947			
	達成状況とその理由	市民の安全・安心への関心の高まりから目標値を達成した。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標②は市民の安全・安心への関心の高まりから目標値を達成したが、指標①は一定の団体数に達したと思われ目標値を達成しなかったことからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>市が設置する防犯カメラ（安全・安心カメラ）と地域が設置する補助カメラが互いの役割を担い連携し合うことで、相乗効果を発揮し、さらなる市域全体の防犯力向上が見込まれるため、補助カメラの設置促進を図る。 平成29年度以降に設置した防犯カメラのリース期間が令和5年度末に全て満了し、さらに令和7年度末に2年間の保証期間も終了することから、令和7年度に設置効果を検証し次期設置方針の検討に取り組む。 防犯講習会参加者数は増となったが、アトム防犯グループ数が一定の団体数に達したと思われるため、継続の必要性等を検討する。 特殊詐欺被害について、令和6年度に市内の65歳以上の高齢者に対して自動録音機能付電話機等の機器購入補助（兵庫県補助事業）を実施したが、発生件数は依然として多数に上っているため、引き続き宝塚警察署や宝塚防犯協会の取り組みに歩調を合わせ、市民全体の防犯意識の高揚を図る。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>防犯カメラの更新については、性能向上により現状台数の維持で十分対応可能であるとする。過度な設置は慎重であるべきであり、更新にあたってはネットワーク化や維持管理費の削減効果を重視する必要があるとする。技術革新の成熟を見極めながら、段階的かつ効率的に進めることが望ましく、設置効果の検証結果を踏まえ、次期更新方針について検討が必要であるとする。</p>		

施策評価表

施策分野	2-2 防犯・交通安全	
めざすまちの姿	○犯罪や交通事故がなく、誰もが安全・安心に暮らしている。	
施策	(2) 交通安全対策の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○交通安全意識の啓発を推進します ○交通危険箇所の安全対策を実施します ○駅周辺の快適な歩行空間を確保します	
施策を構成する主な事務事業	自転車対策事業	交通安全対策事業
	自転車対策事業_建物保全	
実施した主要内容	幼稚園、保育所、小学校、老人クラブ、地域等を対象とした交通安全教室、自転車教室、PTAを対象とした街頭交通指導講習、交通安全啓発を実施し、交通安全意識の向上と交通事故防止に向けた取り組みを推進した。 駅周辺の通行機能の維持、安全通行の確保及び環境悪化の防止を図るため、自転車等駐車場の管理運営及び放置自転車の撤去や啓発活動を行った。	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		交通安全教室・講習会・啓発活動参加者数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	5584	目標	10578	10578	10578	10578	10578	10578
				実績	10691	14828	8381			
	達成状況とその理由	大規模小学校での啓発活動回数が減となったため、目標値を達成しなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		放置自転車撤去台数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		台	649	目標	430	430	430	430	430	430
				実績	513	480	502			
	達成状況とその理由	各駅巡回指導実績回数が目標値を上回ったが令和5年度より減となり、さらに放置自転車撤去回数が増となったため、撤去台数が増となり目標値を達成しなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標①の活動回数は令和4年度とほぼ同数であったが、大規模小学校での活動が減となった影響で参加者数も減となった。指標②は令和4年度より減となった。指標①、②とも現状値（R2）と比較し大いに達成しているため、事業効果が発揮されていると考えB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	交通安全対策について、事故防止に向けた交通安全教室・講習会・啓発活動の継続的な取り組みが必要と考えており、今後も宝塚警察署や宝塚交通安全協会等と連携を取りながら、より効果的な手法を検討する。 自転車対策について、自転車等駐車場の管理運営を指定管理者（令和8年度まで）に委ねているが、令和7年度に次期管理運営の方針を検討する。さらに、老朽化する設備更新、修繕を適切に行う。		
総合評価	当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。		

施策評価表

施策分野	2-3 消費生活	
めざすまちの姿	○消費者トラブルの予防や対処に関する知識が広がり、自ら考え、行動する消費者が増えている。	
施策	(1) 世代や生活の場に応じた多様な消費者教育の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○市民や関係機関、市民団体、事業者等と連携・協働しながら、消費者教育や啓発を推進し、次世代の担い手を育成します ○消費生活相談機能を充実させます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	消費生活センター事業	消費生活相談事業
	消費者教育・啓発事業	

実施した主要内容	消費者トラブル等に関する出前講座を82回開催、延べ1,971人の市民が参加し、市民に向けた消費者教育に寄与した。また、啓発チラシなどを市民に向けて1,335,721枚配布し、消費啓発情報の広報に努めた。さらに、高齢者を対象に迷惑電話撃退機器を40台貸与し、トラブルの未然防止に努めた。 消費者相談については、相談員5名体制を維持し、年度を通して1,746件の電話相談や窓口相談に対応した。 また、計量特定市業務については、各種立入検査を4,060件実施し、消費者の安全・安心な暮らしが確保できるよう取り組んだ。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		消費生活講座などの参加人数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	951	目標	3500	3500	3500	3500	3500	3500
			実績	1199	1684	1971				
	達成状況とその理由	各種消費生活講座のうち、出前講座の実施要望が増加し、全体の講座の実施回数が増えた。それにより、参加人数も、目標値には達しなかったものの前年度比増となった。								
	②	指標名								めざす方向性
		高齢者向けの講座開催回数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	-	目標	-	4	4	4	4	4
			実績	-	3	2				
	達成状況とその理由	高齢者向けのスマホ講座を2回開催し、スマホに関する消費者トラブルの啓発を行った。他方で前年度実施した終活講座は対象を全世代に広げたことにより、高齢者向け講座の実績値が減となった。								
	③	指標名								めざす方向性
		若年層向けの出前講座開催回数（放課後児童クラブ含む）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	-	目標	-	65	65	65	65	65
		実績	-	55	50					
達成状況とその理由	若年層向けの出前講座として、夏休み放課後児童クラブの出前講座は増加したが、その他の若年層向け出前講座の依頼が減少したことにより前年度比減となった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>消費生活相談の相談内容は、近年、高度化かつ複雑化の傾向にあり、解決までに時間を要する案件が多くみられる。また、未成年による課金トラブルや高齢者の定期購入トラブルなど、消費者トラブルは幅広い年代で生じている。こうした状況に対応し、消費者自らがトラブルを未然に防止する「賢い消費者」となるよう、各種講座の開催や広報誌への掲載、啓発チラシの配布など、消費者教育と消費者トラブルに関する啓発の効果的な実施に努めたことは評価できる。一方で、前年度に比し、講座の実施回数及び参加人数は増加傾向にあるが、高齢者や若年層といった対象を絞った目標値の達成には至らなかったため、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>商取引のデジタル化や契約形態の複雑化が進み、毎年新たな消費者トラブルの事例が生じており、それらの情報や啓発等に関し、対象となる世代のトラブルの傾向を踏まえ、効果的に発信し、消費者自身がトラブルを未然に防ぐ取組が必要である。</p> <p>今後も引き続き、啓発チラシの手配りや配架し、幅広い世代で消費者教育の推進を実施していく。</p> <p>加えて、高齢者や若年層は消費者トラブルに巻き込まれやすい傾向にあるため、高齢者のインターネットやICT機器使用に関する消費者トラブルについての学習機会を積極的に設定するとともに、若年層には最新事例を紹介する出前講座を実施するなど、直接的に働きかけのできる啓発を行い、様々な消費者トラブルを未然防止に努める。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・消費者トラブルの防止については、様々な事例と対策を知っておくことが重要であるため、出前講座だけでなく多様なツールを用いて幅広い世代に継続して啓発を行っていく。</p>		

施策評価表

施策分野	2-4 土地利用	
めざすまちの姿	○人口減少、少子高齢社会に対応し、豊かな自然や文化など様々な特性を生かしつつ、都市機能を集積するなどコンパクトなまちづくりが進んでいる。	
施策	(1) 南部地域の持続可能な都市づくりの推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○地域特性を踏まえながら、駅周辺への多様な都市機能の誘導を推進します</p> <p>○住民主体のまちづくりを推進し、良好な住環境の維持・形成を図ります</p> <p>○自然緑地や都市緑地の保全・育成に努めます</p>	
施策を構成する主な事務事業	都市計画管理事業	都市計画支援システム事業
	都市計画推進事業	
実施した主要内容	<p>都市計画マスタープランなど都市計画にかかわる各計画や開発まちづくり条例に基づく事務事業を適正に実施しており、地区計画や開発構想届などの届出事務により、規制等の徹底を図っている。</p> <p>また、地区計画や地区整備計画の決定に向けて、大規模開発の事業者や地域住民との協議を重ねている。</p> <p>さらに、都市計画情報を効率的かつ正確に管理し提供するため、システム更新や地図修正も行った。</p>	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市街化区域の面積								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		h a	2605	目標	2605	2605	2605	2605	2605	2605
				実績	2605	2605	2605			
	達成状況とその理由	達成 市街化区域の面積を現状のとおり維持している。								
	②	指標名								めざす方向性
		地区計画等の決定地区数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		地区	-	目標	1	1	1	1	1	1
				実績	2	2	0			
	達成状況とその理由	未達成 大規模開発の事業者や地域住民との協議を進め、令和7年度は2地区において決定見込み。								
	③	指標名								めざす方向性
		地区まちづくりルール認定地区数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		地区	9	目標	9	9	9	9	9	9
			実績	9	9	9				
達成状況とその理由	達成 地区まちづくり活動団体とともに、ルールの適正な運用を図った。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①および③については、目標値を達成している。指標②については、目標値を達成していないが、地区計画や地区整備計画について大規模開発の事業者や地域住民との協議を重ねており、次年度中に2件を決定する見込みであることから、概ね目指す方向性に向かっておりB評価とした。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>引き続き届出事務等を適正に実施して、都市計画の規制等の徹底を図っていく必要がある。さらに、都市機能を維持するための人口密度の維持及び人口の規模や構成に応じた市街地の形成が課題であり、都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づき、人が中心となった持続可能なまちづくりを推進していく。</p> <p>また、住民が主体となるまちづくりの制度として、地区計画や地区まちづくりルールがあり、今後も必要であると考えているが、まちづくり活動団体については高齢化が進んでおり、世代交代が課題となっている。このような中、まちづくり団体との情報共有を図りつつ、活動が継続できるよう取り組んでいく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、概ね順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p> <p>また、市、企業や地域団体が連携してエリアマネジメントを構築していくことは、持続可能性のあるまちづくりの手法として有効であるとする。</p>		

施策評価表

施策分野	2-4 土地利用	
めざすまちの姿	○人口減少、少子高齢社会に対応し、豊かな自然や文化など様々な特性を生かしつつ、都市機能を集積するなどコンパクトなまちづくりが進んでいる。	
施策	(2) 北部地域の活性化に向けたまちづくりの推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○自然環境と田園環境の保全に努めます ○地域資源を生かした魅力的なまちづくりを推進します ○住民主体のまちづくりを推進し、集落環境の維持に努めます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	北部振興企画事業	農業用施設改修事業
	里山フェスタ2024実施事業	

実施した主要内容
 北部振興企画事業については、移住促進の取組として、地域住民と連携した空き家情報の発掘、地域情報の発信などを行うとともに、地域内外の交流から移住に繋げるための関係人口創出を目的とした取組を実施している。また、自治会長を対象に空き家所有者の相談に対応するための講座を開催し、空き家の発掘に向け取り組み、2024年度は2組の移住が実現した。農業用施設改修事業については、墓の裏池実施設計業務を完了した。(2025年度に改修工事実施予定)
 里山に親しみや理解を深め、育てる意識醸成を図る場として「ひょうご里山フェスタ2024」を県や県関係機関からなる実行委員会形式により開催した。当日は約3100人の来場者があった。

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市街化調整区域の面積								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		h a	7584	目標	7584	7584	7584	7584	7584	7584
				実績	7584	7584	7584			
	達成状況とその理由	市街化調整区域の面積を現状の通り維持している。								
	②	指標名								めざす方向性
		北部地域への移住相談延べ件数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	-	目標	20	40	70	100	130	160
				実績	28	42	52			
	達成状況とその理由	西谷地域に関心を持っていただくようWEBサイトでの発信に努めているものの、空き家情報の不足や移住希望者のニーズにあった家屋の提供ができないことから目標値を下回った。								
	③	指標名								めざす方向性
		農業用ため池定期点検								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		箇所	14	目標	29	0	15	0	30	0
			実績	29	0	15				
達成状況とその理由	専門技術者やため池管理者立会いの下、目標とする数値の点検を実施した。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>市街化調整区域の面積を現状の通り維持しており、目指す方向性に向かっている。 移住相談は継続して寄せられているが、移住相談者が希望する空き家の発掘に課題があり、移住に繋がりにくい が、意欲的に熱意を持って地域とともに取り組んだ。 また、ひょうご里山フェスタ2024の開催やため池改修に係る実施設計を終えるなど順調に推移していること からB評価とする。</p>
<p>施策を進 める上で の課題と それを踏 まえた今 後の取組</p>	<p>移住相談は継続して寄せられているが、希望にあう物件が見つからず、なかなか移住に結びつかない状況である。今後も地 域住民との協働により、地域情報の発信や空き家視察ツアー、移住のきっかけに繋がる関係人口の創出を目指した事業等 を実施するとともに空き家所有者向けのセミナーを開催することで地域の理解を深め、空き家の賃貸・売却が実現するよう取 り組む。 ため池の老朽化の進行や災害リスクが高まる中、安定した機能の運用が求められている。地域からの要望を踏まえ、防災減 災対策として定期点検結果に応じた対策に計画的に取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>西谷地域の活性化に関する施策は、交流人口や移住人口の観点に加え、今後、西谷地域に継続的に関わっていただく関係人 口創出の取組も行いながら、地域活性化の施策を展開していく必要がある。</p>		

施策評価表

施策分野	2-4 土地利用	
めざすまちの姿	○人口減少、少子高齢社会に対応し、豊かな自然や文化など様々な特性を生かしつつ、都市機能を集積するなどコンパクトなまちづくりが進んでいる。	
施策	(3) 地域の特性にあった良好なまちづくりの推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○多様な事業手法を活用して、地域と連携したまちづくりを進めます</p> <p>○既存都市施設を有効に活用し、まちの活性化を図ります</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	公益施設管理運営事業	ソリオ宝塚駐車場管理事業
	土地区画整理調査事業	公益施設管理運営事業_建物保全

実施した主要内容	<p>土地区画整理調査事業に関しては、宝塚安倉上池地区土地区画整理事業の施行者である組合に対する技術的支援を適切に行い、令和6年度末に事業を完了した。また、公益施設管理運営事業に関しては、指定管理者が公益施設において地域団体や企業と連携してイベントを実施し、駅前の施設を中心とした賑わいづくりに取り組んだ。さらに、公益施設の建物保全を図るため、計画通り修繕工事を完了した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		面的整備への支援による整備面積								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		h a	199.8	目標	199.8	199.8	209.3	209.3	209.3	209.3
				実績	199.8	199.8	209.3			
	達成状況とその理由	達成 宝塚安倉上池地区土地区画整理事業は、予定通り事業を完了した。								
	②	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		-	-	目標						
				実績						
	達成状況とその理由									
③	指標名								めざす方向性	
	公益施設（さらら仁川・ピピアめふ）で指定管理者が、地域団体や企業と連携した事業の実施回数								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	人	9	目標	24	24	24	24	24	24	
			実績	27	29	24				
達成状況とその理由	達成 実施につながらない事業があり昨年の実施回数は下回ったものの、目標値は達成することができた。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	<p>指標①については、施行者の組合に対する技術的支援を行いながら、予定通り事業を完了しており達成した。</p> <p>指標③についても、指定管理者が公益施設において地域団体や企業と連携してイベントを実施し、駅前地区の活性化が図られており、A評価とした。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>事業完了した宝塚安倉上池地区土地区画整理事業については、清算業務を遂行して令和7年度中の組合解散を目指す。</p> <p>公益施設管理運営事業については、地域団体や企業と連携してイベントを実施し、貸館利用人数も増えてきているが、施設利用者やイベント参加者のニーズを踏まえたサービスの提供や、イベントの企画について指定管理者と連携して取り組み、更なる貸館利用人数の向上を目指す。</p>		
総合評価	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	2-5 住宅・住環境	
めざすまちの姿	○良好な住宅を次の世代へつなぎ、誰もがずっと住み続けたいと思える魅力的な住環境が整っている。	
施策	(1) 住宅ストックの活用促進など良好な住環境の維持	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○空家の適正管理と活用の促進を図ります ○民間住宅や市営住宅の有効活用と適正な維持保全を推進し、良好な住環境を維持します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	住宅政策推進事業	空家等対策事業
	市営住宅管理事業	

実施した主要内容	管理不全な空家等の相談が185件あり、所有者に対し適切な管理を促した。特定空家等は催告物件1件が除却され、2件を指導中である。また、特定空家及び管理不全空家の認定に向けて、約30件の調査等を行った。 マンション管理に関するセミナー(2回)及び学習会(3回)、マンション管理アドバイザーの派遣(15件)を実施した。また、マンションの管理計画認定(12件)を行った。 市営住宅の入居者募集や家賃等徴収を円滑に進め、安定した住宅管理業務を推進した。また、上期から子育て世帯・若者夫婦世帯を対象とした優遇措置を、下期から若年単身世帯を対象とした募集を行った。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		空き家バンクの登録件数(累計)								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	4	目標	10	15	20	25	30	0
	達成状況とその理由	所有者へ管理を促す通知文に同封したチラシや電話連絡等により制度の案内を行ったが、登録には至らなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		マンション管理アドバイザーの派遣実施件数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	5	目標	10	15	15	15	15	15
	達成状況とその理由	セミナー・学習会での案内やDMの送付、広報誌等の方法で周知を行うなどの啓発に取り組み、目標を達成した。								
	③	指標名								めざす方向性
		市営住宅(政策空家を除く)の入居率								→
単位		現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
%		93	目標	93	93	93	93	93	93	
達成状況とその理由	上期から子育て世帯・若者夫婦世帯を対象とした優遇措置を、下期から若年単身世帯を対象とした募集を行ったが、直近の退去者が例年に比べて多かったため入居率がやや減少した。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>成果指標①については空家の所有者に対して働きかけを行ったが空家バンクの登録には結びつかず、目標を下回った一方で、成果指標②については様々な方法で啓発に努めた結果、多くのマンション管理組合の利用があり、目標を達成した。 成果指標③については直近の入居者募集(昨年11月)以降の退去者が例年に比べて多かったため、前年度に比べて入居率がやや減少したが、今後も概ね目標に近い入居率を維持していくため、次回(6月)以降の入居者募集を子育て世帯や若年単身世帯など市民のニーズに配慮しつつ適切に行う。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>空家等対策事業については、今後も人口減少や少子高齢化により空家の増加は避けられず、空家の適正管理について継続的な啓発が必要なことから、民間事業者等との連携による空家予備軍の方へのセミナーによる啓発を行うとともに、管理不全空家に対して特定空家化を未然に防止する取組を強化する。また、所有者不明となった空家について、民法に基づく管理制 度を利用するなどの取組を検討する必要がある。 住宅政策推進事業については、管理組合を対象にマンション管理アドバイザー（マンション管理士等）を派遣するなど、管理組合の状況に応じたマンションの管理適正化の支援を継続し、管理水準を押し上げるよう誘導していくとともに、管理計画認定制度の積極的な活用に向けて周知に努める。 市営住宅管理事業については、前年度に比べてやや減少したものの、概ね9割の入居率を維持しており、今後も適切な入居者募集を行いこれを維持していく。また、現年度家賃の徴収は約99%の収納率を維持しており、今後も指定管理者と連携しながら適切な家賃徴収に努める。また、特に居住の安定を図る必要がある者へ適切に住宅を供給できるよう定期借家制度を活用するなど、制度の見直し等を行いながら市営住宅の有効活用に取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>空家等対策事業については、相続人不在物件を優先した市費による対策は有効であると考え。ただし、市費負担の常態化はモラルハザードを招く可能性があり、実施基準の明確化について検討が必要であると考え。また、相続人が存在する危険物件への対応も課題であり、司法書士会との連携や阪神各市間での歩調を合わせた取組が有効であると考え。地域全体の戦略を見据え、法的整理や広域連携の在り方を踏まえた取組を進めることが重要であると考え。 市営住宅管理事業については、政策空家への対応等、今後も現在の事業方向性の通りに進めていく。</p>		

施策評価表

施策分野	2-5 住宅・住環境	
めざすまちの姿	○良好な住宅を次の世代へつなぎ、誰もがずっと住み続けたいと思える魅力的な住環境が整っている。	
施策	(2) 安心して住み続けられる住まいづくりの促進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○耐震診断や耐震改修の促進を図ります	
--------	--------------------	--

施策を構成する主な事務事業	簡易耐震診断推進事業	住宅耐震化促進事業

実施した主な内容	広報たからづか（広報臨時号を含む）や市ホームページへの掲載、市庁舎内でのパネル展示などの啓発活動を実施した。また、戸建住宅44棟、長屋1棟（2戸）の簡易耐震診断を実施したほか、戸建住宅21棟の計画策定、戸建住宅15棟の耐震改修工事、戸建住宅1棟の簡易耐震改修工事、戸建住宅2棟の屋根軽量化工事に対して補助金を交付し、住宅耐震化の取組を行った。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		簡易耐震診断を実施した戸数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		戸	12	目標	50	50	50	30	0	0
				実績	25	53	46			
	達成状況とその理由	目標をやや下回ってはいるものの、広報臨時号を配布し市民の耐震への関心が高まったことなどにより、予算の上限まで実施した。								
	②	指標名								めざす方向性
		耐震改修工事及び部分改修工事等（補助）を行った戸数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		戸	81	目標	20	20	20	12	0	0
				実績	9	14	18			
	達成状況とその理由	耐震性の低い住宅の所有者の高齢化に加え、費用が高額なため改修を実施できない等の理由から目標をやや下回った。								
	③	指標名								めざす方向性
		住宅の耐震化率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	92.8	目標	94.5	95.4	96.2	97	0	0
実績				93.4	93.7	95.4				
達成状況とその理由	最新の統計調査をもとに再計算した他、補助を活用した耐震改修や耐震性の低い住宅の建替え等が進んだものの、目標をやや下回った。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>成果指標①及び②については広報等の取組に努め、簡易耐震診断・耐震改修工事等のいずれも概ね目標に近い件数を実施することができた。 成果指標③については、補助制度を活用した耐震改修の実施による他、耐震性の低い住宅の建替え等が行われたことにより目標に向けて着実に進捗しているものの、住宅の耐震化率は目標に達していない。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>住宅耐震化促進事業については、めざす方向（住宅の耐震化率の向上）に向けて着実に進捗しているものの、目標には達していない。原因としては、耐震性の低い住宅の所有者の高齢化に加え、耐震への関心が十分でないこと、又は関心があっても住宅の耐震化に要する費用が高額であるため改修を実施できないことが考えられる。 今後発生が予想される南海トラフ地震等の大地震に備えるためにも、住宅の耐震化に関する情報発信を継続するとともに、住宅の安全性（耐震性）への関心を高めるために、意識啓発の継続に努めていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	2-6 道路・交通	
めざすまちの姿	○歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。	
施策	(1) 計画的、効率的な道路整備の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○渋滞の解消や都市防災機能の充実を目指し、都市計画道路の計画的な整備を推進します ○北部地域を含め、道路ネットワークの形成に向けた効果的な市道の整備を推進します ○開発や建築行為に合わせ、狭隘(あい)な生活道路の整備を推進します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	都市計画道路競馬場高丸線整備事業	都市計画道路荒地西山線整備事業(小林工区)
	一般市道新設改良事業	県施行都市計画道路等整備負担金事業
	生活道路整備事業	都市計画道路山手幹線整備事業(梅野町工区)
	北部一般市道新設改良事業	

実施した主要内容	荒地西山線(小林工区)については、令和8年度事業完了に向けて、本線U型擁壁工事が完成しを施工し、競馬場高丸線については、用地買収と工事、山手幹線(梅野町工区)については、工事着手をそれぞれ行った。市道改良事業については、市道239号線(L=40m)の整備を行った。市が行った生活道路整備については、狭あい道路107mを整備した。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名									めざす方向性
		都市計画道路整備率									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	72.8	目標	73.6	73.7	74	74.1	74.2	74.3	
				実績	73.2	73.4	73.5				
	達成状況とその理由	荒地西山線(小林工区)及び競馬場高丸線(鹿塩工区。仁川宮西町工区)の整備事業について、概ね順調に推移したため。									
	②	指標名									めざす方向性
		道路改良率(規格改良済)									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	-	目標	59.2	59.3	59.4	59.5	59.7	59.8	
				実績	59.2	59.4	59.5				
	達成状況とその理由	地形上の条件等から数値の顕著な伸びは困難であるが、一定着実な数値の推移であると評価できる。									
	③	指標名									めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
			実績								
達成状況とその理由											
④	指標名									めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
			目標								
			実績								
達成状況とその理由											

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>都市計画道路事業については、事業認可期間での事業完了に向け、着実に進捗している。 道路改良についても、着実に進捗している。</p>
<p>施策を進める上で課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>道路環境を取り巻く課題の解消に向け、都市計画道路幹線道路と生活道路を並行して整備し、本市の課題である交通渋滞解消など、健全な道路網の形成を図らなければならない。 そのため、幹線道路については、宝塚市都市計画道路整備プログラムに基づき、事業の年次的な見通しを立て、計画的な進捗を図っているところである。 一方、一般市道については、一般市道新設改良事業（北部、南部）、生活道路については開発や建築行為に合わせて生活道路整備事業などで狭隘な市道の改良を図っている。 着実な事業進捗を図るための主な課題として、国交付金の確保、住民や事業者への丁寧な説明を行うことが求められる。 今後の取組として、市事業のうち、幹線道路について、現在事業中である荒地西山線（小林工区）については令和8年度、山手幹線（梅野町工区）については令和7年度の完成に向けた進捗管理を行う。競馬場高丸線（鹿塩工区、仁川宮西町工区）についても、計画どおりの進捗となるよう努める。 生活道路整備事業については、道路改良につなげるため、市民及び事業者に対するより一層の啓発を進める。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>競馬場高丸線における事業費増額を踏まえ、今後は事業費の精査と管理を一層注視する必要があると考える。効率的な執行体制の確立について検討が必要である。</p>		

施策評価表

施策分野	2-6 道路・交通	
めざすまちの姿	○歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。	
施策	(2) 公共交通の利便性の向上と、新たな移動手段の検討	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○公共交通の維持や利便性の向上を図り、新たな移動手段の確保を目指します</p> <p>○北部地域では、地域の特性に応じた公共交通の確保に努めます</p> <p>○コンパクトなまちづくりに向けて、交通結節機能の充実を図ります</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	バス交通対策事業	北部地域内バス路線補助事業
	山手地域内バス路線補助事業	

実施した主要内容	<p>路線バスの減便等により、宝塚市立病院等への移動に影響を受けた安倉・山本地区において、新たな移動手段の確保に向けた実証実験を行った。また、売布・清荒神地域において、現在の路線バスよりも小型の車両を利用し、きめ細かな運行とエリアの拡大（清荒神5丁目、売布自由ガ丘）を行うことで、地域住民の移動の確保を図るため、AIオンデマンド交通による実証実験を行った。</p> <p>北部地域内バス路線については運行欠損の一部を、山手地域内バス路線については運行欠損の全額を補助することで、公共交通の維持を図った。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		路線バス輸送人員の人口比								→
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	9.7	目標	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7
				実績	9.9	10.3	10.5			
	達成状況とその理由	宝塚市地域公共交通計画に基づき、適切な公共交通サービスの提供やバス広報資料等を市役所やSSに配架、小学校に対するモビリティマネジメント学習等の利用促進を実施し、利用者数の増加に努めた。								
	②	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>R5. 4に策定した宝塚市地域公共交通計画に基づき、市民、交通事業者及び市の三者が連携し、適切な公共交通の提供や利用促進を図ったことで、現状値に比べ増加することができたため。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>路線バス事業については、人口減少や少子化、高齢化による利用者の減少や運転士不足による影響など、取り巻く環境は厳しさを増しており、公共交通の維持・継続のため、利用者のニーズを把握したうえで、より一層効率的な運行を図るとともに、それぞれの地域に合った新たな公共交通の確保が必要となる。</p> <p>それを踏まえた今後の取組としては、バス事業者に対し適切な支援を行い、地域の移動手手段の確保を行う。また、引き続き事業者や地域住民との定期的な協議を重ね、公共交通の維持確保、利用促進に取り組む一方で、定時定路線だけでなく、デマンド交通など、地域に合った公共交通の在り方について、宝塚市地域公共交通協議会を通じて議論を深め実施していかなければならない。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>オンデマンドバスについては、交通空白地域以外では有効性が限定的であると考え。西谷地区においては、定時路線による運行形態がより適していると考えられることから、地域特性を踏まえた導入形態の検討が必要である。また、シェアサイクルについては、</p> <p>県立高校への導入を検討する余地がある一方で、バイク禁止の事情や坂道の多い地形的条件を踏まえ、安全性確保に十分留意した対応を行うことが必要であると考え。</p>		

施策評価表

施策分野	2-6 道路・交通	
めざすまちの姿	○歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。	
施策	(3) 橋梁などの道路構造物の長寿命化や計画的な修繕の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○橋梁などの道路構造物について、定期的な点検を行い長寿命化を図るとともに、計画的、効率的な修繕による適正な維持管理を推進します</p> <p>○市民からの情報収集による道路の効率的な整備を推進します</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	道路維持事業	橋りょう維持事業
	道路維持事業_インフラ保全	橋りょう維持事業_インフラ保全

実施した主要内容	長寿命化計画に基づき、9橋（分町橋ほか）の修繕を行った。	
----------	------------------------------	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		長寿命化計画に基づく橋梁の修繕箇所数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		橋	3	目標	40	49	58	62	64	69
			実績	23	26	35				
	達成状況とその理由	前計画からの積み残しを含めて、58橋（累計）を目標としていたが、35橋（累計）にとどまった。目標値の達成に向けて、国庫補助金の確保に努めている。								
	②	指標名								めざす方向性
		定期点検橋りょう数（累計）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		橋	-	目標	316	415	417	444	576	758
			実績	316	415	417				
	達成状況とその理由	長寿命化計画に基づく橋りょうの定期点検を計画どおり進めている。								
③	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>長寿命化計画に基づく橋梁の修繕工事等を適切に進めているところであるが、R6については前計画からの積み残しを含めて、58橋（累計）を目標としていたが、35橋（累計）にとどまった。目標値の達成に向けて、国庫補助金の確保に努めている。 成果指標が目標値に届かなかったが、目指す方向性に向かっているためB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>橋りょう維持事業については、平成26年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、計画的、効率的な橋梁修繕に着手した。道路法改正により5年に1回の定期点検が義務化され、平成26年度から平成30年度にかけて1巡目点検、令和元年から令和5年度にかけて2巡目点検を実施し、点検結果を基に令和元年度と令和6年度に橋梁長寿命化修繕計画の見直しを行った。継続して国庫補助金の確保に努めた結果、1巡目点検で早期措置段階と診断された橋梁の補修は令和6年度に完了した。事業進捗を図るための主な課題として、引き続き国庫補助金の確保に努めるとともに、新技術等の活用や集約・撤去による費用の縮減、事業の効率化を検討し、事後保全から予防保全へ転換していく必要がある。 道路維持事業については、令和5年度に路面性状調査を実施して舗装修繕計画を見直した。今後も引き続き計画的な舗装修繕に取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>包括民間委託の導入は避けられない状況であり、効率的な行政運営を進める上で有効であると考え。しかし同時に、土木職員の技術や知識を着実に継承していくことが不可欠であり、人事体系の整備と人材育成の仕組みを併せて推進する必要があると考える。特にベテラン職員から若手への技能移転を計画的に実施するとともに、委託先事業者との役割分担を明確化し、持続可能な体制を構築する方策について検討が必要であると考え。</p>		

施策評価表

施策分野	2-6 道路・交通	
めざすまちの姿	○歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。	
施策	(4) すべての人にやさしい安全で快適な道路環境づくりの推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	○基本目標 2 子どもがいいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり

施策の方向性	○地域と連携した通学路の安全対策を推進します ○道路や公共交通のバリアフリー化など、人にやさしい交通環境を整備します ○自転車ネットワーク計画に基づき、自転車通行空間の整備を推進します ○環境や景観に配慮し、植栽など道路環境の適正な維持管理に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	道路管理事業	ノンステップバス購入助成事業
	通学路安全対策整備事業	道路バリアフリー化整備事業
	道路交通安全施設整備事業_インフラ保全	JR武田尾駅バリアフリー化事業

実施した主要内容	H30に事業着手した、市道安倉線(L=480m)の道路バリアフリー化整備が完成した。 ノンステップバスについては、バス車両の導入に合わせてノンステップバスを導入するよう事業者に要請しているが、令和6年度に実績はなかった。 JR武田尾駅のバリアフリー化については、駅舎内のエレベーター設置などのバリアフリー化に向けた詳細設計を行った。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		自転車通行空間優先整備路線整備率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	36	目標	44	44	49	54	54	55
				実績	44	44	49			
	達成状況とその理由	宝塚市自転車ネットワーク計画に基づく事業進捗が図られている。								
	②	指標名								めざす方向性
		ノンステップバスの導入率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	71.6	84.7	86.4	88.1	89.8	91.5
				実績	83.1	81.0	77.8			
	達成状況とその理由	新たなノンステップバスの導入がなく、事業者の営業所内での車両の移動に伴って、目標値には届かなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>新たなノンステップバスの導入がなく、事業者の営業所内での車両の移動に伴って、目標値には届かなかったが、自転車通行空間優先整備路線整備率については、計画どおりの進捗が図られたため、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>通学路の安全性の向上や、本市南部市街地の中でも概ね阪急電鉄今津線以東と宝塚線以南の平坦部において、自転車は重要な移動手段である。そのため、歩行者と自転車の通行空間の分離を進めることで、安全で快適な自転車通行空間の創出が急務である。</p> <p>また、平成10年度からノンステップバス購入助成制度によって、市内を走行するバスのノンステップ化が進められているが、100%ではない。</p> <p>通学児童生徒の交通安全を図るため、概ね2年に1度通学路における合同点検を各小学校のPTAや警察、教育委員会とともに実施して安全対策を進めている。</p> <p>次に、自転車ネットワーク計画に基づく、自転車通行空間の整備については、国、県との協議調整を図り、交付金の確実な獲得に努め、計画的な事業進捗を図る。</p> <p>また、バスのノンステップ化については、バス運行事業者との緊密な連携により、計画の前倒しなど早期の達成に向けて取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>小型モビリティの出現により、従来の区分けが複雑化し安全性や利便性が損なわれる懸念があると考え。国の対応やインフラ整備が十分ではない現状を踏まえ、拙速な導入ではなく、学会等の動向を注視しつつ、ハード整備や制度設計を含めた検討が必要であると考え。また、街路樹や公園整備の柔軟な見直しにより、安全性と快適性を両立させる方策を検討し、市民が安心して利用できる交通環境を整備することが重要であると考え。</p>		

施策評価表

施策分野	2-7 河川・水辺空間	
めざすまちの姿	○河川の整備や土砂災害対策が進むとともに、憩いや安らぎのある水辺空間がつけられている。	
施策	(1) 治水・土砂災害対策の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○総合治水の観点から、河川改修事業等を推進します ○土砂災害特別警戒区域に関する取組を推進します ○洪水・土砂災害に対する地域の防災力を高めます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	水政管理事業	県施行急傾斜地崩壊対策負担金事業
	普通河川治水事業	荒神川都市基盤河川改修事業
	普通河川治水事業_インフラ保全	急傾斜地崩壊対策事業

実施した主要内容	荒神川都市基盤河川改修事業について、新荒神橋上流の河川改修工事を実施し完成するとともに、未整備区間の用地測量、予備設計に着手した。 急傾斜地崩壊対策事業（市所有斜面地）について、長尾台小学校東側の対策工事を実施し完成させるとともに、令和7年度に実施予定の高丸公園、中山台1丁目の詳細設計等を実施した。 県施行急傾斜地崩壊対策負担金事業について、事業化された箇所（塔の町、仁川月見ガ丘、泉ガ丘）の対策工事が着実に進められた。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		荒神川改修済み延長率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	68	目標	72	77	77	77	79	89
				実績	72	72	77			
	達成状況とその理由	河川改修工事を実施したため、目標値を達成した。								
	②	指標名								めざす方向性
		急傾斜地崩壊対策工事完成箇所数（市所有斜面地）								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		箇所	-	目標	-	5	1	2	2	2
				実績	2	3	1			
	達成状況とその理由	対策工事（教育委員会からの受託分）が完成したため、目標値を達成した。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	指標①、②とも工事を実施し完成したため、目標値を達成しA評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組			<p>荒神川都市基盤河川改修事業について、これまで兵庫県河川管理者との事業調整や市の財源確保の課題から緩やかな事業進捗であったが、事業完了の目途が見えてきたことから今後計画的な事業執行に取り組む。</p> <p>市所有斜面地の急傾斜地崩壊対策事業について、令和5年度末までに計画していた市単独で所有する急傾斜地（5箇所）の対策工事が完成し、令和6年度から市と民間で所有する混在急傾斜地（3箇所）の対策工事に着手し、そのうち1箇所が完成した。令和7年度に残り2箇所（1箇所は道路管理課が対応）を実施していくとともに、継続的に行っている市所有斜面地の点検調査により判明した不具合箇所の対策工事も併せて実施する。今後は、前述の点検調査により判明した不具合箇所の維持補修や対策工事を適切に取り組む。</p>
総合評価			<p>荒神川都市基盤河川改修事業においては、今後の事業費増加の可能性を踏まえ、精査と管理を一層徹底する必要があると考える。効率的な執行体制の確立について検討が必要であるとする。</p>

施策評価表

施策分野	2-7 河川・水辺空間	
めざすまちの姿	○河川の整備や土砂災害対策が進むとともに、憩いや安らぎのある水辺空間がつけられている。	
施策	(2) 憩いや安らぎのある河川・水辺空間の創出	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○河川・水辺空間の利活用を推進します ○河川・水辺空間活動団体を支援します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	環境美化推進事業	

実施した主要内容	兵庫県管理の法定河川の除草、塵芥収集、運搬及び処分を2回、市管理の普通河川の除草、塵芥収集、運搬及び処分を1回行った。 兵庫県が法定河川で取り組む市民ボランティアによる清掃美化活動（河川・水辺空間アドプト活動）で生じた刈草、塵芥収集物の回収、処分を適宜行った。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		除草、塵芥収集実施河川数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		河川数	22	目標	22	23	23	23	23	23
				実績	22	23	23			
	達成状況とその理由	時期を含めて適切に実施し、目標値を達成した。								
	②	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>時期を含めて適切に実施し目標値を達成したため、A評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>憩いや安らぎのある河川・水辺空間の創出をめざす中で、市民から求められるのは除草や塵芥収集などの適切な管理である。今後も委託業務の発注や監督など事務執行を適正に行い、計画的な業務遂行に取り組む。 さらに、昨今の労務費上昇に伴う業務費が上昇しており、兵庫県から委託されている法定河川においては適切な管理を継続させるためにも適正な予算確保に取り組む必要がある。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	2-8 上下水道	
めざすまちの姿	○安全でおいしい水が安定して供給され、公共下水も適正に処理されている。	
施策	(1) 安全で良質な水道水の安定的な供給	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○良質な水道水を供給するため、きめ細かな水質管理を推進します ○水道水の安定供給を図るため、危機管理の取組を推進します ○市民から信頼され続ける水道を目指し、事業基盤の強化を図ります ○健全な経営に支えられた水道事業の構築に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	簡易専用水道等管理事業	上水道事業

実施した主要内容	定期的な水質検査の実施や浄水場の点検を行い、原水の水質悪化時には臨時の水質検査を追加実施。 管路更新（耐震化）のため、管路更新工事を実施し約2.1Kmの管路を更新。 令和6年度に9.5%、令和7年度に9.5%の2段階での料金改定での値上げを実施。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		水源の水質事故数								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	0	目標	0	0	0	0		
				実績	0	0	0			
	達成状況とその理由	定期的な水質検査での薬品調整を実施した。また、秋季にダム水の臭気物質上昇による水質悪化があったが、薬品注入量の変更等に対応し水質事故を未然に防止した。								
	②	指標名								めざす方向性
		管路の更新率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	1.25	1.25	1.25	1.25		
				実績	0.51	0.76	0.26			
	達成状況とその理由	管路更新事業により、約2.1kmの管路更新が完了したが、年度繰越工事が多く発生し、更新率については目標値に届かなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		経常収支比率（水道）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	93.4	目標	92.1	91.2	100	100		
			実績	87.7	92.5	96.9				
達成状況とその理由	料金改定により数値は上昇したが、令和6年度と7年度の二段階による引き上げのため、令和6年度は100を下回っている。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>成果指標①については目標を達成した。</p> <p>成果指標②については目標値を達成できなかったものの、目指す方向に推移している。</p> <p>成果指標③については目標値を達成できなかったものの、段階的引き上げにより令和7年度には達成できる見込み。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>成果指標①について、水質事故の防止に向けた水質検査は、定期的な検査に加え水源の臭気物質の発生に応じて巡回点検回数を臨時に増やすなど、臭気対策の強化を維持し水質事故の防止に努める。</p> <p>成果指標②について、目標を水道ビジョン2025で定めており現時点で目標値変更は出来ないが、大口径管路の更新による工事価格の上昇や公共工事の労務単価の上昇により目標達成が非常に困難になっているため、次期ビジョンの策定では、目標と実施に乖離が生まれないよう目標設定から整理を始めている。</p> <p>成果指標③について 令和6年度から平均改定率19%（令和6年度に9.5%、令和7年度に9.5%の2段階で引き上げ 6億円の収益改善）料金改定を実施した。しかし、当面の諸物価の推移など経済情勢の正確な予測が困難であったことから、それらの上昇分は今回の料金改定には反映されていない。また、近年の諸物価の上昇率やコロナ禍後の有収水量の落ち込みが想定を超えるものであることから料金改定により当初に見込んでいた6億円の収益改善は大きく圧縮される見込みで、令和15年ごろまで計上を見込んでいた純利益（最終利益）もその期間が大きく短縮される見通しである。適宜適切な料金水準の見直しとともに、引き続き経営戦略に掲げた経営健全化の取組みを推進するとともに、職員の定員適正化による組織体制の見直しと官民連携の更なる推進を図っていく。</p>		
総合評価	<p>管路更新については、更新目標値1.25を維持するために相応の予算確保が必要であり、事故を未然に防ぐ観点からも更新を重視すべきと考える。料金改定は条例に基づくが、社会情勢を踏まえた柔軟な対応について検討が必要であるとする。また、繰越工事の頻発や人員不足に対応するため、発注方式の見直しや施工体制の効率化が求められる。さらに、水源確保に不安がある状況を踏まえ、外部説明資料の充実と水道ビジョンに基づく方針の明確化が必要であるとする。</p>		

施策評価表

施策分野	2-8 上下水道	
めざすまちの姿	○安全でおいしい水が安定して供給され、公共下水も適正に処理されている。	
施策	(2) 安全・安心で安定した下水道サービスの提供	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○浸水・地震対策を強化し、クライシスマネジメントを推進します ○アセットマネジメントを推進し、環境との共生の維持に努めます ○健全な経営に支えられた下水道事業の構築に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	水洗化促進事業	下水道事業

実施した主要内容	雨水施設整備事業について、3地域で改良事業を実施。 汚水施設整備事業について、重要な汚水幹線の耐震化、老朽化管路の改築を実施。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		下水道（雨水）施設整備延長比率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	81.8	目標	83	83	83	83		
				実績	82.2	82.3	82.6			
	達成状況とその理由	雨水整備を実施している地域の工事が一部完了したが、総事業費が大きく目標値までは達成できなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		管渠(きよ)改善率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	1.7	1.9	2.1	2.7		
				実績	1.8	2.2	2.6			
	達成状況とその理由	ストックマネジメント計画による中山桜台地区の管渠改築工事が完了したため、目標を達成できた。								
	③	指標名								めざす方向性
		経常収支比率（下水道）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	106.1	目標	100	100	100	100		
実績				102.2	100.8	100.2				
達成状況とその理由	目標値を達成したが、数値は下落傾向にある。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>成果指標①雨水整備事業について、雨水事業全体での総事業費が多きく目標値は達成できなかったが、目指す方向に推移している。</p> <p>成果指標②汚水整備事業について、汚水事業全体では基幹管路の耐震化や、老朽汚水管路の改築を進め目標値を達成することが出来た。</p> <p>成果指標③経常収支比率について、目標値を達成したが、下落傾向にある。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>成果指標①雨水整備事業について、1地域当たりの整備事業費が大ききく複数年での整備事業となるため、年度計画を着実に実行し整備を進める。</p> <p>成果指標②汚水管渠改築について、重要な汚水幹線の耐震化を令和7年度に終了するため着実に工事を進める。また、次期ストックマネジメント計画の策定に取り組み、今後の整備事業費の平準化に努める。</p> <p>成果指標③市の裁量的経費の見直しに伴う他会計補助金の減額と終末処理場の修繕費や動力費など維持管理に係る費用増加による流域下水道維持管理負担金の増額のため、今後利益の減少が見込まれている。経営戦略中間見直しでは令和12年度まで経常利益（全ての事業活動から経常的に獲得した利益）が計上できると見込んでいたが、計上できる期間が令和9年度までに短縮される見込みであり、状況によってはさらに期間が短縮されることも考えられる。本市の下水道事業は流域下水道事業に加入しているため、独自で経費の削減に取り組める余地は少なく、今後、使用料水準の見直しを検討する必要がある。</p>		
総合評価	<p>下水道施策においては、雨水対策の強化が重要であり、グリーンマネジメントの考え方を導入しつつ、道路・公園等の公共用地を活用した流入率の向上や都市設計上の転換を図ることが有効であると考え。ただ、池などへの過度な依存は避け、循環型の取組を推進する必要があると考える。不明水への対応としてAI技術の活用は有効であり、さらなる効果的手法について検討が必要である。また、マンホール事故防止に向けた安全管理の徹底が不可欠であると考え。</p>		

施策評価表

施策分野	3-1 健康・医療	
めざすまちの姿	○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心で健やかに暮らしている。 ○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。	
施策	(1) 健康意識の向上とライフステージに応じた健康づくりの推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○生活習慣改善や感染症に関する啓発などにより、疾病予防や健康づくりを推進します ○健診などにより、生活習慣病などの早期発見や重症化の予防に取り組みます ○啓発や自殺予防対策に取り組み、心の健康づくりを推進します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	食育推進事業	健康センター管理運営事業
	予防接種事業	がん等検診事業
	後期高齢者健診事業	自殺予防対策事業

実施した主な内容	令和7年度から開始する健康たからづか21（第3次）を策定した。第2次後期計画で重点目標としていた子宮頸がん検診の受診率は、昨年度から減少したものの目標値は達成した。予防接種事業については、新型コロナワクチンの定期接種化や带状疱疹ワクチンの接種費用の助成を開始し感染症対策を進めた。食育の推進については、新たな取組として食育関係団体と連携した小学校への食育出前講座を行った。自殺予防対策については、自殺予防ゲートキーパー養成講座や支援者のセルフケア研修等に取り組んだ。健康センターの維持・設備更新のため、照明のLED化、非常用発電設備更新工事を行った。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「意識的に健康づくりに取り組んでいる」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	52.5(H30)	目標	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5	
				実績	-	58.7	-			
	達成状況とその理由	令和6年度は市民アンケート調査を実施していないので評価はできない。								
	②	指標名								めざす方向性
		国民健康保険特定健康診査受診率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	34.9	目標	58	60	40	42	44	
				実績	37.4	37.5	37.1			
	達成状況とその理由	目標値には達していないが、令和6年度から0.4ポイント減少し横這いの状況が続いている。大きな受診率向上には結びついていないが、電話や訪問による受診勧奨は継続して行っていく。								
	③	指標名								めざす方向性
		子宮頸がん検診受診率（職域を除く）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	16.5	目標	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	
			実績	17.0	17.4	17.2				
達成状況とその理由	令和6年度から0.2ポイント減少したが、目標値は達成している。年齢や受診歴に考慮したクーポン券や受診勧奨通知の効果が出ていると考える。									
④	指標名								めざす方向性	
	自殺予防ゲートキーパー養成講座受講者数（市民・職員・関係機関）								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	人	115	目標	109	129	127	117	117	117	
			実績	96	121	107				
達成状況とその理由	目標値は下回ったが、講座は5回開催し、新たな受講者を増やすための取組として、FMたからづかでの周知や司法書士への案内などを実施した。									

担当部局 評価	A	評価の 理由	指標①は把握できない項目である、②は目標には満たず微増・微減を繰り返しているが一定の受診率は維持できている。また、健康たからづか21策定時のアンケート調査では44.2%が受診したと回答しており、市で把握できない職域での受診者を含めると実際の受診率は高い値であると考えられる。③は目標を達成しており、クーポン券や受診勧奨通知の効果ができていると考える。④は目標を下回ったが、自殺対策で大切なゲートキーパー養成がすすんでいる。以上のことからA評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	健康たからづか21（第3次）では、健康たからづか21（第2次後期計画）の内容を深化させ、次世代（妊産婦）・成人期・高齢期をつないで健康づくりを考えるライフコースアプローチ、健康に関心の薄い者など幅広い世代に対するアプローチ、科学的根拠に基づく新たな情報発信やICTの活用による取組を進めていく。予防接種事業については、令和10年度以降に、予防接種のデジタル化が進められることから、国からの情報収集に努め、医師会との協議を進める。食育の推進については、第3次食育推進計画の3年目になり、令和6年度の取組を継続していく。自殺予防対策では、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通して「孤立・孤独」を防ぎ、支援することが重要であり、一人でも多くの方がゲートキーパーとしての意識を持ち、専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こすことができるようにゲートキーパー養成講座を継続的に実施していく。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がん検診については受診率をさらに向上させるため、今後も受診勧奨などの取組や啓発が必要である。成果指標には国が推奨する職域を含んでいないため、実績値が低いと誤解される可能性があることから、補足説明を付記すること。 ・国民健康保険特定健康診査受診率及び自殺予防ゲートキーパー養成講座受講者数については、目標値を達成できていないが、電話や訪問による受診推奨や研修の開催など目標達成に向けた取組が進められている点については評価できる。今後も引き続き取組を進めること。 ・食育の推進についても新たな取組として食育関係団体と連携し小学校に食育出前講座を行うなど、子どものときから「食」がいかに大切かという考え方を育むための取組が行われている。子ども達が様々な経験を通して食に関する正しい知識と「食」を選択する力を身につけ、生涯にわたって健全な食生活を実践できる人になるよう今後も取組を進めること。 		

施策評価表

施策分野	3-1 健康・医療	
めざすまちの姿	○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。 ○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。	
施策	(2) 妊産婦・子どもへの母子保健事業の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいいきいと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○妊娠・出産・子育てに関する相談支援や情報提供など、妊産婦や子ども、家庭への切れ目のない支援に取り組みます ○妊娠期からの児童虐待防止や育てにくさを感じる保護者への支援に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	母子保健相談指導事業	未熟児養育医療給付事業
	母子保健健康診査事業	母子保健訪問指導事業
	たからっ子給付金事業	

実施した主な内容
 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の一環として実施している産後ケア事業の利用を促すため、令和6年度から宿泊型の利用料減免を導入し制度を充実した。その結果、宿泊型の利用者は令和5年度の62人から令和6年度は324人へ増加し、産後ケア事業（訪問型・通所型・宿泊型）の利用率は令和5年度の18.7%から令和6年度は26.0%まで向上した。また、3歳児健診の視力検査において検査を受けやすくするため、新たな屈折検査機器を導入した結果、令和5年度の検査不可69人が令和6年度は0人となった。様々な母子保健事業を通じて伴走型支援を行うことにより、妊婦や乳幼児健診の未受診者の全数把握を行う体制を継続し、必要な方への早期支援と切れ目のない支援が実施できている。

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		妊娠・出産について満足している者の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	74.7	目標	85	85	85	85	85	
				実績	82.5	86.8	87.2			
	達成状況とその理由	産後ケア事業の実施機関の増加、宿泊型利用料の減免により、希望者が利用しやすくなっている。産前産後を中心とした母子保健事業の充実により、妊娠、出産に対する満足度が向上している。								
	②	指標名								めざす方向性
		1歳6か月児健康診査受診率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	94.5	目標	97	97	97	97	97	
				実績	98.4	97.7	98.1			
	達成状況とその理由	令和5年度から0.4ポイントの増となり、目標は達成できている。こどもの成長発達の確認や育児相談ができる場として対象児の保護者に認知されている。								
	③	指標名								めざす方向性
		こどもの育てにくさを感じたときに相談先がわかるなど何らかの対処ができる親の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	82.1	目標	95	95	95	95	95	
			実績	84.4	82.0	80.4				
達成状況とその理由	令和5年度から1.6ポイントの減となっており、目標は達成できなかった。こどもや保護者の健康や経済状況などが育てにくさに影響すると言われており、保護者が一人で悩まないように支援していく。									
④	指標名								めざす方向性	
	3歳児健康診査受診率								↑	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%	91.8	目標	95	95	95	95	95		
			実績	95	95.1	96.0				
達成状況とその理由	令和5年度から0.9ポイントの増加となり目標を達成した。こどもの成長発達の確認や育児相談ができる場として対象児の保護者に認知されている。									

担当部局 評価	A	評価の 理由	指標①②④は、目標値を達成している。妊娠からこどもが3歳ごろまでの間に訪問や健診を含めて計7回の専門職との面談機会を設け、健康や子育ての情報が提供できている。乳幼児健診の未受診者にはアンケートや訪問による調査を行い、すべての妊産婦や乳幼児の状況を把握し、必要に応じて支援につないでいる。指標③については、目標値は達成しなかったが、新たにSNSでの子育て支援情報動画や市の広報番組を作成して相談機会の周知を行っており、今後も推移を注視していく。したがってA評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	令和6年度に設置した「たからっ子総合相談センター」に設置している「宝塚市こども家庭センター」の機能を充実するため、引き続き組織のあり方やサポートプランの作成に向けて検討を進める。産後ケア事業については利用希望者が増加しており、今後、県が行う県内実施機関との集合契約に参加し、サービスの供給体制を拡充していく。また、母子保健事業の新規・拡充事業については、国から様々な取組が示されており、優先順位を考慮し実施する。新たな乳幼児健診として、1か月児健診、5歳児健診の実施について検討が必要である。今後の母子保健DXについては、令和8年度以降に全国展開を進めることが示されており、本市においても電子版母子健康手帳の導入と合わせて情報発信の方法・内容を検討していく。母子保健事業については、数々の助成事業や乳幼児健診の事務などが存在し、事務の効率的・効果的な実施方法の検討が必要である。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 産後ケア事業については、令和6年度から宿泊型の利用料減免を導入し制度を拡充したことで、宿泊型の利用者が大幅に増加し、母子の心身のケアやサポートを提供することができた。令和7年度は県が行う県内実施機関との集合契約に参加する予定であることから、さらなるサービスの拡充が期待できる。引き続き、妊婦・出産・子育ての切れ目のない支援を行っていくこと。 1歳6か月児健診や3歳児健診などの法定健診は検査機器の導入等により着実に実施し、目標値を上回っている。一方で、任意実施となっている健診については、財政負担や事務負担、近隣市町の状況や受診率など複数の観点から十分に検討する必要がある。 様々な母子保健事業を通じて伴走支援を行うことにより、妊産婦や乳幼児に対する支援はできているが、多数の助成事業や乳幼児健診による事務負担が大きい。限られた職員数で効率的、効果的に実施できるよう事務の簡素化や改善を行う必要がある。 		

施策評価表

施策分野	3-1 健康・医療	
めざすまちの姿	○あらゆる世代で体と心の健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。 ○病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。	
施策	(3) 安心・安全な地域医療体制の確保	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○地域の医療機関や介護施設との連携を深めます ○市内外の医療機関の連携により地域の救急医療体制を確保します ○市立病院の集学的がん診療体制を強化します ○新たな中長期計画に基づき、市立病院の経営の安定化を図ります ○市立病院の医療機能や病床規模の見直しに取り組みます	
施策を構成する主な事務事業	病院経営改善事業	地域医療連携推進事業
	救急医療推進事業	
実施した主要内容	令和6年度は東病棟大規模改修を実施したことにより、病棟を一部閉鎖しながらの入院の受け入れとなったが、目標に近い72.3%の病床稼働率を達成することができた。これは、病院長を含めた医師が地域のクリニック等164件への訪問を実施し、紹介・逆紹介の連携づくりに努めたことが一因である。また、救急車受入件数は前年比で114件増加し、5,930件となった。	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		経常収支比率（病院）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	97	目標	100	100	99.2	100.7	103.5	
	達成状況とその理由	病床稼働率の増加と入院単価の上昇等により経常収益は増加したものの、給与改定による給与費の増加等により経常費用が増加し、目標を達成することができなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		市立病院の病床稼働率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	81	82.3	72.4	74.4	80.1	
	達成状況とその理由	看護師のベッドコントロールの努力の結果、目標に近い病床稼働率を達成することができた。								
	③	指標名								めざす方向性
		市立病院の入院単価								↑
単位		現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
%		59432	目標	65000	65000	69898	72698	72698		
達成状況とその理由	逆紹介の推進等により、DPCI+II期間（疾病別の全国平均入院期間）内退院率7割を維持し、目標を達成することができた。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>入院単価は目標を2千円以上上回る見込みである一方、成果指標のうち最重要指標である経常収支比率については目標を0.5ポイント下回り、病床稼働率はわずかではあるものの目標を下回る見込みとなった。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>令和7年8月に東病棟大規模改修が完了し、360床程度の病床となるものの、それに対応できるだけの看護師がいない現状であるため、看護師の新規採用と離職防止に注力し、看護師の確保に努める。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病床稼働率と入院の診療報酬単価の向上に引き続き取り組み、経常収支比率の上昇を図ること。 ・人件費の縮減及び意思決定の責任の所在をはっきりさせるため、幹部ポストの縮小や経営マネジメントの視点を持った人材の登用を検討する必要がある。 ・緩和ケア病棟の活用方法や差額料金の見直し等により、病床稼働率の向上と受益者負担の適正化を図る必要がある。 		

施策評価表

施策分野	3-2 地域福祉	
めざすまちの姿	○すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っている。 ○誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。	
施策	(1) 多文化・共生型の地域づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○福祉に関する意識を高め、地域福祉活動につなげるため、福祉教育の充実を進めます ○課題を抱える人や、地域福祉の担い手が気軽に立ち寄り、話し合うことができ、誰もが共に活躍できる多様な居場所・拠点づくりを進めます ○地域福祉をコーディネートする人材や、地域福祉を担う人材の掘り起こしと育成を進めます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	地域福祉推進事業	総合福祉センター管理運営事業

実施した主要内容	高齢者の地域での就労を支援する「健康・生きがい就労トライアル」は、これまでの福祉事業所に加え新たにコープこうべの店舗等を就労先として実施した。また、6月～9月、宝塚市社会福祉協議会と協働し民間企業等の参加協力を得て、事務所や店舗、福祉施設、公共施設の一部を「クールシェアスポット」として開放し、地域住民の居場所づくりに取り組んだ。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性	
		削除									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		校	20	目標	32	32	33	34			
				実績	19	26					
	達成状況とその理由										
	②	指標名								めざす方向性	
		市内のサロン等の居場所数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		個所	-	目標	218	212	202	207	212		
				実績	205	199	194				
	達成状況とその理由	ふれあいきいきサロン2個所の立ち上げがあった一方、高齢化等による廃止があり減となった。									
	③	指標名								めざす方向性	
		住民向け地域福祉講座の参加者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	128	目標	150	160	170	180	190		
			実績	173	453	218					
達成状況とその理由	毎年見直し・再構築を図る中で終了した講座もあり減となったが、ボードゲーム形式の講座の参加者が多く、目標は達成した。										
④	指標名								めざす方向性		
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
			目標								
			実績								
達成状況とその理由											

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>サロン等の居場所数は目標に届かなかったが、サロン等参加の生活・健康状況への効果を検証するための参加者アンケートを実施し、今後の参加促進や支援につながる結果を得られた。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の推進には市民参加が欠かせず市民の自発的な取組が重要である。その必要性を理解してもらい参加を促すため周知啓発に取り組み、市民等と協働して地域福祉活動の維持・充実を図る。地域福祉の担い手育成や住民主体の活動支援について、工夫事例を共有するなど各種団体、関係者と連携して取り組む。 ・少子高齢化やライフスタイルの多様化など様々な要因を背景に、家族や地域による支え合い機能が低下する中、不安や悩みを抱える人が増加、内容の多様化・複雑化が進み、近年は孤独・孤立の問題が顕在化している。差別や排除のない、人と人とのつながりが生まれる地域社会の実現に向けて取り組むために、分野横断の支援体制の整備が求められる。市社協との連携や多機関連携協働による地域福祉の推進に努めるとともに、包括的な支援体制整備に向けて庁内の協議を進める。 		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の就労支援については産業文化部とも連携し、産業振興も視野に入れながら包括的な支援を行うことが重要である。 ・市内のサロン等の居場所数は高齢化の影響により年々減少傾向にあるが、高齢者が気軽に集まることができ、介護予防やひきこもり防止、生きがいづくりにつながる場所として存在意義は大きい。一方で、サロン等のニーズが減少傾向にあることから、自宅にいる高齢者をどう繋げていくかという視点で、今後の施策展開を検討する必要がある。 ・人と人とのつながりが生まれる地域社会の実現に向けては市のみならず、社会福祉協議会や関係団体、民間企業等との協働が必要不可欠であることから、より一層連携体制を強化していく必要がある。 		

施策評価表

施策分野	3-2 地域福祉	
めざすまちの姿	○すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っている。 ○誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。	
施策	(2) 包括的な相談支援体制づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○災害などの非常事態にあっても共に助け合い、誰もが安心を感じられるよう、普段からの多様な主体による見守り・支え合いを促進します ○社会制度の狭間や、市民が抱える複合的な生活課題に対応するため、総合相談支援体制を構築・強化します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	民生児童委員活動事業	生活支援体制整備事業

実施した主要内容	民生委員・児童委員の欠員解消対策委員会や活動費助成を実施した。災害時だけでなく平時からの地域での見守り体制を作るため、災害時要援護者支援制度の周知及び啓発を行った。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		災害時要援護者避難支援組織数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		組織	49	目標	51	52	53	54	55	56
				実績	52	55	58			
	達成状況とその理由	出前講座等を通して制度の普及啓発を行い、新たに3団体が加わった。								
	②	指標名								めざす方向性
		地域生活支援会議の開催数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	-	目標	14	26	26	26	26	26
				実績	21	27	24			
	達成状況とその理由	全7地区において多機関多職種ネットワークの場として定着してきており、各地区において2回以上実施された。								
	③	指標名								めざす方向性
		民生委員・児童委員の定数に対する充足率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	90	目標	100	100	100	100	100	100
実績				93	92	93				
達成状況とその理由	欠員解消対策委員会や制度の周知・広報に取り組み、前年比5人増の290人となったが定数312人には届かなかった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>要援護者制度について広報誌で特集を組むなど周知を図り、避難支援組織は増加した。民生委員の欠員解消には至っていないが、解消に向けて取組を進めており一定の水準を維持しているためBとする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員の欠員解消に向けて周知啓発を継続する。特に令和7年度は一斉改選にあたり現委員と協力して担い手確保に取り組む。 ・要援護者避難支援組織は制度の趣旨について理解を広げるため広報に取り組む。 ・高齢者人口の増加に伴い、単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症高齢者の増加が見込まれる中、生活支援体制整備事業で推進する共助の生活支援が求められる。今後も、住民や多様な事業者との協働により体制整備を図っていく。 		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者避難支援組織数は、広報誌での特集や制度の周知などの広報活動に取り組んだ結果、新たに3団体が加わったことは評価できる。引き続き周知啓発に努め、災害時だけでなく、平時からの地域の見守り体制を強化していくことが望まれる。 ・民生委員・児童委員については目標値に届いていないものの、制度の周知や広報などに取り組み、前年度以上の人数を維持できている。PTAからなり手を集めるなど、戦略的に人材を確保できるような仕組みづくりが必要である。 ・地域住民や支援関係機関による相互の協力が円滑に行われ、地域生活課題の解決につながるような支援を包括的に提供される体制整備を引き続き構築していくことが重要である。地域住民や多様な事業者、団体などとの連携、協働をより図っていくこと。 		

施策評価表

施策分野	3-3 高齢者福祉	
めざすまちの姿	○高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。	
施策	(1) 高齢者が自分らしくいきいきと暮らせる環境づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○健康寿命の延伸を目指し、健康づくり・介護予防を推進します ○社会参加や世代間交流を通じて、生きがいを促します ○高齢者が抱える課題や地域課題を共有し、共に考え、身近な地域で支え合う仕組みづくりを推進します	
施策を構成する主な事務事業	介護予防普及啓発事業	高齢者社会参加・健康促進事業
	老人福祉センター事業	包括的支援事業
	障害（がい）高齢者タクシー運賃助成事業	
実施した主要内容	住民主体のいきいき百歳体操の立ち上げ・継続支援を行った。包括的支援事業では市内7カ所の地域包括支援センターにおいて、①介護予防ケアマネジメント業務、②総合相談支援業務、③権利擁護業務、④包括的・継続的ケアマネジメント支援業務を実施し、高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を続けられるための支援を行った。同センター7カ所中4カ所の人員配置を強化し需要の増に対応した。	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		65歳以上の要支援の認定率 ※推計値以下を目標								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	7	目標	7.3以下	7.5以下	7.4以下	7.5以下		
	達成状況とその理由	目標は介護保険事業計画上の推計値に基づくものであり、高齢者人口の増加に伴い認定率が上昇している。								
	②	指標名								めざす方向性
		削除								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	-	60.9以上	-	-		
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		見守り、支え合い活動に取り組む活動グループ数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		グループ	163	目標	180	180	185	190	195	
	達成状況とその理由	生活支援コーディネーターが地域の話し合いの場に積極的に参加した結果、活動グループの把握が進んだ。								
	④	指標名								めざす方向性
単位		現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	各指標とも目標を達成したためA評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組			<ul style="list-style-type: none"> ・「見守り、支え合い活動」は生活支援コーディネーター事業委託（生活支援体制整備事業に該当）において、生活支援コーディネーターが把握した活動を集計したものである。高齢者世帯や認知症高齢者の増加が見込まれる中、「3-2（2）包括的な支援体制づくり」と共通の課題として、地域住民や多様な事業者との協働による支援体制整備を図っていく必要がある。 ・介護予防普及啓発事業において、いきいき百歳体操のグループは増えているが世代交代が難しいケースもあり、60・70代の参加を促すことが課題である。高齢者の活動は継続性の観点から自主的に行われることが重要であり、支援と自立のバランスに配慮しながら、自発的な活動に結びつくよう啓発支援に取り組む。1人でも取り組めるウォーキングの啓発にも引き続き取り組む。
総合評価			<ul style="list-style-type: none"> ・全ての成果指標が目標値を上回っており、特に、見守り、支え合い活動に取り組むグループ数が年々増加していることは評価できる。生活支援コーディネーターの積極的な地域との関わり合いの成果であるため、今後も引き続き、多様な事業者との協働により高齢者の生きがいづくりや介護予防、健康づくりの推進に努めること。 ・健康寿命が延伸している中で、介護認定が増えている理由や要因などについて詳細な分析が必要である。大学教授などの専門家と連携しながら取り組むこと。 ・高齢者が残りの人生をより豊かに、より自分らしく生きるため、行政として終活の取組を進める必要がある。民間事業者でも取り組んでいる内容であり、かつ、高いスキルやノウハウを持ち合わせていることから、民間事業者と連携しながら取組を検討すること。

施策評価表

施策分野	3-3 高齢者福祉	
めざすまちの姿	○高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。	
施策	(2) 望む場所で安心して暮らせる体制づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	○介護サービスの整備や、介護する家族の支援に向けて、多様なニーズに対応した支援の充実を図ります ○認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症についての啓発や、支援体制の整備に取り組みます ○高齢者が、医療や介護サービスを受けることとなっても、望む場所で安心して暮らせるよう、医療・介護・福祉の連携を強化します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	高齢者見守りネットワーク事業	成年後見制度利用支援事業
	地域密着型介護予防サービス等給付事業	地域包括ケア推進事業
	認知症総合支援事業	

実施した主要内容	介護保険事業計画に基づく基盤整備について、特定施設入居者生活介護（1施設）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護と看護小規模多機能型居宅介護（各1事業所）の事業者を選考した。高齢者見守りネットワーク事業では緊急通報システムの端末に携帯型を導入した。
----------	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		在宅介護サービス利用者アンケートで「内容や質に満足している」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	77	目標	-	77.0以上	-	-	-	-
				実績	-	81.7	-			
	達成状況とその理由	アンケート実施は3年に1回、R8以降の目標はR7実績をもとに設定する予定。								
	②	指標名								めざす方向性
		高齢者アンケートで「認知症の人や高齢者等を地域の中で見守ることは大切だと思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	-	100	-	-	-	-
				実績	-	80.2	-			
	達成状況とその理由	アンケート実施は3年に1回、R8以降の目標はR7実績をもとに設定する予定。								
	③	指標名								めざす方向性
		削除								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	33.1	目標	-	33.1以上	-	-	-	-
			実績	-	34.0	-				
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	高齢者アンケートの「人生の最期はどこで過ごしたいか」の問いに「わからない」と回答した市民の割合								↓	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%	25.2	目標	-	25.2以下	-	-			
			実績	-	24.6	-				
達成状況とその理由	アンケート実施は3年に1回、R8以降の目標はR7実績をもとに設定する予定。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	アンケート結果による指標評価はできないが、第9期介護保険事業計画に掲げる基盤整備について、地域密着型サービスの整備が着実に進んでいることや、緊急通報システムに携帯型装置を導入し制度の周知を図っていることを考慮しBとする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が望む場所で安心して暮らすためには、介護保険サービスやその他高齢者施策の充実だけでなく、地域の理解や見守りが求められることから、高齢者の見守りや支え合いについて市民、事業者、行政が連携して取り組む必要がある。 ・認知症基本法を踏まえ、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望をもって暮らすことができるよう、正しい知識の普及・啓発、早期発見・早期対応や家族支援等に取り組むとともに、令和9年度からの次期市地域包括ケア推進プラン策定に際し、同法に基づく認知症施策推進基本計画を包含させることを視野に検討していく。 		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業計画に掲げる基盤整備について、地域密着型サービスの整備が着実に進んでいることは評価できる。 ・認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようにするためには、医療・介護サービスの連携や認知症地域支援推進員によるコーディネーター機能、地域包括支援センターでの相談体制の強化のほか、認知症サポーターの養成などを通じて、行政や支援機関、地域住民全体で認知症の人とその家族を支えていく必要がある。今後もさらなる連携に向けて取り組むこと。 ・介護現場での人材不足とサービスの質の確保については社会的な課題となっており、本市においても例外ではない。持続可能な介護体制を構築・維持するためには、人材の採用・育成・活用に向けた戦略的な取組が重要であることから、市としても国の施策や支援の活用を検討しながら取組を進めること。 		

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(1) 障害（がい）のある人の自立に向けた地域支援体制の整備	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○障害（がい）のある人が地域で安心して暮らすため、障害福祉サービス等の提供体制を整備します ○障害（がい）のある人の社会参加の実現を目指します ○障害（がい）のある人が安心して暮らせる支援体制の充実を図ります	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	障害（がい）者福祉事業	地域生活支援事業
	自立支援事業	身体障害（がい）者支援センター管理運営事業
	地域活動支援センター及び障害者小規模通所介護事業	

実施した主な内容	障害（がい）者団体の社会参加促進やグループホーム新規開設にかかる経費の一部助成、医療支援型グループホームに対する補助を実施した。意思疎通支援、相談支援、日常生活用具等給付、成年後見人報酬等助成などを実施した。障害者総合支援法に基づく介護給付・訓練等給付・計画相談支援給付・地域相談支援給付のサービス提供とともに新たに相談支援専門員を雇用・配置する事業所に対する補助を実施した。在宅で生活する重度身体障害（がい）者に対して障害者総合支援法に基づく生活介護事業を実施した。市内の地域活動支援センター及び小規模作業所、本市の市民が利用する市外の地域活動支援センターに対する補助を実施した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		計画相談支援・障害児相談支援の利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	578	目標	563	596	803	868	933	-
				実績	645	706	758			
	達成状況とその理由	障害（がい）者は目標556人に対して497人、障害（がい）児は目標247人に対して261人の実績であり、障害（がい）児は目標を達成したが障害（がい）者は目標に及ばなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		社会参加に関する相談・支援件数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	84	目標	120	120	120	120	120	120
				実績	418	319	409			
	達成状況とその理由	新たに障害（がい）者の居場所づくりや個々の興味や得意分野をマッチングさせるインフォーマル支援を行ったことから目標及びR5実績を上回った。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	計画相談支援・障害児相談支援の利用者数は目標に及ばなかったものの右肩上がりに増加しており、障害福祉サービス全体の利用時間と日数も伸びている。また、日常生活圏域に各1か所設置している委託相談支援事業所の相談件数も増加しており、相談業務に関する支援は適切に実施できていると評価している。また、地域生活を支える社会資源であるグループホームの実利用者数や手話通訳・要約筆記者の派遣も増加している。ただし、身体障害（がい）者支援センターの利用延べ人数や地域活動支援センター及び小規模作業所の利用者数が減少していることからB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	障害（がい）のある人が地域で安心して暮らしていくためには、国が示す地域生活支援拠点等の4つの機能である「相談」、「緊急時の受け入れ・対応」、「体験の機会・場」、「専門的人材の確保・養成」の充実を図ることが重要である。特に「専門的人材の確保・養成」は切実な課題であり、相談業務や介護業務などすべての場面において専門的な福祉人材が不足している。そこで、令和6年度に障害（がい）福祉人材確保協議会を設置し、令和7年度にかけて議論を行っている。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・委託相談支援事業所の相談件数は年々増加傾向にあり、対応する人員が不足しているが、相談者に親身に寄り添い、適切に相談業務を実施できていると考える。 ・福祉人材不足への対策として、看護学校や近隣大学との連携による人材確保を視野に入れ、早期の段階から学生の人材確保に向けた取組・連携を進めるとともに、外国人人材の受入に係る課題解消に向けて取組・検討を進めていく必要がある。 ・計画相談支援・障害児相談支援の利用者数の目標値について、本来は利用者数÷潜在利用者数=100となるのが理想であるが、潜在利用者数の把握ができないため、相談員1名あたりの相談数といった目標の決め方を検討する必要がある。 		

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(2) 障害（がい）のある人の権利擁護の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○障害（がい）を理由とした差別の解消に取り組みます ○障害（がい）者虐待の防止に取り組みます ○成年後見制度の活用を推進します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	権利擁護支援事業	

実施した主な内容	権利擁護支援の中核となる相談機関として障害者虐待防止センター機能も有する宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センターの運営業務を委託し、虐待等権利侵害に係る相談支援及び保護、成年後見制度の利用に係る相談支援及び申立支援、障害者差別の相談支援を実施した。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		障害（がい）者虐待の通報件数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	23	目標	—	—	27	27	27	27
			実績	27	19	13				
	達成状況とその理由	目標及びR5実績は下回ったが、虐待事案の対応としては、障害福祉サービスの導入や見守り支援により、解消することができた。								
	②	指標名								めざす方向性
		成年後見制度新規相談実人数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	—	目標	—	—	42	42	42	42
			実績	23	42	43				
	達成状況とその理由	昨年度と同程度の実績があり、親亡き後の不安などに関する相談に対応できた。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
		実績								
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	<p>障害（がい）者虐待の通報件数は目標やR4及びR5の実績を下回っているが、宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センターの相談件数は大幅に増加しており、専門相談や成年後見制度の申立支援など市民のニーズに答えることができていると判断できるためA評価とする。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>障害（がい）者虐待の通報件数は、全国的な傾向として他の虐待と比べて少なく、潜在化していると考えられている。そこで、虐待を無くしていくためにも、些細な変化に気付く人を増やし、通報件数を増やすための取組を行う必要がある。虐待被害者の権利擁護のためには、成年後見制度の活用が必要となる場合も出てくる。また、障害（がい）者の親が高齢になることによって、今後益々成年後見制度を含む権利擁護に関する相談は増加すると見込んでおり、宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護センターのあり方については検討する必要がある。</p>		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害（がい）者虐待は全国的にも潜在化する傾向が強いため、障害（がい）者虐待の通報件数が目標値を下回っているが、一方で宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センターへの相談件数は大幅に増加しており、障害（がい）者虐待防止への初期対応はできている。 ・ 障害（がい）者虐待の発生予防から、虐待を受けた障害（がい）者が安定した生活を送れるようになるまで、障害（がい）者の権利擁護を基本に置いた切れ目のない支援体制を構築する必要がある。障害者虐待防止法に規定されている地方公共団体の役割と責任を果たすとともに、場合によっては、成年後見制度の利用促進に向けた円滑な対応や連携がとれた体制を引き続き維持する必要がある。 ・ 虐待対応において、児童と障害（がい）・高齢では措置権限が異なり、それぞれ専門性が求められるが、限られたリソースを効率的、効果的に活用する観点から、窓口を統合することの可能性についても検討する必要がある。 		

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(3) 障害（がい）のある子どもの成長を支える取組	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○乳幼児期からの療育・発達支援を推進します ○障害（がい）のある子どもの地域生活を支える取組を推進します ○障害（がい）のある子どもの療育に応じた障害児通所支援等の提供体制を整備します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	子ども発達支援センター事業	保育所等訪問支援事業
	障害児相談支援事業	障害児通所給付事業

実施した主な内容	障害児通所支援事業として、児童発達支援センターである子ども発達支援センターにおいて、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の習得、集団生活などにかかる支援を実施した。 児童福祉法に基づく保育所等訪問支援事業を実施し、家庭支援を行った。 児童福祉法に基づく障害児通所支援・障害児相談支援のサービスを提供した。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		障害児通所支援事業の利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	1085	目標	1232	1304	1503	1601	1699	-
				実績	1324	1395	1447			
	達成状況とその理由	目標は下回ったが、新規利用者は顕著に伸びていることから、前年度の実績を上回った。								
	②	指標名								めざす方向性
		障害児相談支援実績人数（月あたり）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	203	目標	222	237	247	259	272	-
				実績	216	255	261			
	達成状況とその理由	福祉サービス利用者の増加に伴い、障害児相談支援の利用者も増加している。実績は前年度を上回るとともに目標も達成している。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>障害児通所給付事業はすべての指標においてR5実績を上回っている。 子ども発達支援センターで行う事業については成果指標における目標を達成することができなかった事業もあるが、保育所等訪問支援事業においては、訪問のニーズには応えることができた。障害児相談支援事業においては新規待機者への対応が課題となっていたが、現在待機が減少している状況である。 以上のことからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>障害児通所給付事業については、利用者が毎年増加しているが、適切な療育が実施されている事業所において真に必要な人に必要なサービスを提供することができるような調整が必要である。また、障害（がい）のある児童及びその家族に対して、乳幼児期からの切れ目のない支援を行うために、保育、教育、保健、医療、就労支援等の関係機関が連携を図る必要がある。 そこで、乳幼児期から成人期までの一貫した支援が受けられることを目的に作成している「たからっ子ノート」の活用が重要となるが、保護者から改善の要望を受けていることから、自立支援協議会のこども部会にて改訂に向けて取り組んでいる。また、保護者向けに子どもの成長の目安やよくある困りごとをわかりやすくまとめたり、それぞれの年齢に応じた相談機関の一覧などを記載した「たからっこお助けブック」を新たに作成したため、周知に努める。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども発達支援センターの在り方については、「たからづかモデル」の中で、健康福祉部や市立病院を含めて整理していく。特に診療所機能については地域のニーズや財政面の課題も踏まえた上で、効率的な運用を考えていく必要がある。 ・同センターにおいて、発達支援計画書の作成について事務負担を軽減するための方策を考えてはどうか。例えば、ある程度のフォーマットがあるのなら部分的にAIを取り入れて作成することを検討するなどが考えられる。 		

施策評価表

施策分野	3-4 障害（がい）者福祉	
めざすまちの姿	○「シンシアのまち宝塚」に向け、障害（がい）のある人が地域で自分らしく暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。	
施策	(4) 障害（がい）のある人の就労支援や生活支援の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○障害（がい）者就業・生活支援センターを中心に就労や就労定着の支援に取り組みます ○障害（がい）者就労支援施設等利用者の工賃向上のための取組を推進します ○ハード・ソフト両面での生活環境の整備に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	障害（がい）者生活支援事業	自立支援医療給付事業
	障害（がい）者就労支援事業	障害（がい）・障害（がい）者理解市民啓発事業

実施した主な内容	施設通所費用助成、タクシー料金等助成、住宅改造資金助成、グループホーム家賃助成などを実施した。更生医療、育成医療、療養介護医療の支給を実施した。就業相談・就職支援・職場定着支援など就労支援の中核となる相談機関である宝塚市就業・生活支援センターの運営業務委託と障害者就労施設利用者の工賃向上を目的とした共同受注窓口への運営補助を実施した。障害（がい）者の幸せを考える標語・作文の募集、障害者週間記念事業、身体障害者補助犬シンポジウム、手話言語発表会を実施した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		障害（がい）者就業・生活支援センターの支援による就職人数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	61	目標	78	78	59	59	59	59
				実績	52	58	44			
	達成状況とその理由	目標、R4及びR5の実績は下回ったが、企業や関係機関との連携はとれている。								
	②	指標名								めざす方向性
		グループホーム家賃助成者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	145	目標	135	136	197	215	215	215
				実績	181	197	215			
	達成状況とその理由	事業所の増加に伴い、新規の利用者が増加したことにより、R4及びR5の実績を上回った。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>障害（がい）者就業・生活支援センターの支援による就職人数は目標を下回ったが、障害者就労施設共同受注窓口の受注件数と受注額は目標及びR5実績を上回っていること、グループホーム家賃助成者数は目標及びR5実績を上回っていることからB評価とする。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>障害（がい）のある人が地域で自立した生活を送るためには、住まい・外出時の移動・就労に関する支援が重要である。特に就労については、一般就労と福祉的就労の両面での支援方法を検討する必要がある。また、障害（がい）のある人が感じている社会的障壁を取り除き、障害（がい）のある人もない人も自分らしく暮らせる共生社会の実現を目指すためには、障害（がい）と障害（がい）のある人への理解を深めるために、市広報誌やホームページを活用した啓発、イベントの継続的な実施に取り組む。</p>		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害（がい）者就業・生活支援センターの支援による就職人数は目標値を下回ったが、障害者就労施設共同受注窓口の受注件数と受注額が目標値を上回っていることは評価できる。 ・ 就労支援については、就労継続支援B型事業所が増加している一方で、事業所の支援が不明瞭なことが懸念されるケースもあることから、行政による監査や評価制度の強化が求められている。事業所を評価し、公表する仕組みが構築できれば事業所の質も一定担保できることから、利用者に寄り添った就労支援となるような仕組みの構築を検討することが望ましい。 ・ 利用者が地域で自立した生活を送るためには、就労後のアフターフォローが重要であることから、就職後の定期的な状況確認など、継続的な支援を実施していく必要がある。 ・ 就労支援については産業文化部とも連携し、産業振興も視野に入れながら包括的な支援を行うことが重要である。 		

施策評価表

施策分野	3-5 社会保障	
めざすまちの姿	○社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心で健やかな暮らしが守られている。	
施策	(1) 生活困窮者等の経済的・日常的・社会的な自立の促進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○生活保護法や生活困窮者自立支援法に基づき適切な支援が確実にいえるよう関係機関が連携し、相談支援体制の充実を図ります</p> <p>○個別の状況に応じた支援プランをもとに自立に向けた支援を行います</p> <p>○ハローワークなどとの連携による就労支援の充実を図り、生活困窮者等の経済的自立を支援します</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	中国残留邦人等支援事業	生活困窮者自立支援事業
	生活保護受給者等就労支援事業	生活保護適正実施推進事業
	生活保護事業	

実施した主な内容	中国残留邦人等に対する日本語教室の運營業務を委託した。生活困窮者に対して困窮状態から早期に脱却することを目的とする自立相談支援事業を委託により実施した。住居確保給付金の支給や自立相談事業を委託した。稼働年齢の被保護者に対して就労支援員による就労支援を実施するとともに直ちに就労に至らない被保護者に対して生活習慣確立のための指導や就労体験等を通じた訓練を行う就労準備支援事業を委託した。生活が困窮している世帯に対して、最低限度の生活を保障するとともに自立を助長するために、その困窮の程度に応じ必要な保護を行った。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		生活保護受給者が就労につながった人数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	25	目標	40	40	40	40	40	40
			実績	23	25	33				
	達成状況とその理由	目標値は下回ったが、新規就労を開始した者が27人、増収した者が6人となり、合計では昨年度よりも8人増となった。								
	②	指標名								めざす方向性
		生活困窮者が就労につながった人数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	25	目標	54	54	45	36	36	36
			実績	52	23	27				
	達成状況とその理由	目標値は下回ったが、一般就労を開始した者が22人、増収した者が5人となり、合計では昨年度よりも4人増となった。								
③	指標名								めざす方向性	
	自立相談支援プラン作成数（うち就労支援プラン作成数）								↑	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	件	80	目標	72	72	60	48	48	48	
		実績	77	41	43					
達成状況とその理由	目標値は下回ったが、昨年度よりも2人増となった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>すべての成果指標において、昨年度よりも増加となったが、目標値を下回ったため、B評価とした。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>生活保護制度を適切に運用するとともに稼働能力を有する方については、個別の環境を踏まえたうえで粘り強く就労支援を継続していく必要がある。新たに生活保護が開始となり、就労意欲の高い方については、特に丁寧な就労支援を行い、経済的自立に向けた支援を行っていく。</p> <p>生活困窮者については、引きこもりの方からの相談も増加しており、居場所づくりから段階的に就労支援に結び付けていくなど長期的な支援が求められている。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各成果指標について、実績値が目標値を下回る結果となっているが、様々な事情を抱えた生活困窮者に対して丁寧に寄り添った対応ができていることは評価できる。引き続き、個々の事情に配慮しながら経済的自立に向けた支援を行っていくこと。 ・義務教育終了後の学生については、高等学校等への通学だけでなく、将来的な自立に向けた就労支援に結びつけるという考え方も重要である。 ・ひきこもりへの対応については、教育委員会、子ども未来部とも連携しながら一貫通貫で対応できる仕組みや体制の構築が必要である。また、大学教授等の専門家と連携・協力することも非常に有効である。 ・ひきこもり実態調査を行うこと自体は良いことであるが、孤独と孤立は異なるため、論理的な整理が必要である。実態調査の実施だけで終わらない取組を検討するべきである。 		

施策評価表

施策分野	3-5 社会保障	
めざすまちの姿	○社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心で健やかな暮らしが守られている。	
施策	(2) 健やかな暮らしを支える医療保険制度等の適切な運営	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○国民健康保険税収入の確保や医療費の適正化に努めるなど国民健康保険制度を健全に運営します ○医療費負担を軽減し、安心して医療を受けることができるよう福祉医療費助成制度を適切に運営します ○高齢化の進行に伴う被保険者数の増加を踏まえながら、後期高齢者医療制度を適切に運営します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	徴収事業	乳幼児等医療費助成事業
	障害者（児）医療費助成事業	徴収事業
	特定健康診査等事業	保健事業

実施した主な内容	国民健康保険制度や後期高齢者医療制度等の適切な運営に努めるとともに、令和6年度は各種健康保険証の原則廃止に対応し、市民への周知や窓口での丁寧な説明に取り組んだ。
----------	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		国民健康保険被保険者一人当たりの医療費（保険者負担分と患者負担分の合計）								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		円	384393	目標	-	-	-	-	-	-
				実績	429217	445848	444600			
	達成状況とその理由	前年度比では若干減少しているものの、加入者の高齢化や医療の高度化などにより、一人当たりの医療費は増加傾向にある。								
	②	指標名								めざす方向性
		国民健康保険税の収納率（現年度分）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	95.5	95.6	95.95	96.00	96.05	96.10
				実績	96	95.9	96.1			
	達成状況とその理由	徴収率は、前年度から微増となっており、目標も達成している。口座振替やスマホ決済などの推進を継続していることが要因と考えられる。								
	③	指標名								めざす方向性
		国民健康保険特定健康診査受診率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	34.9	目標	58	60	40	42	44	46
			実績	37.4	37.5	37.1				
達成状況とその理由	令和5年度に最も受診率が高かった74歳が後期高齢者医療制度に移行したことにより受診率が減った。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>国民健康保険加入者数の減に伴い保険給付費総額は減少しているが、一人当たりの医療費は増加傾向であり、現年度の収納率については目標値を達成したものの、特定健診受診率は目標値に達していないため。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>国民健康保険は社会保障の一環として国民皆保険制度の中核となる重要な役割を担っているが、所得の低い人や高齢者の加入割合が高く、医療費が増加傾向となる構造上の問題を抱えている。県下広域化に向けて、引き続き保険給付費の抑制につながる取組を推進していく必要がある。</p> <p>今後も保険税の収納確保策として、納付相談体制の強化や、口座振替など自主納付の推進を継続するとともに、特定健診や特定保健指導の受診率向上に向けての電話や訪問による利用勧奨、健康づくりに関する啓発や事業の推進を行い、被保険者の健康保持と医療費の抑制につなげていく。</p> <p>また福祉医療費助成制度については、制度の安定維持のため、市の障害者施策、子ども施策として総合的な検討を行い、安定的な財源の確保に努め今後のあり方について検討していく。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに関しては、市民が自発的に取り組めるような食や運動の習慣づくりといった、健康的な活動に繋がるような取組について検討を拡げていくべきと考えられる。 ・特定健診の市民への勧奨手段については、効率的で職員負担の少ない方法にするべきと考える。 		

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>	
施策	(1) すべての子どもと家庭への支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○子どもの人権擁護を推進します</p> <p>○すべての子どもと家庭に対する妊娠期からの切れ目のない子育て支援に取り組みます</p> <p>○様々な困難などで配慮が必要な子どもと家庭への支援の充実を図ります</p> <p>○子どもの貧困の連鎖を防止するため、教育、生活、就労などにおいて地域との連携を含め、子どもや家庭への支援に取り組みます</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	ファミリーサポートセンター事業	子ども家庭支援センター事業
	母子等福祉総務事業	次世代育成支援行動計画等推進事業
	ひとり親家庭生活学習支援事業	子どもの権利サポート委員会事業
	児童虐待防止施策推進事業	子ども総合相談事業

実施した主な内容	<p>子どもの権利サポート委員会による相談、就学前子育て相談、子ども総合相談など、様々な困難を抱える子どもや家庭からの相談を受け、関係機関と連携して支援したほか、児童虐待の早期発見、早期対応、再発防止に取り組んだ。</p> <p>ひとり親家庭への支援として、母子父子自立支援員による相談や法律相談をはじめ、自立支援教育訓練給付や高等職業訓練促進給付、ひとり親生活学習支援などの様々な取組を実施した。</p> <p>令和7年4月を始期とする子ども施策の総合的な計画「宝塚市こども計画 たからっ子「育み」プラン」を策定した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		子どもには「生きる」「守られる」「育つ」「学ぶ」「参加する」権利があることを知っている」と回答した子ども（中学2年生）の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	-	50	-	-	-	-
				実績	-	47.2	-			
	達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないためアンケートを実施していないが、R5年度のアンケートでは目標を達成することができなかった。子どもの権利について周知啓発をはかっている。								
	②	指標名								めざす方向性
		宝塚市の子育て環境について、「子育てに関する相談がしやすい」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	23.7(H30)	目標	-	23.7	-	-	-	-
				実績	-	16.9	-			
	達成状況とその理由	R6年度はアンケートを実施していないが、R5年度のアンケートでは目標を達成することができなかった。要因として相談したい時に相談窓口などの情報が十分に届けられていないことなどが考えられる。								
	③	指標名								めざす方向性
		児童虐待管理ケース終了率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	45	目標	50	50	50	50	50	50
			実績	42	48	42				
達成状況とその理由	対応困難ケースが多く、継続的支援が必要な状況のケースが多くあったため、目標を達成することができなかった。									
④	指標名								めざす方向性	
	ひとり親家庭生活学習支援事業利用率								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%	40.2	目標	32.7	32.7	32.7	32.7	32.7	32.7	
			実績	31.3	32.5	32.2				
達成状況とその理由	概ね目標を達成した。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>成果指標における目標を達成することはできなかったが、子どもの権利サポート委員会では、子ども自身の悩みや心配ごとの相談を受け調整活動を行ったほか、ひとり親家庭が抱える課題に対応する法律相談やひとり親家庭の子どもに対し貧困の連鎖の防止や子どもの生活の向上という観点から学習支援を行った。また、子ども総合相談では、様々な相談を受け止め、関係機関と連携しながら切れ目のない支援につなげることができたほか、児童虐待への対応についても、関係機関と連携して取り組むことができた。このように施策の推進に向けて様々な取組を着実に推進していることから、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>子どもがひとりの人間として尊重され成長していくには、生まれ育った環境によってその将来が左右されず、子ども自身の権利が守られ、意見を表明する場を確保する必要がある。貧困等の環境による教育の格差を縮めるための取組や、子どもの意見表明の場、「子どもの権利」の認知が広がるように周知・啓発に取り組む。</p> <p>子どもを取り巻く社会環境が複雑になる中で、子どもやその家庭が抱える困り感の内容や程度は、深刻なものから本人が相談するほどではないと思うものまで多様である。児童虐待管理ケース数は増加しており、迅速かつ適切に対応するため、関係機関と連携しながら取り組む。一方で、子育てで抱える小さな疑問や不安、相談先に迷うような悩みなどについても幅広く受け止め、早期に支援につなげることで、問題の深刻化を予防する必要がある。このため、子ども総合相談を引き続き実施するとともに、相談窓口の周知や身近に相談できる場の充実なども含めて、関係機関と連携しながら切れ目のない支援に取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待への対応については、学校現場・教育委員会をはじめ関係機関との迅速な連携が求められる。引き続き、重大事案等の発生を防ぐため関係機関と連携しながら早期発見に努めるとともに相談対応・啓発を行なっていく。 ・子ども総合相談については、学校など関係機関との連携は進んでおり、相談対応の質をさらに高めるよう関係機関との情報共有を密にし、連携を進めていく。 		

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>	
施策	(2) 子育てと仕事の両立支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○待機児童解消のための施策を進めるとともに、一時預かり事業や病児保育事業などの多様な保育施策に取り組みます</p> <p>○放課後の健全育成の場の確保に向け、放課後児童対策に取り組みます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	地域児童育成会事業	市立保育所保育実施事業
	病児保育事業	指定保育所助成金
	民間放課後児童クラブ運営支援事業	私立保育所助成金
	私立保育所誘致整備事業	

実施した主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育施設の定員拡充に向けた認可保育所開設準備 ・ 放課後児童健全育成事業の待機児童対策として民間放課後児童クラブ開設準備 ・ 病児保育事業を2施設で実施（継続） ・ 一時預かり事業を16施設で実施（継続） ・ 5施設を市指定保育所に指定し多様な保育ニーズの受け皿として確保（継続） 	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「子どもの面倒を見てくれる保育所、放課後児童クラブに入所することができない」と回答した就学前児童保護者の割合								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	14.9 (H30)	目標	-	0	-	-	-	0
				実績	-	11.3	-			
	達成状況とその理由	次世代育成支援行動計画の策定期間ではないため、アンケートを実施していないが、現計画の中で待機児童解消を目指し、取り組みを進めている。								
	②	指標名								めざす方向性
		保育施設の待機児童数								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	0	0	0	0		0
				実績	0	0	0			
	達成状況とその理由	認可保育所の定員枠を拡充してきたことで、待機児童数を0とすることができた。								
	③	指標名								めざす方向性
		放課後児童健全育成事業の低学年の待機児童数								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	51	目標	0	0	0	0		0
			実績	96	49	152				
達成状況とその理由	年度内に民間放課後児童クラブの開設を予定していたが、設置場所の選定が難航し、開設できなかったこと、また校区によって想定を上回る申し込みがあったことなどから目標達成ができなかった。									
④	指標名								めざす方向性	
	「子どもの面倒を見てくれる保育所、放課後児童クラブに入所することができない」と回答した低学年児童保護者の割合								↓	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%	7.4 (H30)	目標	-	0	-	-		0	
			実績	-	8.5	-				
達成状況とその理由	次世代育成支援行動計画の策定期間ではないため、アンケートを実施していないが、現計画の中で待機児童解消を目指し、取り組みを進めている。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	成果指標②は就学前児童数の動向とこれまでの定員拡充策の継続により目標を達成した。また成果目標①は目標には達していないものの、認可保育所が入所しやすくなったことで、目指す方向には進んでいる。③④についても目標は達成できていないが、年度末に民間放課後児童クラブの選定が完了し、令和7年度4月から開設できていることから、待機児童対策は進んでおり、施策の方向性として、概ね目指す方向には進められていることからB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>保育所については、認可保育所の定員枠を拡充してきたことで、目標どおり待機児童を0人とすることができた。就学前児童数は減少しているものの保育ニーズは依然として高いため、入所希望とのマッチングを丁寧に行い、安心して子育てができる環境を整えていく必要がある。</p> <p>放課後児童クラブについては、校区ごとで申請者数も異なり、定員に満たない校区もあれば、待機児童が発生する校区もあるなど、ニーズに対応しきれいない状況にあるため、引き続き保護者ニーズを分析し、効果的な待機児童対策を検討していく。</p>		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所については、共働き家庭の増加により保育所のニーズが増えてきたが、一方で将来的な少子高齢化を踏まえると保育所の新規設置は現実的ではない。今後は市立幼稚園を含めた未就学児童に関する施策を広く考えていく必要がある。 ・放課後児童クラブについては、放課後の児童の居場所づくりに関する施策全体を見る中で整理が必要。営利企業が学童に参入できるような仕組みを早急に導入したうえで、待機児童の解消に繋がる持続可能な施策展開を行っていくべき。 		

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成		
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>		
施策	(3) 安全・安心の子育て環境づくり		
総合戦略での位置付け	—		—

施策の方向性	<p>○子育てしやすい生活環境づくりに取り組みます</p> <p>○子どもの安全・安心の確保に取り組みます</p>		
--------	---	--	--

施策を構成する主な事務事業	青少年補導事業	青少年センター運営事業
	青少年相談事業	

実施した主な内容	<p>青少年の健全育成・非行防止を目指し、関係機関と連携し、各種活動を実施するとともに、青少年に悪影響を及ぼす有害環境の浄化に努める活動を行った。</p> <p>また、子どもの心を理解する講座の開催や青少年や保護者の悩みについての相談に応じ助言を行い、関係機関との連携による継続的な指導も行った。</p>		
----------	--	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性	
		「子どもに対する犯罪や事故が少ない」と回答した市民の割合									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	26.0 (H30)	目標	-	29.9	-	-	-	-	
				実績	-	26.6	-				
	達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないため、アンケートを実施していないが、現計画の中で青少年の健全育成・非行防止を目指し、取り組みを進めている。									
	②	指標名								めざす方向性	
		関係機関と行った補導回数									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		回	-	目標	10	10	10	10	10	10	
				実績	24	17	19				
	達成状況とその理由	目標を達成することができた。									
	③	指標名								めざす方向性	
		補導委員街頭補導活動実施回数									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		回	-	目標	1104	1104	1104	1104	1104	1104	
			実績	838	1804	808					
達成状況とその理由	別途実施している「声かけ」に注力したことで、こちらの活動は目標を上回ることはできなかったが、各班積極的に補導活動を行うことはできた。										
④	指標名								めざす方向性		
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
			目標								
			実績								
達成状況とその理由											

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>広域化する青少年活動に対して、警察、他市青少年センター等関係機関と情報を共有し、連携して活動できた。青少年補導委員による積極的な補導活動もあり、改善を図っていることからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>本市の子ども施策は、保育など子育て支援サービスを充実するだけでなく、地域で暮らす子ども、その子どもを育む家庭を、教育、子育て支援、コミュニティ、保護者の就業・雇用、生活環境、若者の自立支援などの面から、総合的に応援する地域づくりを進めようとするものである。そのために、次世代育成支援行動計画を策定し、5か年の計画に掲げた取組を推進している。コロナ禍による生活様式の変化もあり、地域の人間関係が希薄となっているほか、インターネットからもたらされる有害環境の影響など、子どもを取り巻く環境も変化している。</p> <p>令和7年4月を始期とする宝塚市こども計画 たからっ子「育み」プランでも、安全・安心の環境づくりを施策と位置づけ、引きつづき実施していく。</p> <p>また、地域とともにより一層の防犯活動を推進するため、青少年センターでの補導事業などを通じ、子どもを犯罪被害から守るための活動を継続して実施する。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・これまで補導委員が担ってきた青少年の「健全育成・非行防止」については、近年では「児童への見守り」にシフトしつつある。当該事業はこれまで教育委員会が中心に担ってきたが、市長部局における防犯施策や子ども施策等と連携し、時代に合わせた事業展開を検討していく必要がある。</p>		

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	<p>○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。</p> <p>○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。</p> <p>○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。</p>	
施策	(4) 家庭や地域の子育て力の向上と子どもの社会参加の促進	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○家庭や地域の子育て力・教育力の維持向上を図ります</p> <p>○子どもの居場所の更なる充実を図ります</p> <p>○子どもの意見を生かす子ども参加型のまちづくりに取り組みます</p> <p>○青少年の孤立を防ぎ、自立と就労を支援します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	子ども議会事業	青少年育成事業
	家庭教育推進事業	児童館運営事業

実施した主な内容	<p>妊娠期から思春期まで成長過程別の親育ち講座を実施した。</p> <p>各地域児童館・子ども館を子どもの居場所として健全育成に努めるとともに、地域における子育て支援拠点と位置づけ、児童館運営事業を実施した。また、児童館のない小学校区には児童厚生員が出向き、出前児童館を開設した。</p> <p>子どもの意見表明に関しては、第23回宝塚市子ども議会を開催し、市内の小・中・高等学校に所属する16名が提案や質問などを発表する機会を設けた。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「地域で子育てを温かく見守る雰囲気がある」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	31.0 (H30)	目標	-	32.7	-	-	-	-
			実績	-	29.2	-				
	達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないため、アンケートを実施していないが、R5年度実績では目標を達成することができなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		中学2年生アンケートで「宝塚市が好き」と回答した人の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	87.4 (H30)	目標	-	89.7	-	-	-	-
			実績	-	88.2	-				
	達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないため、アンケートを実施していないが、R5年度実績では目標を達成することができなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		18歳未満の子どもの人口1人当たりの児童館・出前児童館利用回数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	-	目標	2.48	2.76	3.13	3.6	3.6	
		実績	2.7	3.06	3.6					
達成状況とその理由	コロナの影響も無くなり、利用回数は増加傾向にある。									
④	指標名								めざす方向性	
	子ども議員から提案のあった事業のうち未着手の件数								↓	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	件	-	目標	0	0	0	0	0		
		実績	(7)	0	1					
達成状況とその理由	提案のあった21事業のうち未着手が1件であった。実現が難しい事業であっても検討や研究を行うなど子どもの意見を生かす工夫が必要である。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>家庭や地域の子育て力・教育力の向上に向けた子育て支援事業や子どもの居場所として児童館を安定して開設できた。子どもの意見を生かす子ども参加型の取組として子ども議会を開催し、子どもたちから市への提案を行ったが、提案事業のうち未着手となったものがあった（成果指標目標未達成）ことからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>子どもの居場所の充実を図る上で、新規施設の設置は難しく既存の居場所（児童館等）を安定的に運営していく必要がある。</p> <p>子どもの意見を生かす子ども参加型のまちづくりの取組として子ども議会を開催しているが、3年で市内の小中高を1巡する仕組みとなっており、子どもが意見を表明する取組としてはさらなる取組を検討する必要がある。また、現状では若者に特化した意見を表明する仕組みがないことから、仕組みづくりについて検討を進めるとともに、若者の社会参画を促進する取組についても検討を進める必要がある。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における子どもの居場所づくりに関しては、子ども家庭支援センターが司令塔となるのが理想である。 ・地域の子どもの居場所は児童館だけではなく、近所の公園や図書館といった、他の公共施設も居場所となりえるので、市全体の概念として考えていくべきである。 		

施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切にしている心が育まれている。	
施策	(1) 子どもの「生きる力」の育成	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○子ども一人ひとりが大切にされ、共に育つ教育を進めます ○学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図ります ○心身ともに健やかな子どもを育てます ○命の大切さや多様性について理解し、思いやりの心を持つ子どもを育てます ○時代に対応できる子どもを育てます ○ことばを大切にし、感性豊かな子どもを育てます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	学力向上推進事業	人権教育推進事業
	学校保健事業	学力調査事業
	特別支援教育推進事業	学力向上推進事業
	部活動推進事業	教育相談事業
	子ども支援事業	

実施した主要内容	子ども・保護者対象の面談、特別支援学級の環境整備、中体連市内大会での看護師派遣、人権講座の実施、サイエンスサポーターや心理サポーターの派遣など	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		中学2年生における新体力テストの結果（全国平均を上回る種目数：男女計16種目）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		種目	4(R1)	目標	8	8	8	8	8	8
				実績	3	2	6			
	達成状況とその理由	例年に比べ数値は伸びているが、個人の身体能力の高さなのか、中学校の指導によるものか、その理由については来年度以降の結果をみてからの判断となる。								
	②	指標名								めざす方向性
		新規不登校児童生徒出現率								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	1.56	1.24	1.20	1.34		
				実績	1.24	1.20	1.34			
	達成状況とその理由	全国的に不登校が増加し続ける中、本市においても不登校の児童生徒数が増えている。新規不登校出現率を抑えるために、更なる取組が必要である。								
	③	指標名								めざす方向性
		全国学力・学習状況調査の学習活動におけるICT機器活用に関する質問に対して「分からないことがあった時に、PC・タブレットなどのICT機器を活用してすぐに調べる」と回答している児童の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	94.4	95.1	92.1	国平均以上	国平均以上	
実績				90.4	94.2	88.9				
達成状況とその理由	国比約-3ポイントと国平均程度ではあるものの、主体的に学ぼうとする態度は生きる力の重要な要素であることから、今後の指標の向上を目指してICT機器の効果的な活用に関する取組を進めていく。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	新体力テストの結果は、例年に比べて実績値が伸びているが、対象生徒の個々の身体能力が高かったのか、中学校における指導の成果なのかは、来年度以降の状況を見てみないと判断が難しい。ICT機器活用については、児童生徒によるタブレット等の操作にも慣れが見られ、学習活動にICTを取り入れる機会が広がってきたが、学びの質の向上につながるよう、目的に応じた効果的な活用の工夫と実践的な研修の充実が求められる。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>生きる力を育むには、学校での学びを日常生活で活用したり、家庭での経験を学校生活に活かすことが大切である。そのため、学校や友達のこと、地域や社会の出来事などを家庭で伝えるためのコミュニケーション能力、ルールや規則を守る規律性、最後までやり抜く忍耐力、地域や社会に貢献しようとする姿勢は数値で図ることができない能力で、学校だけでなく、家庭や地域と連携して育んでいく必要がある。</p> <p>指標①については、中学校になってからの取組では遅いこともあり、令和6年度より市の事業として、小学校の教職員を対象に大阪体育大学の准教授を講師として招聘し、年4回研修を行い、小学校での体育の指導力の向上を行っている。指標②については、引き続き、不登校児童生徒の居場所づくりに努め、適切な支援をしていくことが大切である。指標③については、学習活動におけるICT機器活用には、まず教員がICTを活用していくことが必要である。そこで、教員の活用能力について、アンケートを実施し把握するとともに、各学校の課題に応じた達成目標を設定し、推進できるよう指導主事による校内研修など個別の支援を行っている。引き続き、個別の支援、また教育総合センターで実施しているスキルアップのための研修などの支援を行う。</p>		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において、包括的性教育を進め、社会的な固定観念や偏見に縛られず、自分らしく生きるための力を育む教育を目指すことが重要である。 ・ICT支援の教育に関しては、特に生成AI分野の著しい発展に伴い、求められるスキルが変容しているとも考えられる。プログラミング学習そのものよりも、実社会においてはAIに対する適切な指示を行うための論理や、他者とのコミュニケーションスキルを養うことが重要になっているのではないかと。国の方針よりも先取りで、真に必要な教育研究をしても良いのではないかと。 ・教育相談事業については、市長部局における子ども相談やケース対応等との関りも多く、連携を図っているところであり、今後も情報共有を密にし、連携を進めていく。 		

施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切に作る心が育まれている。	
施策	(2) 学校園、教職員の教育力の向上	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○いじめや体罰、ハラスメントを根絶します ○学校園の組織の充実を図ります ○学校教育を担う人材の育成に努めます ○安全・安心な学校園の整備を進めます ○非常時を含め時代に応じた教育環境の整備に努めます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	幼稚園運営事業	保幼小中連携教育推進事業
	研究・研修事業	教職員総務事業
	生徒指導支援事業	小学校施設整備事業
	中学校施設整備事業	
	中山台地区教育環境適正化事業	

実施した主要内容	空調設備の整備、保幼小中特別支援学校合同研修会及び管理職や職員を対象にした研修会の実施、生徒指導連絡協議会の開催など	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と回答した生徒の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	72.4 (R1)	目標	82.6	80.3	77.5	国平均以上	国平均以上	
				実績	78.8	77.3	74.5			
	達成状況とその理由	実績値は、目標値を下回っており、生徒自身の自身感情を高める取組が必要である。								
	②	指標名								めざす方向性
		全国学力・学習状況調査で「先生はわたしの良いところを認めてくれていると思う」と回答した生徒の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	39.9	40.0	44.2	国平均以上	国平均以上	
				実績	34.6	29.2	35.0			
	達成状況とその理由	令和5年度より実績値はあがっているものの、全国平均との開きは大きい。生徒の自尊感情を高める取組が必要である。								
	③	指標名								めざす方向性
		学校施設長寿命化計画に基づく事業実施率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	0	目標	32.9	49	62.9	80.4	91.6	100
			実績	26.6	42.0	62.9				
達成状況とその理由	当初計画から実施を変更したのもあったが、目標値を達成することができた。									
④	指標名								めざす方向性	
	全国学力・学習状況調査で「学校に行くのは楽しいと思いますか」と回答した生徒の割合								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%		目標	45.8	43.3	43.5	国平均以上	国平均以上	国平均以上	
			実績	52.7	51.1	48.9				
達成状況とその理由	各学校において、宝塚市いじめ問題再発防止に関する行動計画に基づいた取組を推進することで、生徒にとって安全で安心できる学校環境づくりに努めている。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標③については、目標値を達成したが、指標①、②ともに目標値を下回る。特に指標②については、本市の実績は昨年度を上回ったが、全国平均を大きく下回る。今後も目標に届くように努力をしていく必要がある。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>子どもがいきいきと育つために、良い学びを実現することが重要である。そのために目指すべき教育の姿、学校の姿、子どもたちの姿、教職員の姿を掲げ、関係者が共通の目標に向けて日々取り組むことが必要であり、そのために目標に掲げた姿の実現に向けた教職員の資質、能力の向上に資する研修を積み重ね、学校園における教育環境の整備を計画的、継続的に実施することが必要である。</p> <p>指標①、②は、本市の学校で起きた重大事態を受けて設定したものである。令和2年度より、毎年12月をいじめ防止月間と定め、一人一人の子どもたちが尊重され、主体的、自発的な活動を通して子どもたちが互いに認め合い、いじめをなくす学校・学級づくりにつなげるための取組を進めている。小学校では、人権月間と合わせ児童会が中心となり「やさしいことばがけをしよう」という生活目標をたて取り組んだり、中学校では、学年ごとに「相手がうれしい話の聴き方」の動画発表をしたりなど、各学校においてもいじめ防止にかかわる取組を行っている。一方で、指導をする場面が多いの現状もあり、子どもたちは認められるより指導されると感じる割合が高くなる傾向がある。今後も、宝塚市いじめ問題再発防止に関する基本方針、宝塚市いじめ問題再発防止に関する行動計画に基づき取組を強化していく。</p> <p>指標③については、今後も宝塚市学校施設長寿命化計画に基づき事業を進めて行く。</p>		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の工事入札に関しては、人材不足で企業が中々応札出来ない状況が続いており、包括的な委託や件数をまとめる努力を今後とも行う必要が出ている。 ・子どもが減少していく中であっても、小学校はまちの象徴として地域に開かれている状態が望ましいことから、校区の統廃合は戦略的に行っていただきたい。 ・子どもの教育として、探求学習も必要だが、基本は義務教育の基本たる基礎学力の向上が適切に出来ているかどうかである。子どもの発達是人それぞれであり、的確な教え方ができれば子どもは成長できるはずである。学ぶ楽しさに、いかに気づいてもらうかが大事である。 		

施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切にしている心が育まれている。	
施策	(3) 市民全体による子どもの支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○家庭・地域と連携し、子どもの発達を支援します	
--------	-------------------------	--

施策を構成する主な事務事業	トライやる・ウィーク推進事業	小学校体験活動事業
	地域学校連携協働推進事業	

実施した主な内容	中学校2年生のトライやる・ウィークの実施、小学校5年生の自然学校や3年生の自然体験学習の実施、TAKARAっ子いいきスクール推進事業でみんなの先生の招聘など	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		学校支援ボランティアの活動回数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	6882	目標 実績	前回値以上 8079	前回値以上 8521	前回値以上 9878	前回値以上	前回値以上	前回値以上
	達成状況とその理由									
	②	指標名								めざす方向性
		「地域全体で子どもの育成に取り組んでいると思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標 実績	前回値以上 -	前回値以上 30.1	前回値以上 -	37.5	前回値以上	前回値以上
	達成状況とその理由									
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標 実績						
	達成状況とその理由									
	④	指標名								めざす方向性
単位		現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標 実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	コミュニティスクールを導入して、3年目を迎え、学校運営協議会等の活動も少しずつ活発になっており、地域の力を借りながら、支援者の発掘が進んでいる。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	令和4年度より市内全小・中・特別支援学校において、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域の方に地域住民が参画できるコミュニティスクールを導入した。少しずつではあるが、各学校においても、地域を取り込んでの活動が進みつつある。しかし、地域の高齢化が進み、若年層の協力が得られにくい現状もある。教育委員会として、学校、地域と保護者のつながりをどのようにつくっていくのかを、有識者等の力をかりながら検討していく。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境学習に関しては、環境部や社会教育部と連携できれば相乗効果があるのではないかと考えられる。 ・学校運営協議会において、若年層の参加が課題と挙げられているが、具体的にどのような活動をしているのかといった広報活動に注力しつつ、ボランティア意識の醸成に努めていく必要がある。 		

施策評価表

施策分野	4-3 社会教育	
めざすまちの姿	<p>○誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりに生かされている。</p> <p>○様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっている。</p>	
施策	(1) 生涯を通じて学ぶことのできる環境の充実	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	<p>○学びをまちづくりに生かします</p> <p>○魅力ある図書館づくりを進めます</p> <p>○ふるさと宝塚の文化遺産を守り、活用します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	桜が丘資料室維持管理事業	中央図書館管理運営事業
	西図書館管理運営事業	歴史民俗資料館管理運営事業
	公民館管理運営事業	文化財保護事業
	学校支援地域本部事業	宝塚自然の家管理運営事業
	社会教育推進事業	市史編集事業

実施した主な内容	<p>○社会教育推進では、地域での社会教育活動の支援や振興を図った。○公民館では、市民生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行った。○宝塚自然の家では、豊かな自然環境の中で野外活動などを通じて市民の心身の健全な育成を図った。○文化財保護ほか管理、運営事業を通じて市内の文化財の保護継承及び活用を図った。○市立図書館、市史資料室では、幅広く資料を収集、整理、保存し、多種多様な市民の要求に応え生涯学習を支援した。○学校支援では、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援する体制づくりを整備した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		公民館登録団体・グループ数（3館合計）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		グループ	519	目標	580	610	640	670	700	730
				実績	623	714	786			
	達成状況とその理由	多様な学習活動が活発化したことから、目標値を上回る成果となった。								
	②	指標名								めざす方向性
		市立中央図書館、西図書館の来館者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	610000	670000	680000	610000	610000	610000
				実績	530010	564169	571749			
	達成状況とその理由	目標値に達することはできなかったが、図書館行事の増加に伴い、前年度を上回る来館者数となった。								
	③	指標名								めざす方向性
		宝塚自然の家利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	10000	10000	10000	11000	11000	11000
実績				11267	11757	12850				
達成状況とその理由	指定管理者による里山自然体験ができる複数のコンテンツの実施により、目標値を上回る利用者数となった。									
④	指標名								めざす方向性	
	公民館利用者数（3館合計）								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	人	231024	目標	280000	360000	360000	280000	325000	325000	
			実績	307743	325529	325476				
達成状況とその理由	指定管理者と連携し、多種多様な学びの機会を提供できたことから、目標は達成することはできなかったが、前年と同様の利用者となった。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	各社会教育施設において、各施設の特徴を活かし、市民に対して多種多様な気付きと学びの機会を提供することができていたことから、前年度と同様ないしは上回る利用につながった。新たなコンテンツの開発だけでなく、SNS等を効果的に活用した広報などによるものが大きいと考える。しかし、目標値を上回ることができなかった成果指標もあることから、B評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	各施設においては、経年による施設の老朽化による不具合も生じていることから、利用者の利便性や安全で快適な活動に資する環境整備を行っていくため、一次的に施設を休館することも想定されることから、成果指標の目標を達成することができない可能性が高まるが、調査や修繕、改修工事を計画的に実施していく必要がある。 また、今後も継続して、市民の生活様式やライフスタイルの変化に加え、ニーズの機微を捉え、新たなコンテンツやプログラムの開発に努めていく必要がある。同時に、大学や企業などの包括連携協定を結んでいる団体などとの積極的な連携を行い、魅力的な事業展開の検討を行っていく。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の家については、指定管理者の努力もあり、順調に事業が推進できていると考えられる。 ・図書館事業については、年間50万人以上の利用があるが、デジタル社会が進んだことにより、単なる図書の貸与にとどまらず、地域の居場所としての機能に広がっていると考えられるため、今後の事業展開を検討していく。 		

施策評価表

施策分野	4-3 社会教育	
めざすまちの姿	<p>○誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりに生かされている。</p> <p>○様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっている。</p>	
施策	(2) スポーツに親しむ環境づくりの推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり

施策の方向性	○市民のスポーツライフを支援します	
施策を構成する主な事務事業	ハーフマラソン実施事業	スポーツ施設管理運営事業
	学校体育施設開放事業	社会体育振興事業
実施した主要内容	<p>○スポーツ施設の管理運営では、市民のスポーツ、レクリエーションの場の提供、スポーツに関する市民団体及び指導者の育成、市民スポーツ大会及び教室などを実施。○社会体育振興では、スポーツ推進審議会やスポーツ推進員などの活動を通じて、市民スポーツの振興のための事業を行った。○学校体育施設開放では、市内公立小中学校で学校教育に支障のない範囲で市民のスポーツ、レクリエーション活動の場として開放した。○ハーフマラソン実施においては、市民の協働と参画により全国から集う人々との交流を深めた。</p>	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市立スポーツ施設利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	795482	目標	950000	1000000	1300000	1300000	1300000	130000
				実績	1231685	1159475	1192478			
	達成状況とその理由	目標を高めたが、施設改修工事の実施に伴う利用休止などの影響から、目標の達成には至らなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		スポーツ関連イベント参加者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	400	400	400	400	400	400
				実績	205	356	259			
	達成状況とその理由	目標の達成には至らなかった。実施日当日の天候に左右されることや周知不足などの要因があると考察する。								
	③	指標名								めざす方向性
		学校開放のべ利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	200000	200000	300000	300000	300000	300000
			実績	281140	297388	290349				
達成状況とその理由	前年とほぼ横ばいの利用者ではあり、引き続きスポーツへの関心の高まりは窺える。しかし、目標を高めたことから、目標値の達成までには至らなかった。									
④	指標名								めざす方向性	
	宝塚ハーフマラソン大会申込者数								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	人	-	目標	-	4700	4700	4700	4700	4700	
			実績	-	3510	5263				
達成状況とその理由	前年に引き続き、10マイルでの開催となったが、インフルエンサー等も活用したSNSによる発信も功を奏し、目標値を上回った。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	各成果指標において、目標値をクリアには至っていない項目もあるが、前年並みの成果があったことに加え、今後も市民のスポーツニーズの把握に努め、健康増進や余暇の充足に資するプログラムの検討実施の余地もあることからB評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>スポーツ施設の管理運営に関しては、施設、設備、備品の老朽化に伴う改修、整備が課題である。予算の範囲内で計画的に保全を行ってはいるが、老朽化に伴う緊急対応が必要な事案が生じているのが現状である。利用者が安全且つ快適にスポーツを楽しんでいくためには、抜本的な対策が必要である。</p> <p>学校体育施設開放では、身近な場所で多様なスポーツを実施したいといったニーズに対応するため、施設の利用調整などを行っていくことを検討する必要がある。</p> <p>ハーフマラソンに関しては、県の河川改修に伴い、ハーフの距離が確保できない状況が令和9年度まで続くことが予定されており、長距離走者の満足度を補完できる企画を継続して検討していく。</p>		
総合評価	<p>成果指標①市立スポーツ施設利用者数③学校開放のべ利用者数に関しては、改修工事やR6年度の数値目標を上方修正していることにより、目標達成には至らなかったものの、一定水準は達成できていると評価している。</p> <p>施策全体として、近年の気候変動に対応したスポーツのあり方を検討しつつ、広く市民がスポーツを楽しめる機会を創出していく。</p>		

施策評価表

施策分野	5-1 都市景観	
めざすまちの姿	○北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしさを感じる景観が保たれ、魅力を増している。	
施策	(1) 「宝塚らしさを感じる景観」の魅力の向上	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○住民主体のまちづくりや情報の発信により、市民意識の向上を図ります ○新たな土地利用において良好な景観の形成を誘導します ○自然や歴史・文化などにより培われた良好な景観の維持保全を推進します ○新たな制度設計やガイドラインについて検討します ○屋外広告物の規制・誘導を行い、違反広告物の減少を目指します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	都市景観保全・創出事業	

実施した主な内容	宝塚らしい良好な景観を維持・形成するため、一定規模以上の建築物の新築等の届出、特定大規模の開発における個別協議、景観啓発活動、屋外広告物の許可・簡易除却などを実施した。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「市域全体の景観保全への市の取組が十分できている又はできている」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	20(H30年度)	目標	-	22	-	-	-	-
				実績	-	28.3	-			
	達成状況とその理由	-								
	②	指標名								めざす方向性
		景観啓発等について協働で取組んだ市民団体数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		団体	-	目標	13	15	15	15	15	15
				実績	13	15	15			
	達成状況とその理由	達成 過年度きずなづくり推進事業によって採択された団体と、冊子を活用した情報発信による景観啓発に取り組んだ。								
	③	指標名								めざす方向性
		「宝塚らしさを感じる魅力的な景観が保たれていると思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	-	15	-	-	-	-
			実績	-	20.9	-				
達成状況とその理由	-									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	指標②は、過年度きずなづくり推進事業によって採択された団体と、冊子を活用した情報発信による景観啓発にも取り組んでおり、目標値も踏まえて達成としている。さらに、平成24年度に策定した景観計画の見直しにも着手しており、A評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	平成24年度に策定した景観計画について、策定後十余年を経過しており、蓄積した制度の課題解消が必要となっている。このことから、景観審議会での意見を踏まえつつ、景観計画の見直しに取り組んでいく。 今後も、良好な景観を維持・形成するため、新築時等の届出や屋外広告物等の許可の制度を引き続き運用しつつ、必要に応じて助言や違反指導にも取り組んでいく。		
総合評価	当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。		

施策評価表

施策分野	5-2 緑化・公園	
めざすまちの姿	〇まちを彩り、ゆとりを与える「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増している。	
施策	(1) 地域の特性やニーズに応じた都市公園等の利活用の推進	
総合戦略での位置付け	〇基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	〇地域ニーズに合った公園整備を推進します 〇公園の特性に応じた多様な主体による管理運営や利活用を推進します 〇地域の特性に応じた街路樹の整備に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	公園維持管理事業	既設公園整備事業
	既設公園整備事業_インフラ保全	

実施した主要内容	令和4年4月に改訂した宝塚市みどりの基本計画に基づき、令和5年度から3カ年かけてパークマネジメント計画や街路樹管理計画、都市計画公園の見直しガイドライン等の策定に取り組んでいる。 公園施設長寿命化計画に基づく公園施設更新を行ったとともに、遊具新設や公園リノベーション事業により、地域ニーズを反映した公園整備を行い、公園の有効活用や公園アドプト活動団体をはじめとする地域活動の活性化に努めた。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		公園アドプト制度により市民団体などが管理する公園数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		公園	65	目標	64	65	66	67	68	69
				実績	65	65	59			
	達成状況とその理由	市民団体の高齢化などにより団体数が減、それに合わせて管理する公園数も減となり、目標値を達成しなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		公園で開催されるイベントの数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	146	目標	174	188	202	216	230	244
				実績	206	208	205			
	達成状況とその理由	目標値を達成したが、直近3カ年がほぼ同数となっており一定のイベント数に達したと思われる。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標①は新たな市民団体の加入があったものの、全体では減となり、その影響を受けて目標値を達成しなかった。しかし、指標②は目標値を達成したため、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	現在、パークマネジメント計画や街路樹管理計画、都市計画公園の見直しガイドライン等の策定に取り組んでいるが、令和7年度末完了を目途としているため、適正な事務執行に取り組む。 公園リノベーション事業は、公園の有効活用や地域活動の活性化が図れ、さらに公園アドプト活動団体が公募できる条件となっていることから新たな団体の加入に有効な事業であるため、今後も継続して取り組む。		
総合評価	公園整備においては、自然的要素を重視しつつ、子育て世帯の安心や景観形成に資する取組を進めることが重要であると考ええる。緑化基金については現行では用途が限定されており、その活用方法を再考し、持続可能な財源確保につなげることに検討が必要であると考ええる。また、クリーンセンターで発生するウッドチップを公園に活用することは、資源循環と環境負荷軽減の観点から有効であり、活用可能性を整理しつつ導入を検討することが望ましいと考える。		

施策評価表

施策分野	5-2 緑化・公園	
めざすまちの姿	〇まちを彩り、ゆとりを与える「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増している。	
施策	(2) 花と緑が豊かで、美しく潤いのある都市空間形成の推進	
総合戦略での位置付け	〇基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	〇市民の緑化意識の醸成を図ります 〇民有地の緑化を推進します 〇地域緑化モデル地区指定団体を支援します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	花と緑の市民活動推進事業	緑化基金活用事業

実施した主要内容	指定した保護樹等へ保護樹等緑化推進助成金を交付し、民有地緑化を推進した。 地域緑化モデル地区指定団体へ花苗等の配布を行い、活動を支援した。 地域緑化モデル地区指定団体を対象とした花苗講習会などを開催し育成支援に取り組むとともに、安倉フラワーガーデンを市民緑化推進基地として活用し市民の緑化意識醸成に取り組んだ。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		地域緑化モデル地区指定団体数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		団体	113	目標	115	116	119	120	120	120
				実績	116	119	120			
	達成状況とその理由	令和3年度から実施している花苗講習会などの取り組みにより、目標値を達成した。								
	②	指標名								めざす方向性
		花苗講習会などの参加者団体数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		団体	0	目標	55	56	57	58	59	60
				実績	46	31	36			
	達成状況とその理由	花苗に関する様々な講習会を開催したが、参加団体が少なく目標を達成しなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①は地域緑化モデル地区の活動成果や花苗講習会などの取り組みにより、目標値を達成した。指標②は参加呼び掛けを行うが目標値を達成しなかったため、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>花苗講習会などの開催は、地域緑化モデル地区指定団体の活動を後押し、さらに地域住民を含めて緑化意識の醸成につながると考えており、今後も継続して取り組む。 現在策定中のパークマネジメント計画において、市民等との協働により各まちづくり協議会の区域ごとに公園区を設定し、公園等の利活用、管理運営、再編などに向けた公園区計画を定めていくが、この計画を定める協議の場で新たな地域緑化モデル地区指定団体の確保に向けて取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	5-2 緑化・公園	
めざすまちの姿	○まちを彩り、ゆとりを与える「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増している。	
施策	(3) 緑地や里山・まち山の保全・再生の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	—

施策の方向性	○緑地や里山・まち山の保全活動を促進します ○緑地や里山・まち山の保全活動団体を支援します	
施策を構成する主な事務事業	公園維持管理事業	生物多様性戦略推進事業
実施した主な内容	緑地や里山・まち山の保全活動団体へ資機材の提供等を行い、活動を継続的に支援した。 令和4年4月に改定した宝塚すみどりの基本計画に基づき令和5年度から3カ年かけてパークマネジメント計画の策定に取り組んでいるが、その中で桜の園の魅力向上に資する基本方針の検討に着手した。	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		北雲雀きずきの森緑地における環境保全団体の年間活動日数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		日	82	目標	94	94	94	94	94	94
	達成状況とその理由	雨天中止により目標値を達成しなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		桜の園における環境保全団体の年間活動人数								→
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	480	目標	540	572	606	606	606	606
	達成状況とその理由	環境保全団体の高齢化に伴い、年間活動人数が減少し、目標値を達成しなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		丸山湿原における環境保全団体の年間活動人数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	328	目標	500	550	600	650	700	750
	達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症の流行が過ぎて、活動回数と参加人数が増え、年間活動人数が増加し、目標値を達成した。								
	④	指標名								めざす方向性
松尾湿原の環境保全団体の年間活動人数								→		
単位		現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
人		139	目標	140	140	140	140	140	140	
達成状況とその理由	環境保全への関心が高いが、活動参加者の高齢化に伴い、目標値を達成しなかった。									

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標③は目標値を達成したが、指標①、②は活動参加者の高齢化が進み参加が難しくなったと思われ、目標値を達成しなかったことからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>今後も継続して、緑地や里山・まち山の保全活動団体へ資機材の提供等を行い活動を支援するが、新たな活動参加者の確保が必要になってきている。 広報等により環境保全団体の活動内容のPRに努め、関心のある方々への参加促進に取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>当該施策については、順調な取組進捗を確認できたことから、事業方向性を継続し、引き続き成果指標の目標値の達成に向けて事業を推進していくこととする。</p>		

施策評価表

施策分野	5-3 環境保全		
めざすまちの姿	○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。 ○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。		
施策	(1) 温室効果ガス排出量の削減		
総合戦略での位置付け	—		—

施策の方向性	○「COOL CHOICE」などの取組を通じて、エネルギー消費量の削減を進めます ○地域主体の太陽光発電など再生可能エネルギーの導入を推進します		
--------	---	--	--

施策を構成する主な事務事業	省エネルギー促進事業	再生可能エネルギー導入推進事業
	再生可能エネルギー基金活用事業	二酸化炭素排出抑制対策事業

実施した主な内容	住宅や事業所の脱炭素を推進するために、国の地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、太陽光発電設備・蓄電池の導入費用及び省エネルギー設備への更新費用の助成を実施した。また、住宅の太陽光発電設備については、県内市町等との連携により共同購入支援を行い、導入を促進した。市施設では、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用し、高効率空調への更新、LED導入を行った。啓発については、「省エネチャレンジたからづか」の実施、「たからっ子エコライフノート」の小学校の授業における活用、市制70周年記念事業「地球温暖化防止講演会」及び「エコ×エネフェス」の開催などにより、子どもや家庭での省エネ実践の促進に取り組んだ。		
----------	---	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		温室効果ガス排出量（市域）								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		t-CO2	581713	目標	545370	527199	509028	490857	472685	454514
			実績	569743	613056	666602				
	達成状況とその理由	排出量算定に用いるCO2排出係数が前年度より上昇したため、温室ガス排出量は前年度実績に比べ増加した。								
	②	指標名								めざす方向性
		温室効果ガス排出量（市事務事業）								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		t-CO2	20839	目標	19055	18163	17271	16379	15487	14595
			実績	18606	20488	22641				
	達成状況とその理由	排出量算定に用いるCO2排出係数が前年度より上昇したため、温室ガス排出量は前年度実績に比べ増加した。								
③	指標名								めざす方向性	
	太陽光発電設備の累計設置件数（固定価格買取制度適用）								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	件数	4843	目標	5500	6000	6500	7000	7500	8000	
		実績	5592	5916	6261					
達成状況とその理由	設置件数は着実に増加した。太陽光発電設備等の共同購入支援事業の実施や啓発効果によるものと考えられる。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	国の交付金を活用した地域脱炭素移行・再エネ推進助成金事業や太陽発電設備等の共同購入支援事業の実施により、住宅及び事業所への太陽光発電設備の導入及び省エネルギー設備への更新を推進することができた。また、温室効果ガス排出量は、市域及び市事務事業においてCO2排出係数が上昇したことにより、前年度より増加となり、年度目標に届かなかったため、評価はBとする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>国の地域脱炭素移行・再エネ推進交付金を活用した住宅及び事業所への太陽光発電設備・蓄電池の導入費用及び省エネルギー設備への更新費用の助成事業は、申請が多数あり、予算額を余すことなく活用できた。令和5年度は、設備・機器の内訳で見ると太陽光発電設備の対象が自家消費型であるため活用が少なかったが、令和6年度の実施においては、蓄電池を合わせて導入の場合は、蓄電池も助成対象とし、太陽光発電設備の導入を推進できた。市施設においては、国の地域脱炭素移行・再エネ推進交付金の活用による太陽光発電設備の導入を検討したが候補が見つからなかった。</p> <p>啓発については、SNSによる情報発信に力を入れていくとともに、事業者との連携による取組を進めていく必要がある。</p> <p>公共施設の電力消費においては、近隣市で取り組まれている再エネ電力リバースオークションを令和7年度から導入する。</p>		
総合評価	<p>・温室効果ガス排出量の削減指標は、CO2排出係数などの影響が大きく、すぐに効果が現われる性質のものではないが、近年の異常気象なども踏まえ、世界的に削減取組が強化されていくことが予想されるため、今後も様々な施策により継続して取り組んでいく。</p>		

施策評価表

施策分野	5-3 環境保全	
めざすまちの姿	<p>○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。</p> <p>○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。</p>	
施策	(2) 関係団体等との連携による多様な生物が存在する豊かな自然環境の保全	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○生物多様性の保全対策を充実します</p> <p>○人の営みと自然環境との調和を取りながら、生物多様性の保全意識の向上を図ります</p> <p>○特定外来生物に関する情報を提供するとともに、環境保全活動を通じて防除に努めます</p>	
施策を構成する主な事務事業	生物多様性戦略推進事業	
実施した主要内容	<p>生物多様性の保全への関心を高め、実践を広めるために、たからづかECO講座やホテル観賞のタベ、水辺の生き物探検、オオキンケイギク駆除など、多くの啓発イベント等を実施するとともに、SNS等による情報発信を行った。オオキンケイギクの駆除については、逆瀬川にて3回実施した。また、生物・生態系については、全スポット129のうち32スポットが未調査であり、生物多様性たからづか戦略の改定に向けて残り32スポットの調査を行った。生物多様性たからづか戦略改定については、基礎調査を行いながら、環境審議会の小委員会で審議を3回行った。</p>	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		環境保全活動団体数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		団体数	25	目標	27	28	29	30	31	32
				実績	24	25	25			
	達成状況とその理由	環境都市宝塚推進市民会議の参加団体の変更、増減はなく、目標に届かなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		生物多様性たからづか戦略の進捗率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		率	52	目標	70	80	90	100	100	100
				実績	52	52	52			
	達成状況とその理由	啓発イベントの参加者数は増加したが、目標達成又は基準年度より改善した項目の数の計は、前年度と同数であり、進捗率は横ばいである。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>多くの啓発イベントの開催やSNSによる積極的な情報発信により、多くの市民がイベントに参加し、情報に触れる機会は提供できたが、環境保全活動団体への加入者は少なく、団体の活動自体も高齢化や世代交代が進まないことなどから、活性化しているとは言い難い状況である。環境保全活動団体数及び生物多様性たからづか戦略の進捗率は横這ばいであり、目標には届かなかったことからB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>令和7年度内に生物多様性たからづか戦略を改定する必要がある。その中で、今後の生物多様性の保全や再生に向けた、基本理念、目標、方針、施策、取組等を決めていく。合わせて、啓発活動を行い、環境保全に取り組む人を増やし、活動団体の活性化を図っていく必要がある。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>指標②生物多様性たからづか戦略の進捗率はR2年度の目標設定時から進んでいないため、環境啓発イベントを実施するだけでなく、多様な方々に環境保全に関心を持ってもらい、継続的に活動に関わってもらえる仕組みを構築し、市内の豊かな自然環境や生物の多様性を次世代に残せるように取り組んでいく。</p>		

施策評価表

施策分野	5-3 環境保全	
めざすまちの姿	<p>○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。</p> <p>○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。</p>	
施策	(3) 健康に暮らせる環境の維持	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○公害の未然防止に努めます</p> <p>○河川などの水質保全に努めます</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	公害対策事業	西谷地区生活排水対策推進事業
	合併処理浄化槽設置整備事業	

実施した主な内容	<p>健康被害のおそれがある光化学スモッグの原因となる光化学オキシダントや微小粒子状物質（PM2.5）等の大気汚染物質、河川や地下水等の水質及び自動車騒音の常時監視、航空機騒音測定等の実施により、市内各所で良好な環境が維持されていることを確認するとともに、公害の発生源となり得る事業場に対する指導、市民からの相談への対応等を行った。</p> <p>西谷地区の水質保全のため、同地区に設置されている主に処理対象人数10人以下の合併処理浄化槽の法定維持管理を実施している者に補助金を交付し、適性の維持管理を促進した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		環境基準達成率（大気質）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	89	目標	89	89	89	89	89	89
			実績	89	89	78				
	達成状況とその理由	浮遊粒子状物質が非達成となったことで目標値を下回った。ただし、これは令和6年4月に観測した黄砂の影響によるものであり、人為的な大気汚染ではないことが確認できた。								
	②	指標名								めざす方向性
		環境基準達成率（水質）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	96	目標	96	96	96	96	96	96
			実績	96	96	97				
	達成状況とその理由	人為的な発生源による人の健康の保護に関する環境基準の超過は確認されず、目標値を達成することができた。								
③	指標名								めざす方向性	
	環境基準達成率（騒音）								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%	94	目標	94	95	95	95	95	95	
		実績	97	96	97					
達成状況とその理由	良好な環境が維持されたことで、目標値を達成することができた。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

担当部局 評価	A	評価の 理由	環境基準達成に向けた監視や事業場に対する指導、市民からの相談への対応等をしっかり行った。実績値については、大気質では浮遊粒子状物質が環境基準非達成となったことで目標値を下回ったが、令和6年4月に観測した黄砂の影響で一時的に濃度が上昇したことが原因で、影響期間が短く人為的な大気汚染ではないことが確認できた。水質及び自動車騒音では目標値を達成しており、良好な環境が概ね維持されていると言え るため、Aとする。
施策を進 める上 での課 題と それを 踏ま えた 今後 の取 組	<p>大気質については、浮遊粒子状物質が環境基準非達成となったことで目標値を下回ったが、令和6年4月に観測した黄砂の影響で一時的に濃度が上昇したことが原因で、影響期間が短く、人為的な大気汚染ではないことが確認できた。引き続き市民に向けて注意点等を周知など健康被害の防止に努める。</p> <p>水質については、人の健康に係る環境基準項目において、自然由来とみられる基準値の超過が確認されているが、周辺の利水状況から健康被害の恐れはないと推測される。今後も監視を継続し、水質の状況を把握する。河川等のPFASについては、国の基準の超過はないが、数値について注視していき、必要に応じて詳しい調査も行う必要がある。</p> <p>道路騒音については、面的な評価を継続して行う。航空機騒音については、騒音に関する情報収集を行いながら、測定値が環境基準内であるかを確認していく。現在、良好な環境が維持されていると考えるが、これを維持していくには、現状の調査を継続するとともに、必要に応じて注意喚起を行っていくことが必要である。また、さらに環境を向上させていくには、国の動向や法改正の状況、他市の実施の状況を注視・研究し、対応を図っていく。</p> <p>西谷地区生活排水対策推進事業については、合併処理浄化槽の老朽化が進み、法定維持管理費用の負担が高くなっていることや市南部地域の平均的な下水道料金と比べて高いことから、令和6年度においては補助額を増額した。</p>		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な生活環境は豊かな市民生活に欠かせない基礎となる部分であるため、継続して調査・観測を行い、良好な環境を維持していく。 		

施策評価表

施策分野	5-3 環境保全	
めざすまちの姿	○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。 ○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。	
施策	(4) 環境保全を担う人材の育成	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	○環境教育・学習を推進します ○環境保全活動を支援します	
--------	---------------------------------	--

施策を構成する主な事務事業	環境推進事業	

実施した主な内容	環境保全への関心を高め、環境保全活動に取り組む人を増やしていくために、環境保全活動団体・事業者が参加する環境都市宝塚推進市民会議等と協働し、環境フォーラムや、全7回のECO講座等の啓発事業を行った。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		たからづかECO講座の受講者数（累計）								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	443	目標	485	505	525	545	565	585
				実績	463	482	492			
	達成状況とその理由	幅広い環境学習により環境保全に取り組む人材を育成する全7回のたからづかECO講座コース受講者は、10名であり、目標には届かなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		たからづか環境マイスター登録者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	6	目標	10	20	25	25	25	25
				実績	6	6	6			
	達成状況とその理由	ECO講座受講修了者を対象に、環境保全や環境学習の指導者であるたからづか環境マイスター登録者を増やすこととしているが、新たな登録には至らなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	環境フォーラムについては、講演や発表など充実した内容とするとともに、122人の参加があり、環境保全の関心を高めることができた。たからづかECO講座については、コース受講者だけでなく、公開講座として実施し、261人の参加があった。このように啓発事業に対して多くの市民の参加があったが、地域の環境保全活動のリーダーとなりうるたからづか環境マイスター登録者を増やすには至らなかったため、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	環境フォーラム及びたからづかECO講座に多くの市民の参加があるが、環境保全に取り組む人が大きく増えたり、たからづか環境マイスターの登録者が増えたりするには至っていない。環境マイスター登録制度の見直しを環境基本計画の改訂に合わせて行っていく。環境保全に関心のある人がつながり、広がるSNS等を利用した新たな仕組みづくりの検討も必要であると考えます。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・たからづか環境マイスターを介して啓発活動を実施していく方法が効果的かを検証し、市民が気軽に環境保全活動に参加できるような方法を検討しながら、市内の豊かな自然環境や生物の多様性を次世代に残せるように取り組んでいく。 ・庁内関係部や県との連携も視野に検討を進める。 		

施策評価表

施策分野	5-4 循環型社会	
めざすまちの姿	○ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会づくりが進んでいる	
施策	(1) ごみの減量・資源化の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○スマートフォンアプリなどを活用した不用品の販売などごみを作らない生活の工夫や資源ごみの店頭回収など、3Rの取組を推進します</p> <p>○事業系ごみの分別徹底による資源化や廃棄食材の削減などに努め、ごみの減量化を推進します</p> <p>○中間処理におけるリサイクルを推進し、焼却ごみの削減を図ります</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	清掃総務事業	ごみ減量化・資源化推進事業
	緑のリサイクル事業	

実施した主要内容	<p>○ごみ減量化のインセンティブなどを目的として、一般廃棄物減量等推進審議会を3回開催し、事業系ごみ手数料の見直し（値上げ）の答申を受けるに至った。</p> <p>○リユース事業者と協定を締結し、市民自らが不要になった粗大ごみ等をリユースできる仕組みの構築を行った。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市民一人1日当たりの燃やすごみ平均排出量（家庭系ごみ）								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		g/人・日	412.6	目標	412.1	411.9	411.7	411.5	411.2	
			実績	396.4	383.7	371.8				
	達成状況とその理由	市民意識の高揚により減少傾向。								
	②	指標名								めざす方向性
		事業系燃やすごみ排出量								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		t	14363	目標	14169	14072	13975	13878	13781	
			実績	14312	14430	14304				
	達成状況とその理由	経済活動の影響が大きく未達成。								
	③	指標名								めざす方向性
		焼却ごみ量								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		t	53232	目標	52853	52663	52473	52284	52094	
		実績	51184	48765	48059					
達成状況とその理由	事業系増も家庭系減により減少傾向。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>事業系のごみ排出量は増加傾向にあるが、家庭系の燃やすごみ排出量は市民意識の高まりにより指標は目標を大きく下回ることができ、結果として焼却ごみ量は減少している。</p> <p>評価としては、事業系ごみが目標達成できていないことから「B」としている。</p> <p>今後は事業系ごみの減量が達成できるよう施策展開していく。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化に向けての啓発方法は、ホームページ・SNS・スマホアプリを活用する方策など現在社会にマッチした方法を検討していく必要がある。 ・事業系燃やすごみが増加してきていることから、分別等の啓発が必要だが、そもそも市内事業所の把握が困難であることや景気など経済活動をコントロールできないことから、どのような啓発や対応が有効か検討していく。 		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量はごみ焼却施設の長寿命化により市民の負担軽減にもつながる取組であるため、継続的に啓発、推進を行っていく。 		

施策評価表

施策分野	5-4 循環型社会	
めざすまちの姿	○ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会づくりが進んでいる	
施策	(2) 安全で安定したごみ処理	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○計画的に修繕するなど、ごみ処理施設を適切に維持管理します</p> <p>○事業の進捗状況などの情報を発信し、市民の信頼を得ながら、エネルギー回収推進施設（ごみ焼却炉）等の新ごみ処理施設を整備します</p> <p>○高齢化により増える一人暮らしでごみ出しが難しい高齢世帯に対応した福祉収集に取り組みます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	し尿処理事業	塵芥処理事業
	新ごみ処理施設整備事業	し尿収集事業

実施した主要内容	<p>○仮設リサイクル施設の建設は予定どおり完了し、令和6年度から稼働している。</p> <p>○きずな収集対象世帯の増に対応するため、直営収集していた紙布収集を全て民間委託とし、5班10名体制（+班長1名）から、6班12名体制（+班長2名）に拡充した。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性	
		施設の緊急停止回数									↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		回	0	目標	0	0	0	0	0		
				実績	0	0	0				
	達成状況とその理由	適切な維持管理により緊急停止することがなかった									
	②	指標名								めざす方向性	
		エネルギー回収推進施設（ごみ焼却炉）の整備工事進捗率									↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	-	目標	0	0	1	14	49		
				実績	0	0	2				
	達成状況とその理由	スケジュールどおり実施できた									
	③	指標名								めざす方向性	
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
			実績								
達成状況とその理由											
④	指標名								めざす方向性		
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9		
			目標								
			実績								
達成状況とその理由											

<p>担当部局 評価</p>	<p>A</p>	<p>評価の 理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ごみ処理施設については、日常点検や定期点検を的確に実施し、計画修繕や適時の修繕、整備を実施したため、施設を停止することなく安定的に運転し、市内で発生したごみを安定的かつ衛生的に処理し、衛生的な生活環境を維持することができた。 また、し尿処理については、し尿処理施設の解体により、外部処理委託を行い、適正に処理できている。 ▪ 新ごみ処理施設については、ほぼ計画通り事業の進捗ができており、予定通り令和6年度から仮設リサイクル施設が稼働している。
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 新ごみ処理施設整備については、引き続き計画どおり事業が進捗するよう事業者との協議を密にするなどスケジュールを管理する。また、新施設が稼働するまでの間は、現施設が緊急停止等することがないように適切に管理する。 ▪ きずな収集については、対象世帯の増などを適切に把握し、対応していく。 		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ごみ処理施設の運用は、市民が衛生的に生活できる基礎となるものであるため、引き続き安全、安定運用に務める。 ▪ 新ごみ処理施設整備については事計画通りに工事が完了するよう取り組んでいく。 		

施策評価表

施策分野	5-5 都市美化・環境衛生	
めざすまちの姿	○まちの美化活動により、きれいで快適な生活環境が保たれている。	
施策	(1) 市民との協働による美化活動の推進	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○まちを美しくするという市民意識の維持・向上に努めます</p> <p>○ごみの不法投棄防止対策を進めます</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	都市美化推進事業	不法投棄未然防止事業
	都市美化推進事業	

実施した主な内容	<p>春秋の2回、「宝塚を美しくする市民運動」において一斉清掃を実施し、コロナ禍前には及ばないものの400を超える団体の参加があった。</p> <p>不法投棄防止については、西谷地区において監視カメラを1台増設した。また、西谷地区不法投棄未然防止協議会及び兵庫県と連携し、監視パトロールや不法投棄物の撤去を行った。</p> <p>市民からの苦情のあった管理不十分な空き地等の所有者に対し、適正管理の啓発を行った。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「宝塚を美しくする市民運動」参加団体数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		団体数	64	目標	80	400	430	435	440	445
				実績	356	423	444			
	達成状況とその理由	令和5年度以降の目標を令和4年度の実績に基づき設定したが、目標を超える団体数の参加があった。								
	②	指標名								めざす方向性
		不法投棄された家電リサイクル対象廃棄物の回収件数								↓
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件数	28	目標	18	16	14	12	10	8
				実績	21	14	6			
	達成状況とその理由	啓発活動の推進や関係機関と連携、監視カメラの増設により、推移としては件数は着実に減少しており、目標を達成することができた。								
	③	指標名								めざす方向性
		「宝塚を美しくする市民運動」でのごみ回収量								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		t	21.7	目標	40	150	155	160	165	170
実績				117	129	103				
達成状況とその理由	参加団体数については増加したが、ごみ回収量は減少し、目標に届かなかった。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>不法投棄された家電リサイクル対象廃棄物の回収件数は、目標を達成した。「宝塚を美しくする市民運動」の一斉清掃の参加団体数についても目標を達成した。しかし、ごみの回収量については、目標に届かなかったためB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>宝塚を美しくする市民運動については、令和4年度に、春秋の一斉清掃が再開され、以降も再定着している。参加団体数は、コロナ禍以前の数には戻っていないものの、令和4年度以降、増えている。しかし、ごみ回収量は、前年度より減少するとともに、目標も下回った。より多くの団体、より多くの人に参加してもらうため、共催者である宝塚市自治会連合会及び宝塚市自治会ネットワーク会議と協議を行っていく。</p> <p>不法投棄については、減少しているものの、未だ一部地域に不法投棄が存在する。監視カメラの設置が効果的であり、令和6年度も1台増設したが、さらなる設置も検討していく。あわせて、西谷地区不法投棄未然防止協議会及び兵庫県とそれを踏引き続き連携するとともに、市職員によるパトロールも行っていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宝塚を美しくする市民運動」でのごみ回収量は、市内のごみ量が減ったため減少したとも考えられ、担当部評価は妥当と考える。 ・「宝塚を美しくする市民運動」は、活動が十分に認知されていないことも考えられるため、市民一人一人に情報が伝わるよう情報発信の方法を検討していく必要がある。 		

施策評価表

施策分野	5-5 都市美化・環境衛生		
めざすまちの姿	○まちの美化活動により、きれいで快適な生活環境が保たれている。		
施策	(2) 環境衛生の維持		
総合戦略での位置付け	—		—

施策の方向性	○ペットの適正管理を進めます ○害虫発生未然防止を図ります ○墓地の長期的・安定的な供給を推進します		
--------	--	--	--

施策を構成する主な事務事業	西山霊園管理事業	火葬場管理事業
	長尾山霊園管理事業	ペットとの共生都市推進事業
	畜犬対策事業	害虫駆除衛生事業
	宝塚すみれ墓苑管理事業	

実施した主要内容	狂犬病予防として、畜犬の登録申請受付、鑑札の交付、予防接種の推奨を行った。 飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費等の助成を実施するとともに、ペットの飼養に関する啓発、苦情相談などを行った。 害虫発生未然防止のため、公共用水路への薬剤散布、共用下水管への薬剤散布等の業務を実施した。 令和5年度に引き続き、宝塚すみれ墓苑の樹木葬式墓所の貸出、長尾山霊園の市外居住者への貸出をPRの上、行った。 西山霊園の墓参者用駐車場を整備した。		
----------	---	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		狂犬病予防注射接種率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	77	目標	78	78	78	79	79	79
				実績	74	75	76			
	達成状況とその理由	西谷地区を除き集合注射を実施しなかったが、集合注射を実施していた令和2年度以前の接種率と同程度の率である。畜犬の死亡届等を提出していない場合もあり、実際の接種率は実績より高い。								
	②	指標名								めざす方向性
		飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成金に係る手術実施数（累計）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件数	119	目標	115	110	105	100	95	90
				実績	43	28	37			
	達成状況とその理由	令和6年度の手術実施数は37であり、昨年度の28より増加したが、手術申請に取り組む人が少ない地域もあり、目標とは乖離している。								
	③	指標名								めざす方向性
		市営霊園使用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	9668	目標	9943	9981	10110	10194	10278	10362
実績				9936	10028	10281				
達成状況とその理由	長尾山霊園については、令和5年度に市外居住者への貸出を開始したことにより、令和6年度も貸出が増えている。宝塚すみれ墓苑の貸出については、一般墓所を除き、年度目標を超えている。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>市営霊園使用者数は目標に到達したが、狂犬病予防注射接種率及び飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成金に係る手術実施数については目標に達しなかったため、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>畜犬対策事業については、畜犬登録制度等の改正に応じて、畜犬システム（本市独自システム）の改修等を行う。飼い主のいない猫やペットによるトラブルを減らしていくために、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費等の助成の利用の促進、ペットの飼養に関する啓発、苦情相談などを継続的に行っていく。</p> <p>害虫駆除業務については、害虫駆除相談に対応しながら、計画的、継続的に実施していく。</p> <p>墓地の長期的・安定的な供給に向けては、長尾山霊園は施設・設備の老朽化対応を図っていく。宝塚すみれ墓苑は、令和5年度に貸出を開始した樹木葬式墓所について、今一度、現地説明会や情報発信によりPRを行い、貸出を増やしていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成金に係る手術実施数については、飼い主のいない猫の个体数が相当減少していると考えられるため、担当部評価は妥当と考える。 ・市営霊園については、変化するニーズに応えた形で貸し出し数を増加の取組を推進していく。 		

施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(1) 地域資源の磨き上げと掘り起こし	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○ウェルネスツーリズムの促進を図ります ○地域間の周遊性の向上を図ります ○多様な人材が協働して参加するコンテンツ開発に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業	

実施した主要内容	ウェルネスを体現する新しい観光コンテンツの伴奏支援、市内事業者や市国際観光協会等と連携した事業による観光消費額を伸ばす取組を行った。地域資源である温泉やタンサンを活用したイベントの実施や新たなコンテンツを提供するとともに、インバウンド向けコンテンツの造成にも取り組んだ。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		宿泊者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	100839	目標	138000	139750	141500	143250	145000	146750
				実績	143915	149402	145617			
	達成状況とその理由	ホテルの廃業により前年度から市内宿泊者数は微減となったが、施設の再開等の影響により宿泊者数は目標を達成した。								
	②	指標名								めざす方向性
		官民連携による新規観光コンテンツ提供数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		コンテンツ	-	目標	1	1	1	1	1	1
				実績	4	4	3			
	達成状況とその理由	3つのコンテンツを商品化し、目標を達成した。								
	③	指標名								めざす方向性
		観光消費額								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		百万円	39719	目標	88503	88690	88878	89065	89252	89439
			実績	78626	102383	未確定				
達成状況とその理由	例年10月頃に県より発表されるため、現時点での実績値及び達成状況は不明である。									
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>観光需要の回復により市内における観光客数は増加し宿泊者数も目標を達成した。コンテンツ開発においても、令和6年度は3コンテンツを商品化するなど順調に推移している。いずれのコンテンツも既存の地域資源を活用することで新たなコンテンツが創出されており、めざまちの姿の実現に寄与している。指標①について目標は達成したものの昨年度数値から減となったためB評価とした。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>開発したコンテンツが観光コンテンツとして定着するためには、事業の継続性が不可欠であり、事業者の意欲に大きく左右されることから継続した支援が必要である。また、その魅力が市内外や国外へ伝わり訪れる人が増加するためには、コンテンツをより大きなものに成長させていく必要がある。改善点の洗い出しや広報への協力など経済的な支援以外の部分で施策のフォローアップを行い事業者のモチベーションを維持することでコンテンツの成熟や定着を図る。また、ひょうごフィールドパビリオンを機としてエントリーしたコンテンツについては、県の協力を得ながらインバウンド需要を意識した取組を進める。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光庁などの国の予算の活用も検討し、積極的に観光施策に取り組んでいく。 ・市内には魅力的な観光スポットや店舗、イベントが多く存在するので、市内外に十分認知されるよう、点ではなく面として市の魅力を整理していく。 		

施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(2) 積極的な誘客に向けた国内外への情報発信	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○積極的な誘客の展開に取り組みます ○観光情報（資源）の積極的な発信に取り組みます ○観光資源の利用に向けた市民へのPRに取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業	

実施した主な内容	観光大使によるPRやSNS等を通じた情報発信、宝塚歌劇・市国際観光協会と連携し、宝塚歌劇の本拠地があるまちの特徴を活用したプロモーション事業や市民へのPRとして貸切公演の実施等を行い、市内の魅力発信に努めた。また、インバウンド誘致のために関西国際空港や京都でのプロモーションを実施した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		観光入込客数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	6623755	目標	11889000	11914000	11939000	11964000	11989000	12014000
				実績	10149022	10115686	10132521			
	達成状況とその理由	周年事業のイベントの増加により前年度より観光入込客数は増加したが、改修工事による施設の休止等の影響で目標値を達成できなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		外国人観光客数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	16843	16988	17133	17277	17422	17566
				実績	2596	9117	12191			
	達成状況とその理由	国内全体でインバウンド数が増加しており、その影響もあり市内の外国人観光客数も増加した。								
	③	指標名								めざす方向性
		市国際観光協会ホームページへのアクセス件数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	277132	目標	325000	350000	375000	500000	500000	500000
			実績	428755	475062	516479				
達成状況とその理由	全国的な旅行需要の回復やイベントの増加により、情報を求める需要が高まったものと考えられる。									
④	指標名								めざす方向性	
	観光大使活動回数								↑	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	回	-	目標	105	110	150	120	120	120	
			実績	160	137	190				
達成状況とその理由	周年事業やアフターコロナによるイベントの増加に伴いPR頻度が高まり、出務回数が増加した。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	観光需要の回復により市内における観光客数は国内外とも増加傾向となった。観光大使によるPRやSNS等を通じた情報発信、宝塚歌劇・市国際観光協会と連携した市民向け貸切公演の実施や動画配信など、まちの魅力を活用し、積極的なプロモーションを行った。また、インバウンド向けに関西国際空港や京都でのプロモーションを実施、手塚治虫記念館の外国人観光客の増にも繋がったが目標には達しなかった。どの指標においても上昇傾向にあるためB評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	本市の地域資源を活用し魅力あるコンテンツづくりを進めるとともに、市と市国際観光協会が連携し、県やひょうご観光本部等への働きかけを継続して行い、積極的な情報発信を行う。大阪・関西万博の開催により、日本全体でさらなるインバウンド増加が予想されるため、今後は国内旅行者の取り込みを図るとともに、観光大使によるPRやSNS等を通じた情報発信、インバウンド向けの発信強化を充実させることで、インバウンドの更なる取り込みに注力したいと考える。		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本市はインバウンドのポテンシャルがあると考えられるため、多様なツールや方法でのPRを検討し、更なる誘客を図る。 ・市内には魅力的な観光スポットや店舗、イベントが多く存在するので、市内外に十分認知されるよう、点ではなく面として市の魅力を整理していく。 		

施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(3) 持続可能な観光振興に向けた環境整備	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○来宝者に向けたインフラ整備に取り組みます ○観光に携わる関係者の合意形成と人材の育成を図ります ○観光消費額拡大を目指します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	温泉施設等管理事業	観光施設維持管理事業
	温泉施設等管理事業_建物保全	観光振興・宣伝事業

実施した主要内容	温泉施設については、イベントの実施や観光資源である温泉・タンサンの歴史パネルの展示を行うとともに、温泉水の安定供給のために泉源地の設備修繕等を実施した。また、県や市国際観光協会と連携し、大阪・関西万博のひょうごフィールドパビリオンにおけるツアーの造成、事業者との調整、ガイド育成など観光客が本市の魅力を楽しむことができる環境づくりに取り組んだ。観光噴水については、老朽化が著しいため噴水機能を一旦休止した。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		観光消費額								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		百万円	39719	目標	88503	88690	88878	89065	89252	89439
				実績	78626	102383	未確定			
	達成状況とその理由	観光消費額は例年10月頃に県より発表されるため、現時点での実績値及び達成状況は不明である。								
	②	指標名								めざす方向性
		市立温泉施設利用者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	115366	目標	180000	180000	180000	180000	-	-
				実績	130640	138372	146901			
	達成状況とその理由	目標値には達成しなかったものの順調に推移している。休館日を少なくしたことと集客イベントを定期的に実施したことが要因と推測される。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	市立温泉利用施設においては休館日を減らしたことや変わり湯などの集客サービスを定期的実施したこと で利用者数の増加に繋がり、それに比例して温泉供給量も増加した。また、コロナ禍で激減した会員数も徐 々に回復傾向にあるが、コロナ前の利用者数に未だ戻っていないことからB評価とした。
施策を進 める上 での課 題と それ を踏 ま え た 今 後 の 取 組	観光振興戦略で掲げる「ウェルネス」の一翼を担う温泉や観光施設を維持管理しながら、利用促進や景観保全など観光振興 に向けた環境整備を行う必要がある。温泉は市の観光振興において欠かすことのできない重要な資源であることから、今後 も継続すべき事業と考えている。一方、市立温泉利用施設は竣工から20年以上経過し、建物や設備の老朽化も著しく今後も 施設運営維持のために多額の維持管理費が必要となることから、民間事業者へのサウンディング情報を参考に施設の在り方 を引き続き検討する。		
総合評価	・市立温泉利用施設については、設備の老朽化等やコロナ禍を経た社会状況の変化を踏まえて、今後どのような方向性を目 指すのかがあり方を早急に検討していく。		

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(1) 新たな事業の創出	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○起業しやすい土壌づくりに取り組みます ○創造性の発揮による新事業創出を支援します ○次世代の創造性豊かな担い手育成に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	新事業創出総合支援事業	

実施した主要内容	商工会議所と連携し実施する創業セミナー、市内での起業促進のため起業時の融資に係る利子の一部を補助する制度を実施した。また、49才以下の若手起業家等が起業に向けたコンサルティング等の支援を受けた場合の費用の一部を補助する制度を実施した。 さらに、金融機関等と連携し、企業・創業に係る啓発コーナーを中央図書館にて期間限定ではあるが、設置したり、大学生に対する起業に関する機運醸成セミナーを実施した。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		起業した事業者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		者	31	目標	34	36	38	40	42	44
				実績	46	28	36			
	達成状況とその理由	前年度に比し、宝塚商工会議所が実施する創業セミナーと個別支援をの両方を活用するケースが多く、手厚い支援の結果、起業者数が増加した。								
	②	指標名								めざす方向性
		デザイナー等経営革新に必要な人材とマッチングした事業者数（累計）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		者	-	目標	6	9	12	15	15	15
				実績	5	7	7			
	達成状況とその理由	デザイン経営実践支援業務委託が令和5年度末をもって終了し、令和6年度に市からの薦めで新たにデザイン経営に取り組んだ事業者はいなかった。（本指標は累計値）								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>商工会議所と連携し実施した創業セミナーは参加者が前年度比増であったことに加え、同時に個別支援を受けることにより、起業者数が増加した。 デザイン経営の実践支援事業の終了に伴い、市からの薦めで新たにデザイン経営に取り組んだ事業者はいなかったが、これまでの支援対象者への後方支援を行った。 一方、金融機関等と連携し、図書館での啓発コーナーの設置や大学でのセミナーの実施など、市内での起業の機運醸成に向けた取組を新たに行ったことから、総合的に判断し、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>デザイン経営の実践支援事業を3年間行ったが、市内事業者へ十分な浸透には至らなかった。新事業を創出する支援策については、市内事業者のニーズを捉え効果的な施策を検討する必要がある。 学生向けの起業機運醸成セミナーは、就職以外の選択肢として起業を紹介するだけでなく、商工会議所や関係機関の協力を仰ぎながら、特に市内の大学や近隣大学で実施することにより、実態的な市内での起業につなげていきたい。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・デザイン経営支援が市内事業者のニーズを十分に捉えられていなかったことが考えられる。事業者が必要としており、活用しやすい施策を展開していく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(2) まちの活性化	
総合戦略での位置付け	○基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○個店からエリア全体の魅力向上を図ります ○既存事業所の市内立地継続支援に取り組みます	
施策を構成する主な事務事業	産業振興事業	中小企業振興資金融資幹旋事業
	企業活動支援事業	商工振興事業
実施した主要内容	新規出店しようとする事業者に対する設備整備や家賃に対する補助制度や、既存事業者の改装を支援する補助制度などに加え、商店街主体で実施するイベントの開催や販促活動等を支援する制度を行った。また、企業の新設、事業拡充に係る土地家屋、償却資産の固定資産税等に対し補助金を交付し、市内での企業活動を活発化させ雇用促進を図るとともに市外への流出防止に寄与した。 加えて、花のみち周辺において新たな人流を生み、賑わいを創出するイベント等を宝塚商工会議所に委託し、実施した。	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		1店当たり年間商品販売額								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		百万円	186 (H28)	目標	200	200	200	200	200	200
				実績	181 (R3)	181 (R3)	181 (R3)			
	達成状況とその理由	経済センサス活動調査による最新の数値が未更新のため、前年度と同値とする。								
	②	指標名								めざす方向性
		1事業所当たり製造品出荷額等（製造業のみ）								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		百万円	-	目標	1250	1250	1250	1250	1250	1250
				実績	1258	1205	1213			
	達成状況とその理由	経済構造実態調査の数値を参照。増加しているが、物価高騰の影響も少なからず受けているものと推察する。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>商店街が実施するイベントに対する補助支援は、予算額全額を概ね執行し、有効に活用された。新規出店を支援する補助制度は問い合わせ件数に比べ申請件数が少なく、予算を余す結果となった。 市外からの企業誘致や市内事業者の事業拡大を支援する補助制度については、令和6年度をもって補助期間が終了した。新規に補助対象事業者の該当はなかったが、今後も制度を継続する。 各事業の取組結果から総体的に判断し、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>各補助制度を、事業者目線に立った利用しやすいものにしていく必要がある。 課題としては、単年度予算主義の制限がある中で、現状では必ずしも事業者の希望するタイミングと申請期間が合致していないこと、制度の周知不足が挙げられる。 加えて、安定的な経営を行えているか、近隣エリアに相乗効果をもたらしているかといった視点で、補助対象事業者と継続的な関係性の構築に努める。 加えて、商工会議所とも連携し、事業者のニーズに沿った新たな事業展開を検討していく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・市内の経済循環率が近隣市に比べ低い状況ではあるが、市内には魅力的な店舗、イベントが多く存在するので、市内外に十分認知されるよう、点ではなく面として市の魅力を整理していく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(3) 宝塚ブランドを生かした魅力創出	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○シビックプライドの醸成による地域内経済循環の向上を図ります ○商工業施策と文化芸術施策の連携を促進します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	宝塚ブランド発信事業	宝塚フェスタ事業

実施した主な内容	例年参加しているイベントに加え、市制70周年記念レースや神戸まつりなどで物販の実施や、宝塚阪急と連携し、選定資源を中心に市内の銘菓等を集めた特設売り場を新設するなど、「モノ・コト・パ宝塚」のPRに努めた。また、物販等で活用できるPR看板などの物販用ツールを製作した。 実行委員会形式による宝塚サマーフェスタを市制70周年記念事業と位置づけ、幅広い年代が楽しめる内容で開催した。市は補助金の支出とともに、事務局として運営に参画しにぎわい創出と市内事業者の活性化に寄与した。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		地域経済循環率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	59.9 (H27)	目標	63	63	63	63	63	63
				実績	59.7 (H30)	59.7 (H30)	59.7 (H30)			
	達成状況とその理由	オープンデータの更新がなされていないため、前年度と同値とする。								
	②	指標名								めざす方向性
		SNS (Instagram、X) のフォロワー数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	650	1200	1450	1650	1850	2050
				実績	755	1357	1865			
	達成状況とその理由	Instagramを中心とした発信の強化や物販におけるPRに取り組み、前年度に比して大幅に増加し、目標値を達成した。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>モノ・コト・バ宝塚のPRの機会である、物販を年間8回実施し、認知度向上の一助となった。SNSのフォロワー数も大幅に増加している。一方で、物販のあり方やSNS投稿の回数や内容について、課題も散見される。 宝塚フェスタ事業については、大きな事故もなく前年度に及ばなかったものの多くの市民が来場され、にぎわい創出と市内事業者の活性化に寄与した。一方で、運営上の課題も散見され、実行委員会との対話が求められる。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>数ある選定資源の一つひとつの魅力を発信することに加え、「モノ・コト・バ宝塚」の認知度向上が課題となっている。同時に、選定制度を今後どのように継続していくのか等、宝塚ブランド事業のあり方自体を検討する必要があると考えている。 宝塚フェスタ事業については、開催時期や、運営方法、運営費用等の課題が山積しており、実行委員会との十分なコミュニケーションを取りながら、自走していけるよう引き続き協力体制を構築していく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・市内の経済循環率が近隣市に比べ低い状況にある。モノ・コト・バ宝塚の整理を行い、魅力をしっかりと発信できるよう努めていく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(1) 農業の持続的な発展	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○新規就農者や集落営農組織など地域農業の担い手を確保します ○地域に根付いた農業生産を推進します ○農地や農業用施設の適正な維持管理に努めます ○有害鳥獣による農作物被害の減少を図ります ○都市農業の振興を図ります	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	農業委員会事業	農業事務事業
	農業振興事業	新規就農者確保事業
	有害鳥獣防除対策事業	

実施した主な内容	野菜・畜産及び花き・植木など農業全般の振興及び農地の維持を目的とし、地産地消の取組、ハウス施設設備への補助、国の交付金に係る活動支援等を行った。また、新規就農希望者への支援により農業者の育成、確保に努めた。 有害鳥獣による農作物被害を防止するため防除及び捕獲の両面から支援を行った。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		集落営農組織数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		団体	5	目標	5	5	6	6	7	7
				実績	5	5	5			
	達成状況とその理由	令和12年度に10組織を目指しており、令和6年度末までに策定した地域計画において、設立する方向性を打ち出した集落に対して、設立に向けた支援を実施していく。								
	②	指標名								めざす方向性
		農地集積率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	12	14	14	16	16	18
				実績	11.5	11.95	12.6			
	達成状況とその理由	認定農業者や新規就農者、集落営農組織など担い手への利用権の設定、所有権移転などが進み、前年度比微増したが、目標値には至らなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		有害鳥獣による農作物被害額								↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		千円	4140	目標	3500	3500	3500	3500	3500	
実績				3338	3120	4285				
達成状況とその理由	侵入防止柵の未整備箇所や古い侵入防止柵から突破されるなどして、イノシシ・シカによる被害が増加した。									
④	指標名								めざす方向性	
	遊休農地面積								↓	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	ha	5.148	目標	4.50411	4.7881	3.14231				
			実績	5.9081	4.26231	6.3917				
達成状況とその理由	農地の再生を上回るペースで耕作できなくなった農地が増加し、前年度に比し、遊休農地面積が大幅に増加した。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>集落営農組織については、地域計画策定の過程でほとんどの対象集落が意向を示していることを確認している。一方で組織化に向けて新たに検討をはじめた集落は現時点ではない。パイプハウスの貸与事業をはじめとする新規就農者への支援により新規就農者や認定農業者等担い手への利用権の設定や所有権移転が進み農地集積率が微増した。一方で、農地の再生を上回るスピードで、耕作放棄される農地が増加し、遊休農地面積が増加した。また、有害鳥獣による農作物被害額も増加しており、これらのことから、B評価とする。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>集落ごとに策定する地域計画において集落営農組織化の意向が示されており、今後地域計画の目標に向けた取組において集落営農組織についても検討していく必要があり、集落ごとに意識や進度が異なるため、市も伴走支援をしながら機運醸成に努める必要がある。担い手への農地集積や遊休農地解消についても、集落が自分たちの集落・農地を守るという意識醸成が重要で、地域計画の目標地図に示された担い手を対象とした農業機器購入に係る補助制度を創設するなどし、支援を行っていく。</p> <p>有害鳥獣による農作物被害額を減らすためには、侵入防止柵の新規設置や適切な更新に加え、狩猟免許取得者の確保も課題になっている。鳥獣被害防止対策交付金により侵入防止柵の設置が可能であるもの、交付決定額が減額されるケースもあり、被害の深刻度を見極め適切に侵入防止柵を設置していく。</p>		
総合評価	<p>・地域計画の目標設定や農地所有者及び地域住民の意向を尊重しつつ、農地の立地などの本市の特性を踏まえた上で施策を推進していく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(2) 農業の新たな価値創出の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○「農」を支える交流や農村への移住・定住などを促進します ○農商工連携や異業種交流の取組を推進します ○農福連携など農地の新たな活用に取り組みます ○スマート農業や再生可能エネルギーなど新技術の導入を進めます 	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	ダリアで彩る花のまちづくり事業	

実施した主要内容	<p>市内の商業施設と連携し、市花ダリアを用いた花飾りイベントを開催した。また、市制70周年記念イベントとして、市民の参加により、花のみちにダリアで作ったブーケを並べる新たなギネス世界記録を達成し、認定された。これらの取り組みにより、市内外へのPR及び市花ダリアの認知度の向上と魅力発信につなげた。</p> <p>モノ・コト・バ宝塚の選定は行われなかったが、PRを強化し露出度を高める取組を行った。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		「農」に関する「モノ・コト・バ宝塚」選定資源数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	29	目標	35	38	38	41	41	44
				実績	34	34	34			
	達成状況とその理由	令和6年度は「モノ・コト・バ宝塚」の新たな選定は行われなかったため、前年度と同数とする。								
	②	指標名								めざす方向性
		ダリア生産に係る売上高								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		千円	-	目標	42000	43000	44000	45000	45500	46000
				実績	45000	44000	37000			
	達成状況とその理由	夏の酷暑、降雨量の少なさによるダリアの開花不順の影響により、球根出荷数等が減少し、売上額が目標値及び前年度実績を下回った。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>夏季の少雨、酷暑の影響や秋季のイベント開催日の悪天候など、天候に左右される部分が多かったが、宝塚ダリア園の来園者数は昨年度より微増した。ダリア生産に係る売上高についても、天候による影響が大きく、ダリアの開花不順から、球根出荷数等が減少し、売上額が目標値及び前年度を下回った。指標の達成はできなかったものの、ギネス世界記録達成を通してダリアの魅力発信を実施できた。農に関する選定資源を含む「モノ・コト・バ宝塚」のPRに取り組んだ。また、ドローンを活用した新たな農法を導入する農業者も現れ、作業軽減の可能性が大きいことを確認した。これらのことから総じてB評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>ダリア生産は気象に左右される部分がある。今後も生産事業者と意見交換を行い、併せて市内外の公共施設や商業施設と連携しながら、本市の地域資源であるダリアの認知度向上やギネス世界記録の認定を受けていることなどを強みに市内外に向けて魅力発信に取り組む。 ドローンを活用した農法を試験的に導入する集落の後方支援に努め、さらなる拡大を目指し進めていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モノ・コト・バ宝塚のあり方を今後検討していく上で、選定資源数を指標に設定していることについても同時に検討していく必要がある。 ・ダリア産業を市として盛り上げていくために、後継者確保への協力や、市民の認知向上に取り組んでいく。 		

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(3) 「農」に触れ「農」を知る機会の創出	
総合戦略での位置付け	○基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○「農」に触れる機会の創出を図ります ○「農」に関する普及啓発活動を推奨します ○「地産地消」の取組の支援を行います ○地域の特性を生かした観光農業を活性化します 	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	園芸振興事業	農業振興施設管理事業
	市民農園事業	長谷牡丹園管理運営事業
	農業振興施設管理事業_建物保全	園芸振興事業_建物保全

実施した主要内容	<p>令和6年度は4月25日～5月19日まで長谷牡丹園を開園した。また、牡丹の栽培技術や園内管理の知識を深めるため、園内及び松江市大根島において、専門家による研修を実施し、技術向上に取り組んだ。</p> <p>宝塚植木まつりを春期、秋期の2回、計8日間開催するとともに、会期中にシンポジウムを実施した。加えて、市内小学校3校において接ぎ木講習会を実施するなど、花き・植木産業の歴史及び魅力発信に努めた。</p> <p>農業振興施設（西谷夢市場）において、農産物及び加工品の販売を行い、地産地消を推進し、農産物を通じて都市部と農村部の相互交流を推進した。また、昨今の米不足の影響から来場者が増加した。</p>	
----------	---	--

成果指標	① 指標名									めざす方向性
	市民農園利用者数									↑
	①	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	577	目標	640	660	680	700	720	740
				実績	483	587	572			
	達成状況とその理由	前年度は新たな農園の開設により、大幅な増となったが、R6年度は民営の市民農園の利用者が減少し、全体的には前年度とほぼ同水準であった。								
	② 指標名									めざす方向性
	「農」に関する講習会等参加者数									↑
	②	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	800	850	900	950	1000	1000
				実績	879	844	1252			
	達成状況とその理由	市内小学校3校で接ぎ木講習会を開催し、子どもたちが花き植木に触れる機会を創出したことで、対象者数が大幅に増加した。								
	③ 指標名									めざす方向性
	長谷牡丹園入園者数									→
	③	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	0	目標	6000	6000	6000	6000	6000	6000
実績				4096	4854	4608				
達成状況とその理由	天候により牡丹・芍薬の開花に影響を受けたことから、開園期間が例年と比べ短くなり、入園者数が減少した。									
④ 指標名									めざす方向性	
④	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>長谷牡丹園については指定管理者により、開園期間中のイベント開催や飲料ブースの設置など来園者に満足いただけるよう取り組まれている。また、開花期間が限定される中、積極的に近隣市町等へのチラシ配布を行うとともに、市ホームページやSNS等を活用した情報発信に努めているが、開園期間が短く、入場者数としては、微減となった。 農に関する講習会等については、県の協力を得ながら、市内の子ども達を対象にした新たな取組を開始した。一方で、園芸振興施設及び農業振興施設の利用者数は概ね、横這いである。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>園芸振興施設及び農業振興施設においては、施設の魅力発信や新たな顧客層の開拓に取り組む必要がある。植木まつりやオープンガーデンフェスタ、実行委員会形式で実施する収穫祭なども含め、様々な機会を捉え、本市の農産物・花き植木産業のPRに努め各施設の来場者や売上の増加につなげていく。特に地場産業である花き植木産業の振興については、花き園芸協会や県とも連携しながら、新たな取組を検討していくとともに、あいあいパークの開園25周年を踏まえ、記念事業などで集客を図っていく。 長谷牡丹園については、開園より20年以上経過し、施設等経年劣化が進んでいる状況である。今後も牡丹栽培にかかる技術指導を受けながら、来園者に満足いただけるよう牡丹の栽培育成に取り組む。</p>		
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で接ぎ木講習会を実施し、子どもたちに市内の花き・植木産業を知ってもらい触れてもらう機会を創出できたことは成果と考える。 ・長谷牡丹園については、年間で開園期間が1か月にも満たないため、年間を通じて集客できる取組を検討していく必要がある。 		

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(1) 誰もがいきいきと働くための就労支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり

施策の方向性	○雇用・就業促進と安定のための支援に取り組みます ○潜在的に就労を希望する人へのきめ細やかな支援に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	就労支援事業	ワークサポート宝塚運営事業
	勤労者住宅資金融資斡旋制度預託金	

実施した主要内容	ハローワークとの一体的事業として共同で開設したワークサポート宝塚において職業相談及び職業紹介、求人情報の提供等を実施した。加えて就職支援セミナーや面接会を開催するほか若者しごと相談における継続的な相談事業を行った。就職にあたり課題や困難を抱える人を対象とした若者就労支援事業や就職氷河期世代を対象としたリモート型就労支援事業を実施し、就職までの伴走支援を行った。
----------	---

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		ワークサポート宝塚における就職率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	38.2	目標	37	42.5	42.5	42.5	42.9	42.9
				実績	42.5	42.9	41.3			
	達成状況とその理由	新規求職者数（1605人）とともに就職件数（663件）も令和5年度と比べ減少し、目標を下回った。								
	②	指標名								めざす方向性
		若者しごと相談利用者の就職率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2
				実績	19.1	15.4	14.2			
	達成状況とその理由	相談件数（954件）及び就職件数（136件）ともに減少し、前年度比微減となった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

担当部局 評価	B	評価の 理由	ワークサポート宝塚の来所者が減少しただけでなく、新規求職者や相談件数、紹介件数が減少したことから就職率は目標値を達成することができなかった。一方で、就職支援セミナーや面接会の開催や困難を抱える人を対象とした若者就労支援事業や就職氷河期世代を対象としたリモート型就労支援事業を実施し、就職までの伴走支援を行い、27人の就職実現に至ったため、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	ワークサポート宝塚の利用について、今後は必要とする人に届く効果的な発信に取り組むなど広報活動を強化し、来所者数の増加を目指すとともに、相談者それぞれの状況に応じた職業紹介を実施することで就職率の向上に努める。引き続き、就職に向けて困難を抱える人に対する支援策を継続する。		
総合評価	就労支援については、福祉や教育等、他の所管部署の事業と関連性が高いため、市全体として包括的な就労支援対策の在り方について今後検討していく。		

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(2) 働く場の創出と多様な働き方の実現	
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり

施策の方向性	○新たな就労機会の掘り起こしに取り組みます ○ワーク・ライフ・バランスの実現や新しい働き方の定着に向けた取組を促進します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	高年齢者就業機会確保事業	労働行政事業

実施した主な内容	雇用促進連絡協議会をはじめ、各種広報媒体においてワークライフバランスの実現をはじめとした各種制度の周知や啓発活動を実施した。 市内の労働者や雇用の実態を把握し、今後の施策展開の基礎資料とするため労働実態調査を実施した。 高齢者に臨時的短期的な就労機会を提供し能力活用を図ることにより、高齢者のいきいきと活力ある地域社会づくりに貢献する公益社団法人宝塚市シルバー人材センターに対し、センターが行う高齢者就業機会確保事業に要する経費を補助するとともに、会員確保及び就労機会に資する受注件数増に向けて広報活動を行った。	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市内従業者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	54,498 (H28)	目標	63400	63400	63400	63400	63400	63400
				実績	54498	54613	54613			
	達成状況とその理由	令和3年度の経済センサス活動調査が最新の数値のため、前年度と同値となる。								
	②	指標名								めざす方向性
		昼夜間人口比率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	82	82	82	82	82	82
				実績	81.0	81.0	81.0			
	達成状況とその理由	令和2年度の国勢調査の数値が最新の数値のため、前年度と同値となる。								
	③	指標名								めざす方向性
		有給休暇を80%以上取得している人の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	20.3 (R1)	目標	49	49	49	49	49	49
			実績	20.3	20	29				
達成状況とその理由	令和6年度に実施した労働実態調査に基づき更新する。働き方改革やワークライフバランスの啓発による使用者、労働者ともに意識改革が進んでいるものと推察する。									
④	指標名								めざす方向性	
	シルバー人材センター会員の就業率								↑	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
	%	61.4	目標	62	62.3	62.6	62.9	62.9	62.9	
			実績	60	67.1	60				
達成状況とその理由	シルバー会員のニーズと依頼業務のミスマッチにより、就業率が減少した									

担当部局 評価	B	評価の 理由	<p>雇用促進連絡協議会の活用や各種広報媒体においてワークライフバランスの実現をはじめとした各種制度の周知や啓発活動を実施した。加えて、商工会議所と連携し、物価高騰やICT化が進む社会情勢の変化に雇用側の事業者が対応できるよう、取組を進めた。</p> <p>また、シルバー人材センターの取組を広く周知するため、広報活動を積極的に実施するなど市としても支援を行ったが、会員が希望する事業が少なく、昨年度の就業率の維持にはつながらなかった。</p>
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	<p>本市の昼夜間人口比率は県平均と比べ低い値となっており、雇用の機会創出のために起業創業の支援とともに既存事業所の市外流出防止に努める必要がある。</p> <p>ワークライフバランスの実現をはじめとする各種制度の周知と啓発は、雇用促進連絡協議会会員をはじめ、市内事業者に向け効果的な発信方法を検討する。</p> <p>シルバー人材センターにおいては、会員の就業機会を増やすため新規も含めた受注可能な事業の開拓が必要であり、市としても広報活動等の支援に取り組む。</p>		
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスや働き方の見直しは社会的に重要なテーマであるため継続して啓発を行う必要がある。 ・シルバー人材センターは会員のニーズと依頼者のニーズを両方考慮しながら、高齢者の就業機会と能力発揮の場として継続的に支援していく。 		

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(3) 労働問題の防止と解決に向けた環境づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	○適正な労働環境の確保に向けた取組を促進します ○相談窓口の周知・他機関との連携に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	労働行政事業	

実施した主な内容	労働実態調査を実施した。労働問題審議会では同調査の調査内容及び報告、並びに第二次労働施策推進計画の進捗管理等に関し審議いただいた。また、労働問題相談を定期的実施するとともに宝塚市雇用促進連絡協議会の運営を支援し、同協議会とともに労働問題に関するセミナーを実施したり、会員企業への啓発活動を行った。全体を通じ、使用者、労働者双方の側面から労働問題解決に向けて取組を行った。	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		国の総合労働相談コーナーの認知率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	25.3 (R1)	目標	50	50	50	50	50	50
			実績	25.3 (R1)	25.3 (R1)	25.8				
	達成状況とその理由	令和6年度に実施した労働実態調査に基づく。広報活動や市への問い合わせ時の紹介などに努めたが前回調査時とほぼ横這いの数値となった。								
	②	指標名								めざす方向性
		苦情（ハラスメント）相談窓口を設置している事業所の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	77	77	77	77	77	77
			実績	-	-	48.4				
	達成状況とその理由	令和6年度に実施した労働実態調査に基づく。約半数の事業所が設置しているものの、ハラスメント自体の認知度が先行し、その対策手段である窓口の設置が後追いになっている状態と推察する。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
		実績								
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>適正な労働環境を確保するために、雇用促進連絡協議会主催のセミナーを実施したり啓発活動に注力し、労働問題全般の未然防止に努めた。一方でトラブル発生時の相談窓口の周知にも注力したが、認知度は目標値に届かずほぼ同水準で推移しており、さらなる周知の強化が必要である。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>国の相談窓口に加え、市で実施する労働問題相談の認知度向上に努め、利用者が必要とする時にスムーズに活用できるよう利用促進を図る。 ハローワークや労働基準監督署、兵庫県、シルバー人材センターや宝塚商工会議所など、相談内容に応じ最適の相談先を適切に判断し、つないでいく。 労働実態調査の調査結果に基づき、より一層の実態把握に努め、今後の施策展開に活かす。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・労働者が安心して働ける環境は、労働する上で基礎となる部分であるため、関係機関と連携しながら継続して啓発に取り組んでいく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(1) 文化芸術に触れ、創造する喜びを実感できる環境づくり	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	<p>○文化関連施設の有機的連携（協働）を推進します</p> <p>○誰もが文化芸術に触れ、楽しめる環境づくりに取り組みます</p> <p>○いつでも文化芸術に親しめるよう情報発信に取り組みます</p> <p>○子どもをはじめ市民の創造性を育みます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	手塚治虫記念館管理運営事業	文化芸術センター・庭園管理運営事業

実施した主な内容	<p>文化芸術センターについては、有料企画展を4回開催するとともに、他市で開催されていた団体展や公募展等を数多く誘致するなど文化芸術への関心の向上や本市への誘客に取り組んだ。また、ワークショップやギャラリートークなど、子どもから大人向けの幅広い分野のイベントの開催のほか、定例的に市内事業者が参画するマルシェを実施し、地域活性化に向けた取組を推進した。また、手塚治虫記念館においては、開館30周年を記念したセレモニーやトークショーを行うなど記念館を広く周知する取組を行った。加えて、隣接する施設（文化芸術センター・手塚治虫記念館・文化創造館）において「3館おさんぽラリー」などのエリア一帯での事業展開に努めた。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		文化芸術センター及び庭園の来場者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	452885	目標	510000	640000	680000	700000	700000	700000
			実績	787714	628985	627147				
	達成状況とその理由	前年度実績から微減し目標には達しなかった。施設のオープンから5年が経過し、施設の利用率（稼働率）は増加傾向にあるものの有料展覧会の入場者数は減少している。								
	②	指標名								めざす方向性
		「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	-	28	-	30	-	30
			実績	-	8.5	-				
	達成状況とその理由	令和6年度アンケート調査は未実施。令和5年度については、新型コロナウイルス感染拡大を契機として一部の高齢者等が文化芸術活動から引退し、再開に至っていないと思われる。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
		実績								
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
		実績								
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①②ともに目標値に届かなかったが、文化芸術センターでの文化芸術や宝塚に対する愛着醸成、関心向上に向けての取組や手塚治虫記念館での開館30周年記念事業、隣接する施設（文化芸術センター・手塚治虫記念館・文化創造館）と連携したエリア活性化に向けた取組は「めざす方向性」と一致していることから、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>文化芸術センターの来場者数は目標に達しておらず、施設やイベントなどの市内外に向けての情報発信不足が課題となっている。また、本市の文化芸術に関する審議会である「宝塚市民文化芸術振興会議」においてもアウトリーチ活動などの地域での展開や連携が課題との意見もいただいている。</p> <p>企画展では本市ゆかりのイラストレーターやアーティストによる展覧会等を実施するとともに、開催期間を数か月設けることにより周知を図り入場者の増加に努めている。また、これまで市民との協働や地域との連携に実績のある文化財団に指定管理者が交代することから、市民サポーター活動や市内の関係機関との連携事業の充実を図っていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・文化芸術のまちの中心拠点として引き続き、花のみちを含めた、文化芸術センター・手塚治虫記念館・文化創造館の3館の集客と周遊性を向上させる取組を推進していく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(2) 文化芸術により人と人をつなげる取組の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	<p>○活動カテゴリを越えた交流や連携の促進を図ります</p> <p>○地域間交流を継続させ、推進します</p> <p>○人材や市民組織（団体）の育成を図ります</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	文化振興事業	

実施した主な内容	<p>他都市（大分市、浜松市、松江市）との文化交流の実施や高校生美術部展などの開催、宝塚映画祭やストリートピアノの運営など多岐にわたった文化振興に資する事業を引き続き実施した。</p> <p>また、市制70周年記念事業として甲子園学院所蔵作品展や豊岡演劇祭2024in宝塚などを実施した。</p>	
----------	--	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		協働による文化芸術関連事業数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		事業	65	目標	115	140	150	164	164	164
				実績	138	140	142			
	達成状況とその理由	昨年度実績から微増となったが、市民団体による市制70周年記念事業の一部が他課による後援事業となったため、目標は達成できなかった。								
	②	指標名								めざす方向性
		文化芸術関連の市民ボランティアの登録者数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	205	235	265	300	300	300
				実績	111	112	110			
	達成状況とその理由	従前からのボランティアの高齢化に加えて担い手不足が顕在化しており、登録者数が微減、目標に達しなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
実績										
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①②ともに目標を達成できなかったが、ここ数年の実績からはほぼ同程度で推移しているとともに、他都市との文化交流や教育機関との連携事業、ストリートピアノによる賑わい創出に加えて、市制70周年記念事業の実施など多岐にわたる取組は「めざす方向性」と一致していることから、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>定年延長や人手不足などによる現役世代の高齢化や子育て世代の共働きが進んでおり、文化芸術活動を含む市民活動やボランティア活動の担い手確保が課題となっている。また、事務事業見直しにより休止となる事業があることから、引き続き、市民や各種団体が行う文化活動を支援し連携を進めることで、誰もが芸術文化に触れられる環境づくりに努めていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・文化芸術に関する市民活動が活発に行われていることが、文化芸術のまちを下支えする基礎となると考えるため、継続して支援を実施していく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(3) 文化芸術により成長を続けることができる取組の推進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	—

施策の方向性	<p>○市民の文化芸術活動などの支援の充実を図ります</p> <p>○文化芸術の持つ創造性を生かし、他の分野との有機的連携を進めることにより、地域の社会課題解決や活性化の取組を推進します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	宝塚文化創造館（宝塚音楽学校旧校舎）管理運営事業	文化施設管理運営事業

実施した主な内容	<p>文化財団を指定管理者として、ベガ・ホール、ソリオホール、文化創造館の管理運営を行うとともに、国際室内合唱コンクールや宝塚ベガ音楽コンクール、宝塚市展等の指定事業や各種文化団体との協働による様々な芸術文化事業を実施した。また、豊岡演劇祭や宝塚駅周辺のイベントなど他団体とも連携を図りながら事業に取り組んだ。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		文化施設（ベガ・ホール、ソリオホール、宝塚文化創造館）の利用率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	60.1	目標	68	71	72	73	73	73
				実績	67.5	68.2	71.3			
	達成状況とその理由	一部施設の利用率が42%と低く目標に達しなかったが、昨年度実績を超え、順調に推移している。								
	②	指標名								めざす方向性
		観光、産業、教育など、他分野と連携した取組数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		事業	-	目標	49	66	83	100	100	100
				実績	47	52	56			
	達成状況とその理由	市制70周年記念事業等の実施により昨年度実績を上回ったが、他分野への働きかけが依然不足しており目標に達しなかった。								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①については、ソリオホールは会議室を含め77%、文化創造館は74%、ベガ・ホールはホール93%で高水準であるが、会議室等が42%であり目標に達しなかった。また、指標②については、観光や産業、教育等との連携を進め、市制70周年記念事業を含む様々な事業に取り組んだが、他分野への働きかけが依然不足しており目標に達しなかった。一方、指標①②ともに昨年度実績を上回り増加傾向にあることから、B評価とした。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>施設の経年劣化や老朽化が進んでおり、今後も計画的な大規模修繕や設備更新が必要である。また、他分野との連携をより一層進めるため、関係部局や関係機関、指定管理者等と連携し新たな事業展開を図る必要がある。 引き続き、ベガ・ホールにおいて各種コンクールやオルガンコンサート、文化創造館においてすみれミュージアムの運営や歌劇関連のコンサートなど施設の特色を活かした事業を実施するとともに、文化芸術センターの管理運営を文化財団が担うことを契機として、文化創造館、手塚治虫記念館との3館連携による取組を継続し、観光や産業など他分野との連携を視野に入れながら「宝塚文化の創造・発信」を図っていく。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・文化芸術のまちとして、引き続き事業を推進していくとともに、市民とともにまちづくりを進めてきた歴史を大切にし、産業振興や地域活性化にもつなげていく。</p>		

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(4) 歴史や文化、習慣の違いを認め、尊重する地域社会の構築	
総合戦略での位置付け	—	—

施策の方向性	<p>○多文化共生や異文化相互理解を推進します</p> <p>○インバウンド・アウトバウンドなどで国際理解を推進します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	国際・文化センター管理運営事業	国際交流事業

実施した主な内容	<p>外国人市民を対象とした日本語教室や個別指導、生活相談等を実施するとともに、外国ルーツの子どもたちの学習支援、その保護者も含めた居場所づくりにも取り組んだ。また、外国人や異文化への理解を促進するため、引き続き異文化相互理解事業を実施した。</p>	
----------	---	--

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		外国人支援件数								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件	1428	目標	1698	1868	2055	2260	2486	2486
				実績	2131	2529	2284			
	達成状況とその理由	目標は達成したが、一部の施設において対象者の減により学習支援・日本語教室への参加者が減少したため、昨年度からは減となった。								
	②	指標名								めざす方向性
		国際・文化センターの利用率								↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	50	55	60	62	62	62
				実績	52.8	58.5	57.9			
	達成状況とその理由	高齢化等により活動を休止する団体が増加傾向にあり、その結果目標を下回るようになった。								
	③	指標名								めざす方向性
										↑
		単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
			実績							
達成状況とその理由										
④	指標名								めざす方向性	
	単位	現状値(R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
			目標							
			実績							
達成状況とその理由										

<p>担当部局 評価</p>	<p>B</p>	<p>評価の 理由</p>	<p>指標①については、コロナ回復期において増加した転入外国人の減少から、学習支援・日本語教室も昨年度から減となったが目標は達成した。指標②については、昨年度実績からわずかに減少し目標は達成できなかった。国際交流協会と連携し、日本語教室や個別指導、生活相談など寄り添った支援を行うことでニーズに沿ったきめ細やかな事業展開を図れたことから、B評価とする。</p>
<p>施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組</p>	<p>少子高齢化による労働人口の減少が見込まれることから、これまで以上に技能実習生等の外国人の来日が促進されるとともに、隣人としての外国人市民が増加していくことが想定され、外国人市民への支援や多文化共生社会の実現に向けての方策の必要性がますます高まっていくものと思われる。 引き続き、国際交流協会による日本語教室や個別指導、生活相談をはじめ、外国ルーツの子どもたちのための学習支援や居場所づくりに取り組むとともに、ニーズに沿ったきめ細やかな事業展開に努める。</p>		
<p>総合評価</p>	<p>・今後、外国人市民の増加が予想され、本市も今まで以上に多文化共生社会としての取組が求められるため、市内の活動団体と協働で支援を展開していく。</p>		

令和7年度行政評価（令和6年度実施分） に係る答申

令和7年（2025年）9月
宝塚市行政評価委員会

令和7年度宝塚市行政評価委員会

本市では、総合計画における施策評価、事務事業評価、夢・未来 たからづか創生総合戦略その他行政マネジメントシステムについての調査審議に関する事務を担当する附属機関として、当委員会を設置している。

委員任期は今年度新たに委嘱を行い、令和9年度までの3年間となっている。

【委員名簿:敬称略・五十音順】

職務	氏名	所属等
委員	石丸 寛二	宝塚商工会議所会頭
委員	岡 絵理子	関西大学教授
委員	上月 宏之	近畿税理士会西宮支部支部長
委員	白井 りか	兵庫県阪神北県民局 宝塚健康福祉事務所副所長
委員	田中 隆暁	市民公募委員
副委員長	土山 希美枝	法政大学教授
委員	寺見 陽子	一般社団法人オフィステラ 代表理事
委員	中川 絢子	宝塚市自治会連合会理事
委員長	南島 和久	龍谷大学教授

【評価内容について】

評価の視点

【基本的な評価視点】

①必要性の視点

施策の目的が、市民や社会のニーズに照らして妥当か。
市の関与のあり方から見て市が担う必要があるか。

②効率性の視点

投入された資源量に見合った効果が得られるか、又は得られているか。

必要な効果がより少ない資源量で得られるものが他にないか。

同一の資源量でより大きな効果が得られるものが他にないか。

③有効性の視点

施策の実施により期待される効果が得られるか、又は得られているか。

【総合戦略の評価ポイント】

①評価指標の妥当性

評価指標は、**KGI**（戦略を達成する上で何をもってゴールとするのかを定める指標）と、**KPI**（**KGI**の目標に至るまでの段階での主要業績評価）の2段階構成。**KGI**が達成されたときに基本目標が達成されているとするうえで、指標が妥当であるか。

②指標の達成状況について

指標の達成状況が順調かどうか。

③指標の自己評価について

自己評価部分には、成果と今後の課題と改善策が記入されているが、PDCAサイクルが適切に実行できるような振り返りとなっているか。

【評価内容について】

夢・未来 たからづか創生総合戦略 基本目標 1 評価対象 6 施策

ページ170

基本目標	基本的方向	具体的施策
【基本目標1】 心がつながり、健康と安心 を実感できるまちづくり	(1)安全で安心、快適な暮らしの提供	①地域の健康づくりの推進
		②災害・犯罪に強いまちづくりの推進
	(2)地域を支える基盤の整備	①すべての人にやさしい、安全で快適な道路等環境の整備
		②誰もが移動しやすい公共交通の整備
	(3)誰もが主体的に地域社会に参画 でき、いきいきと暮らせるまち	①多様な居場所づくりや支え合う仕組みづくり
		②豊かな地域社会づくりに向けた地域自治の確立

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）評価

交付対象事業名称：新しい生活様式に対応した起業支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～
 要素事業：店舗等リノベーション支援事業
 若手起業家支援事業
 自己表現能力向上事業

【基本的方向(1)安全で安心、快適な暮らしの提供 具体的施策① 地域の健康づくりの推進 取組シート】

KPI達成状況										
具体的施策① 地域の健康づくりの推進										
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	指標の達成状況とその理由
1	「意識的に健康づくりに取り組んでいる」と回答した市民の割合（市民アンケート）	%	52.5	53.8	-	58.7	-	57.5%以上	57.5%以上	令和6年度は市民アンケート未実施
2	国民健康保険特定健康診査受診率	%	37.4	36.3	37.4	37.5	37.1	42.0	50.0	目標値には満たなかったが、電話、訪問、通知等などの様々な勧奨方法を取り入れ、受診率向上に取り組んでいる。
3	65歳以上の要支援の認定率	%	7.0	6.8	7.0	7.3	7.4	7.8%以下	8.3%以下	健康づくり・介護予防に取り組んだことで目標値に収まった。
4	「週1回以上スポーツに取り組んでいる」と回答した市民の割合（市民アンケート）	%	35.4	35.7	-	38.0	-	38.0%以上	40.6%以上	調査対象年度ではないため、目標の達成は不明であるが、スポーツに気軽に取り組める環境整備及び啓発を継続して実施した。

<主な取組>

*疾病予防の推進

生活習慣改善や感染症に関する啓発などにより、疾病予防や健康づくりを推進します。

*健診の受診率向上

特定健康診査やがん検診などにより、生活習慣病※などの早期発見や重症化の予防に取り組みます。

*介護予防の推進【重要取組】

健康寿命※を延ばすために、専門職の関与を得ながら、住民主体の通いの場の充実を図り、健康づくりと介護予防を推進します。

*介護サービスの整備と、介護する家族の支援

介護が必要になっても、それぞれの高齢者が望む場所で安心して生活できるように、介護サービスの整備や、介護する家族の支援に向けて、多様なニーズに対応した支援の充実に取り組みます。

*医療・介護・福祉の連携の強化

医療・介護・福祉の連携を強化し、医療や介護サービスを受けることとなっても在宅での生活力を高めることを支援するとともに、看取りも対応できる在宅医療の充実に取り組みます。

*各種スポーツイベント・教室等の実施

スポーツ施設の整備に努めるとともに、市民スポーツ大会開催や水泳教室・テニス教室などの教室を実施するなどスポーツを行う機会を提供し、市民のスポーツ活動の活性化を図ります。

*スポーツ関係団体等の支援

スポーツクラブ21※や宝塚市スポーツ協会、宝塚市スポーツ推進委員への支援を通して、市民スポーツの振興を図ります。

*包括的な健康増進の仕組みづくり【重要取組】

生活習慣改善や健診の受診、スポーツの推進、効果的な情報発信など、包括的な健康づくりの仕組みをデジタルの力も活用しながら構築します。

【基本的方向(1)安全で安心、快適な暮らしの提供 具体的施策② 災害・犯罪に強いまちづくりの推進 取組シート】

具体的施策② 災害・犯罪に強いまちづくりの推進										
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	指標の達成状況とその理由
1	災害時要援護者避難支援組織数	組織	48	50	52	55	58	基準値以上	基準値以上	出前講座等を通して制度の普及啓発を行った。
2	「日頃から災害に対する備えをしている」と回答した市民の割合（市民アンケート）	%	48.9	50.0	-	48	-	50.0	55.0	令和6年度は市民アンケート未実施
3	安心メール、ひょうご防災ネットアプリの登録者数	人	27,869	38,799	41,376	44,004	45,267	33,000	35,000	新規登録の促進を行った結果、順調に登録者数が増加し、目標値の達成につながった。
4	犯罪発生件数	件	856	756	819	896	884	814	774	R5より減となったが、目標値は未達成である。県内でもR4以降増加している。

<主な取組>

*多様な主体による見守り・支え合いの促進

災害時要援護者支援制度を通じた地域の見守り・支え合い活動の促進や多様な主体による、人と人とのつながりの強化と、きずなづくりを啓発します。

*安心メール、ひょうご防災ネットアプリの登録の促進

防災や感染症などの情報を安心メールやSNSで適宜、市民に向けて発信しています。今後とも、市民の安全、安心を確保するための一助となるよう、引き続き登録を促進します。

*救命講習の実施

救急出動件数が増加する中、市民の救命率向上のため、応急手当や心肺蘇生法などの救命講習を実施し、病院前救護体制の強化を図ります。

*自主防災組織と社会福祉施設との連携協力体制の推進

社会福祉施設（延べ面積おおむね1,000平方メートルを超え、かつ2階建以上のもの）と、自主防災組織等との「災害時における相互応援協定の締結」を推進し、地域の防災力向上を図ります。

*消防団体制の充実

令和2年（2020年）7月に発足した機能別消防分団の拡充を図り、市域全体の消防防災体制を充実させます。

*地域防犯力の向上

防犯講習会の開催や広報活動などの啓発を行うとともに、デジタル技術の活用も検討しながら、地域防犯力向上を図ります。

第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略《基本目標1》の評価結果

基本的方向(1)安全で安心、快適な暮らしの提供

【取組の結果として以下の説明があった】

・ 重要取組<介護予防の推進>

地域の介護予防活動支援事業として、高齢者が住み慣れた地域で自立して生活するため、介護予防サポーターの育成や、介護予防普及事業として、いきいき百歳体操のグループ支援を行っており、地域でも好評である。担当者として地域と連携しながら、作業療法士、理学療法士も交えながら取組の工夫を行っている。

・ 重要取組<包括的な健康増進の仕組みづくり>

がん検診、特定健診等の健診事業や、食育やスポーツを通じた生活習慣の改善に取り組む事業などを行っている。特定健診は受診率を維持しており、電話による勧奨や受信券の個別送付を行っている。他に特定健康指導、食育の推進を実施。KGI指標としての健康寿命についても一定の成果が出ていると考えている。今後は乳幼児期から高齢期をつなぐ「ライフコースアプローチ」の考え方に基づく計画や、幅広い世代への情報発信としてSNSの活用、またICTの活用として検診予約のWEB化などを進めているが財政的な負担が課題である。

第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略《基本目標1》の評価結果

基本的方向(1)安全で安心、快適な暮らしの提供

【以下の課題や意見が付された】

●宝塚市の特色は、昭和後期に人口が急に増えたベッドタウンであり、これにより高齢化率が高くなっているのではないかと。また、宝塚市は医療従事者が約9000人もいる。これは高齢者が増えていることに関連しているのではないかと。宝塚市の高齢化率の特異性や他市との比較など、大局的な観点から目標設定を考えるべきでは。医療側の負荷を下げれば介護側の方に負荷が来る。バランスをどう考えていくのかを考える良いタイミングでは。

●65歳以上の要支援の認定率の目標数値が、他の自治体と比べて高い。また要介護の認定率を指標とすることも検討してみてもどうか。全国比較で認定率が高ければ保険料負担が大きくなる、それを抑えるための介護予防というリンク付けが、施策として不十分ではないか。

○健康寿命だけでなく平均寿命との差についても指標として追っていくべき。

○指標についての妥当性を判断するため、基準値、目標値の根拠についての説明が明確にできるようにするべき。

【基本的方向(2)地域を支える基盤の整備 具体的施策①すべての人にやさしい、安全で快適な道路など環境の整備 取組シート】

KPI達成状況										
具体的施策① すべての人にやさしい、安全で快適な道路等環境の整備										
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	指標の達成状況とその理由
1	都市計画道路整備率	%	72.8	73.0	73.2	73.4	74	74.1	77.0	荒地西山線、競馬場高丸線及び山手幹線の整備事業について、概ね順調に推移した。
2	交通事故（人身事故）発生件数	件	416	434	351	360	355	396	376	R5より交通安全教室等の啓発回数が減となったものの、これまでの取組により目標値を達成した。
3	交通安全教室、講習会、啓発活動回数	回	155	78	90	108	91	161	166	R5はコロナ禍自粛明けて一時的に増加したが、R4と同数程度となり目標値は未達成である。学校授業の受け入れ態勢との兼ね合いがあり、今後も目標値の達成が難しいと思われる。

<主な取組>

*都市計画道路の計画的な整備

宝塚市都市計画道路整備プログラムに基づき、都市計画道路の計画的な整備を図ります。

*効果的な市道の整備

都市計画道路を補完する市道の整備計画を定める宝塚市道路改良プログラムを策定し、効果的な市道整備を図ります。

*狭隘な生活道路の整備

開発や建築行為に合わせ、狭隘な生活道路の整備推進を図ります。

*歩道のバリアフリー化の推進

歩道の段差解消などバリアフリー化を推進し、すべての人にやさしい交通環境を整備します。

*自転車通行空間の整備

自転車及び歩行者の安全を確保するため、宝塚市自転車ネットワーク計画に基づき、自転車通行空間の整備を図ります。

*道路環境の適正な維持管理

道路アドプト制度など地域住民との協働により、植栽など景観や環境に配慮した道路環境の適切な維持管理に取り組みます。

*交通安全意識啓発の推進

交通安全教室の開催や啓発活動等を行い、交通安全意識の啓発を図ります。

*交通危険箇所の安全対策実施

交通危険箇所での安全点検や注意喚起等を行い、交通安全対策を推進します。

【基本的方向(2)地域を支える基盤の整備 具体的施策② 誰もが移動しやすい公共交通の整備 取組シート】

具体的施策② 誰もが移動しやすい公共交通の整備										
NO.	K P I	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	指標の達成状況とその理由
1	路線バス等輸送人員の人口比	%	9.7	10.0	9.9	10.3	10.5	基準値以上	基準値以上	宝塚市地域公共交通計画に基づき、適切な公共交通サービスの提供やバス広報資料等を市役所やSSに配架、小学校に対するMM学習等の利用促進を実施した。
2	ノンステップバスの導入率	%	71.6	71.6	83.1	81.0	77.8	73.1	74.6	新たなノンステップバスの導入がなく、事業者の営業所間での車両の移動に伴って、目標を下回った。

<主な取組>

***公共交通ネットワークの見直し【重要取組】**

既存の公共交通の維持や利便性の向上を図るとともに、オンデマンド交通などを積極的に導入することで、地域の実情に応じた新たな移動手段の確保に向けて取り組めます。

***交通バリアフリーの推進**

ノンステップバスなどのバリアフリー車両の導入促進、武田尾駅のバリアフリー化の推進など、すべての人にやさしい交通環境の整備を進めます。

第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略《基本目標1》の評価結果

基本的方向(2)地域を支える基盤の整備

【取組の結果として以下の説明があった】

・ 重要取組<公共交通ネットワークの見直し>

人口減少による公共交通需要の縮小、運転手不足の深刻化、燃料費高騰に伴う経費の増大、新型コロナウイルス感染症の影響による行動変容等により、現在の公共交通を取り巻く環境は悪化しており、市民の移動手段の維持・確保が厳しい状況にある。そのため、これまでの「定時定路」線の路線バスを運行する考え方から新たな運行形態の可能性を探るため、一部地域においてAIを活用したオンデマンド交通などの実証実験を行った。今後は実証実験で得られた結果を踏まえ、それらを検証し、今後の公共交通の在り方について検討する。また、北部地域では、既存のバス路線廃止に伴う新たな移動手段の確保、地域で実施しているボランティア輸送への適切な支援に取り組んでいるところである。

第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略《基本目標1》の評価結果

基本的方向(2)地域を支える基盤の整備

【以下の課題や意見が付された】

●公共交通は人件費の高騰、乗車数が上がらないと採算性がどうしても合わず減便や廃止が行われているが、通勤、通学、通院の空白地帯を作ってはいけない。その対応として定時定路の路線バスを見直し、オンデマンド交通等の導入検討を行う方向性は正しい。一方で、その解決方法はライドシェアや各セクターで直行のバスを運用するなど知恵を絞り即応性を考慮しないといけない。地域交通の問題は待った無しであり、AIオンデマンド交通はいずれそうなると思うがまだ先の話ではないか。輸送のシェアリングを含めもっと実現性のある深掘りした施策が必要だと思う。

○重要取組の内容が、KPI指標に直接的に対応するものではなく、指標の位置づけを整理すべき。

○公共交通の<見直し>の中身について、また目指すべき地点について明確に整理すべき。

【担当部からの補足説明】

・実証実験の結果として、売布山手住宅地域での実証実験では、既に運行しているバスの利便性の向上という目的があり、その点では一定の成果があったといえる。しかし、山本地区、安倉地区での実証実験では、市立病院の路線バス減便に伴う新たな公共交通の在り方を模索するという目的であったが、採算性という観点から厳しい結果（多額の財政的な支援が必要）になった。

・AIオンデマンド交通では、市の財政的な支援がなくとも地域と事業者等が連携することで、地域の公共交通が立ち上がり、自走していく契機となることも目的の一つであった。地域が中心となり利用促進等の活動を実施することで、持続可能な公共交通となっていくことが理想である。

【基本的方向(3)誰もが主体的に地域社会に参画でき、いきいきと暮らせるまち

具体的施策① 多様な居場所づくりや支え合う仕組みづくり 取組シート】

KPI達成状況										
具体的施策① 多様な居場所づくりや支え合う仕組みづくり										
NO.	KPI	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	指標の達成状況とその理由
1	市域内のサロン等の居場所数	箇所	197	202	205	199	194	基準値以上	基準値以上	ふれあいいきいきサロン2カ所の立ち上げがあった一方、高齢化等による廃止があり減となった。
2	見守り、支え合い活動に取り組む活動グループ数	グループ	155	174	175	191	197	基準値以上	基準値以上	生活支援コーディネーターが地域の話し合いの場に積極的に参加した結果、活動グループの把握が進んだ。
3	公民館利用者数	人	374,895	227,523	307,743	325,529	325,476	360,000	400,000	目標値には達していないが、市民ニーズを捉えた事業を継続して実施等したことにより、昨年度同様の利用者数に繋がった。
4	市立中央図書館、西図書館の来館者数	人	530,010	111,432	530,010	564,169	571,749	基準値以上	基準値以上	市民ニーズを捉えた事業を継続して実施等したことにより、昨年度を上回る来館者数となった。
5	市民向け無料スマートフォン講習会の受講人数	人	186	-	186	203	195	基準値以上	基準値以上	当該講習にかかるノウハウを有する民間事業者に講師派遣を依頼し、講習会を開催した結果、目標値を達成した。

【基本的方向(3)誰もが主体的に地域社会に参画でき、いきいきと暮らせるまち 具体的施策① 多様な居場所づくりや支え合う仕組みづくり 取組シート】

＜主な取組＞

*福祉教育の充実

小・中学生の頃から福祉に関する意識を高め、地域福祉活動やボランティア活動につなげるため、学校・地域・社会福祉施設・社会福祉協議会との連携による福祉教育を推進します。

*多様な居場所・拠点づくり【重要取組】

地域の生活課題を早期に発見し、適切な対応を行うためにも、課題を抱えた人だけではなく、支援者も含めて、誰もが気軽に立ち寄り、話し合うことができ、活躍できる場づくりを進めます。

*地域福祉のコーディネート人材や担い手の掘り起こしと育成

社会福祉協議会との連携により、地域福祉をコーディネートする人材や若い世代の担い手、知識や経験のある高齢者の担い手の掘り起こしと育成に取り組みます。

*社会参加や世代間交流を通じた、生きがいづくりの促進

社会参加や世代間交流を促進するために、通いの場への支援や、ボランティア・NPO法人の活動への参加促進、雇用・就労への支援を行います。

*身近な地域で支え合う仕組みづくりの推進【重要取組】

高齢者が抱える課題や地域課題の共有を通して、共に考え、身近な地域で多様なつながりづくりと支え合う仕組みづくりを推進します。

*認知症についての啓発や支援体制の整備

認知症に対する啓発活動を行ったり、見守り体制を整えることで、認知症になっても地域で暮らし続けられる支援体制を整備します。

*公民館での市民の学習活動の促進

市民カレッジをはじめとする公民館での講座やセミナー等の開催を通じて、学習の機会と交流の場を提供します。

*市民が集い、交流する場としての図書館機能の拡張

従来の資料・情報の提供に加えて、新たに中央図書館の北西側広場・玄関前広場を整備するなど、市民が集い、交流する場としての機能を持つ、心地よい居場所としての図書館を目指します。

*デジタルデバイドの解消

民間や地域の力を活用しながら、スマートフォン等についての操作方法が分からない人向けの講座等を実施することで、デジタルデバイドを解消し、市民がデジタルで不自由なく情報を得られる環境を整えます。

従来の資料・情報の提供に加えて、新たに中央図書館の北西側広場・玄関前広場を整備するなど、市民が集い、交流する場としての機能を持つ、心地よい居場所としての図書館を目指します。

*多文化共生社会への取組

今後の外国人人口の増加を見据え、外国人の現状や課題を把握する仕組みづくりを進めるとともに、外国人が行政情報や生活ルール、地域活動などの情報が得られるよう、必要な情報の集約、多言語化を進めます。また、多文化共生や異文化相互理解を推進し、歴史や文化、習慣、違いを認め、尊重する社会を構築します。

【基本的方向(3)誰もが主体的に地域社会に参画でき、いきいきと暮らせるまち

具体的施策② 豊かな地域社会づくりに向けた地域自治の確立 取組シート

具体的施策② 豊かな地域社会づくりに向けた地域自治の確立										
NO.	K P I	単位	基準値	R3	R4	R5	R6	目標値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	指標の達成状況とその理由
1	地域ごとのまちづくり計画において達成又は順調に進んでいる取組の割合	%	83.7	68.0	77.2	83.7	88.1	85.0	前年度以上 (後期計画未 策定のため)	協働の取組推進担当次長が地域に訪問し、顔の見える信頼関係を構築しながら、地域ごとのまちづくり計画を協働で推進するための仕組みに基づき推進した結果、目標値を達成した。
2	「協働の取組への意向を持っている」と回答した市民の割合(市民アンケート)	%	27.3	19.3	-	27.3	-	33.0	50.0	令和6年度は市民アンケート未実施

<主な取組>

*地域ごとのまちづくり計画の実現に向けた取組の推進【重要取組】

計画の実現に向け、地域と行政が調整を図りながら進めていく仕組みを構築し、地域と協働で取組を進めます。地域課題の解決にあたっては、デジタル手法の導入も検討します。

*まちづくりに関わるすべての個人や団体の連携の促進

まちづくりの多様な担い手同士の連携を促進することにより、個性豊かで活力に満ちた地域社会の構築を目指します。

*自治会運営支援

自治会の役割、必要性などについて周知し、新規結成及び運営に関する支援を行います。

*コミュニティビジネスなどの育成や支援

中間支援団体などと連携し、市民活動団体などのコミュニティビジネスを育成及び支援し、安定した活動の確保を目指します。

*市民の広域的な活動などの支援と促進

市民が行う公益的な活動をきずなづくり推進事業補助金等により支援し、活動を促進します。

*「協働の指針」の周知及び活用による協働の推進

「協働の指針」や「協働のマニュアル」などを活用した市民説明会などを実施し、協働についての意識醸成と、協働の取組を推進していきます。

*協働型事業の推進と検証、更なる拡大への新たな仕組みの構築

市のすべての事業において協働型の事業の推進と検証に努めるとともに、協働型の事業の拡大を目指す新たな仕組みを検討します。

*活動の担い手の発掘・育成支援とつながりづくりの取組

市民主体のまちづくり活動などを促進するため、担い手の発掘や育成とともに、人の「つながり」づくりに取り組みます。

第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略《基本目標1》の評価結果

基本的方向(3)誰もが主体的に地域社会に参画でき、いきいきと暮らせるまち

【取組の結果として以下の説明があった】

・重要取組<多様な居場所・拠点づくり>

宝塚市社会福祉協議会への委託事業。地域福祉推進事業として、住民主体の居場所づくりや福祉活動を広げて、他分野、他機関の横断的な連携、協働の意識醸成を行っている。また宝塚ボランティアプラザという拠点を設け、支援活動のスタートアップ助成を行っており、活動者が増加傾向にある。

・重要取組<身近な地域で支え合う仕組みづくりの推進>

宝塚市社会福祉協議会への委託事業。生活支援コーディネーターを2人配置しており、令和6年度に特に行ったこととしてマンションの集合住宅サミットという企画がある。自治会組織の無い場所での地域の支え合い、老いに対する見守り、ネットワークづくりができた。また、高齢者見守りネットワーク事業については、ひとり暮らしの高齢者の方に緊急通報システムを貸与し、万が一の時に使っていただくもので、その他福祉協力員という地域の身近な方に、家の合い鍵を預かっておいて様子を見に伺う仕組みを推進している。

・重要取組<地域ごとのまちづくり計画の実現に向けた取組の推進>

地域ごとのまちづくり計画の実現に向けた取組としてはKPI指標の目標は順調に達成している。各まちづくり協議会に市の次長級職員が月に1回訪問し、会議に参加してもらって市と地域のつなぎ役となっており、信頼関係を築けるようになってきている。

第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略《基本目標1》の評価結果

基本的方向(3)誰もが主体的に地域社会に参画でき、いきいきと暮らせるまち

【以下の課題や意見が付された】

●地域活動というのは、言い方を変えれば子育て世代や若者、高齢者の支援活動にもリンクする。それぞれの窓口やセクターが存在するため、どうしても行政側が縦割りの対応になってしまいがちだが、地域が望むのは組織横断的な対応であり、そこに市の組織横断的な権限と責任を持つ次長級職員がまちづくり協議会の地域毎に出向き、協働の推進を行っているのは的確で素晴らしい。

○市民側からみたときにポータルで示すだけでは支援メニューは解らないので、コンシェルジュのような案内の仕掛けづくりがあった方がよい。市民からみて支援メニューがどう担保されているか、見える化の追求を今後していただきたい。

地方創生推進交付金事業の評価結果

新しい生活様式に対応した起業家支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～(個別事業内訳)

ページ184

要素事業	補助金額	事業経費内訳	実施内容	評価
<p>1 店舗等リノベーション支援事業 内容：市内の小規模事業者及び個人事業主が営む既存店舗等を対象に、デジタル技術を駆使したキャッシュレス等新しい生活様式への対応を見据え、魅力ある個店への店舗改装等に係る工事費等の一部を補助する。</p>	1,413,500	<p>1.店舗等リノベーション支援事業 (1) 店舗等リノベーション補助金</p>	<p>市内に魅力ある個店の立地が増えることにより、消費者が市内店舗を訪れるきっかけとなり市内での消費額が増加することを目的として、市内既存店舗等が実施する魅力向上に資する店舗改装などに係る工事費等の一部を最大30万円補助するもので、本補助金の補助件数は11件であった。</p> <p>【実績】 補助金交付件数 11件</p>	<p>令和6年度の補助件数は11件であり、令和5年度(11件)とほぼ同様の件数であるため、市内事業者からは一定のニーズがあると考えられる。令和7年度は「新規出店改装チャレンジ応援補助金」として、新規出店時や市内既存店舗の改装時を対象とした改装などに係る工事費等を補助する。</p>
<p>2 若手起業家支援事業 内容：若者の起業を促進し魅力ある事業を創出することや、若者の将来の働く選択肢を広げることを目的として、機運醸成を図るセミナー等を実施するほか、学生を中心とした概ね29歳までの若手起業家が市内のコワーキングスペースを利用し、その際起業に向けたコンサルティング等の支援を受けた場合、かかった経費の半額を補助する。特にデジタル関連事業等これからの時代に適応した業種に関する支援を中心に実施していく。</p>	15,000	<p>2.若手起業家支援事業 (1) 起業機運醸成セミナー講師派遣手数料 (2) 若手起業家等支援補助金</p>	<p>若者の起業を促進し魅力ある事業を創出することや、若者の将来の働く選択肢を広げることを目的として、「起業機運醸成セミナー」を令和6年10月及び12月に武庫川女子大学において開催した。セミナーでは、女性起業家と起業支援コンサルタントに登壇いただいた。</p> <p>若手起業家等支援補助金については、起業を志している方、又は起業から3年以内の方を対象に、事業立案等に要する経費の一部を補助するもので、本補助金の補助件数は1件であった。</p> <p>【実績】 (1) 参加者 約70名 (2) 補助金交付件数 1件</p>	<p>(1)については、令和6年度に武庫川女子大学と連携しセミナーを実施した。アンケートを回答した生徒のうち73%が、「働き方の選択として起業に興味を持つことができた」または「やや持てた」と回答した。大半の生徒が起業することに対して前向きに捉えてもらうことができたと推察する。</p> <p>令和7年度も引き続き、包括連携協定締結先である大学及び金融機関と連携し、起業家の登壇や学生が意欲的に参加できるワークショップ型のセミナーを実施する。</p> <p>(2)は、広報誌や市ホームページ等で本補助金の周知に努めたが、補助件数は1件に留まった。今後については、ニーズを再確認するなど事業内容を見直し、引き続き若手起業家の支援に努める。</p>
<p>3 自己表現能力向上事業 内容：市内の小中学校において、少人数単位のグループごとに、外部講師を入れたグループワークを実施する。対話劇等を通じて互いに気づいたところ、難しかったところなどを交流し合うことで、自己表現や他者との対話の面白さ、難しさの気づきを得ることで、起業に必要な基礎的なコミュニケーション能力を向上させる。</p>	1,295,000	<p>3.自己表現能力向上事業 (1) ワークショップ実施手数料</p>	<p>市内全小中学校を中心に、外部講師を招き、少人数単位のグループで対話劇の創作・上演を行うワークショップを実施した。演劇の創作過程で行われる対話や、上演、その後の交流などを通して、自己表現や他者との対話の面白さ、難しさ等の気づきを得て、起業に必要な基礎的なコミュニケーション能力を向上させた。</p> <p>【実績】 ワークショップ実施校数 24校</p>	<p>少人数単位でのワークショップを通じて、自己表現や他者との対話の面白さ、難しさの気づきを得ることで、起業に必要な基礎的なコミュニケーション能力の向上に取り組めた。今後は、ワークショップの内容の充実を図り、コミュニケーション能力のさらなる向上を図っていく。</p>

地方創生推進交付金事業の評価結果

新しい生活様式に対応した起業家支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～(総括)

ページ185

本事業における重要業績評価指標 (KPI)					本事業終了後における実績値			事業を進める中での課題・苦勞の有無		実績値を踏まえた事業の今後について		
指標		基準値	目標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	内容	課題・苦勞の有無	課題・苦勞に対する取組中における修正・改善 ※左記①の場合に記載	今後の方針	今後の方針の理由
指標①	店舗等リノベーション支援事業の支援により店舗改装を実施した個店の数	0	30	件	R7.3	25	③ 地方創生に効果があった	【店舗リノベ】【若手起業支援】(指標①) 目標値は達成しなかったものの、毎年一定数の需要があり、問い合わせも多かった。既存店舗等の改装工事を行う際、施工事業者も市内事業者に限定することで、副次的に事業効果を高めることができた。 (指標②) 商工会議所での創業セミナー実施や起業家等支援認定施設での実績により、目標を達成することができた。 (指標③) 市内での起業希望者に対し、商工会議所等関係機関と連携し、適切な支援を行うことができた。	① 課題・苦勞があった	【店舗リノベ】【若手起業支援】 店舗等の改修に係る補助金制度の需要は高く、当該補助金が魅力ある店舗への改装を実施する一助となったという事業者からの声もあった。一方で、事業実施のタイミングと申請期間にミスマッチが生じることなど課題もあった。	① 事業の継続	【店舗リノベ】【若手起業支援】 引き続き、店舗改装等の補助制度は行っていく。補助対象事業者にアンケート形式の事後調査を行い効果測定に代えていく。また、通年ではなく申請期間を設けていることから、事業者のタイミングと必ずしもマッチしないこともありより利用いただきやすい制度となるよう検討していく。
指標②	若手起業家(20代まで)が市内で起業支援を受けた件数	7	19	件	28							
指標③	若手起業家(20代まで)の市内での起業数	1	8	件	11							
指標④	-	-	-	-	-	-	③ 地方創生に効果があった	【小学校ワークショップ】 市内の小学校を中心に、少人数単位のグループごとに、外部講師を入れたグループワークを実施する。対話劇等を通じて互いに気づいたところ、難しかったところなどを交流し合うことで、自己表現や他者との対話の面白さ、難しさの気づきを得ることで、起業に必要な基礎的なコミュニケーション能力を向上させることができた。 ワークショップ実施校：24校	② 課題・苦勞がほとんどなかった	【小学校ワークショップ】	① 事業の継続	【小学校ワークショップ】 今回実施した児童への対話劇等のワークショップは、学習だけでなく、起業にも通ずるコミュニケーション能力を向上させることができるため、長期的かつ継続的に実施していきたい。

地方創生推進交付金事業の評価結果

新しい生活様式に対応した起業家支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～

【取組の結果として以下のとおり確認した】

<店舗等リノベーション補助金事業>対象となる店舗に向けた支援だけでなく、工事と施工する事業者も市内の小規模事業者に限定しており、商工振興の観点で副次的な事業効果が得られる。令和6年度は11件の事業者に交付した。好事例では、地域のランドマーク的な店舗において当補助金を使用することで伝統の味を守れたという例もあった。3年間の事業の総括として目標値には届かなかったものの事業は継続したい。

<若手起業家支援事業>

大学の授業を1コマ活用して企業の機運醸成セミナーを2回実施した。また、起業を目指す若年層の方が起業支援施設（市内4か所）において、コンサルティング等の支援を受けた場合の経費を一部補助する制度を設けている。今後も起業の機運醸成に努める。

<自己表現能力向上事業>

全23小学校及び1特別支援学校の5～6年生を対象に、平田オリザ氏所属の劇団員の方に講師をお願いし、自己の表現力や他者とのコミュニケーション能力など起業家に必要な基礎的能力を向上させることを目的として実施した。

地方創生推進交付金事業の評価結果

新しい生活様式に対応した起業家支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～

【以下の課題や意見が付された】

○リノベーション補助金については、補助割合を増やせば増やすほど、補助金をもらうために事業を起こしたりすることが多いと思う。紹介いただいた好事例は良いと思うが、中小企業の経営強化に真に役立つ施策については、研究をお願いしたい。

○若手起業家支援に関する事業として、当該交付金を活用してセミナーの開催等を実施し、起業数の実績が目標値を超えたという一定の成果があったことは、本市として起業家支援の第一歩を踏み出したと言える。一方で、若手起業家支援補助金に関しては、昨年度実績として10,000円のみの実績であれば、費用対効果を考えると評価はできない。

結論として事業の評価としては<総合戦略のKPI達成に有効とは言えない>と判断せざるを得ない。ただし、留保意見として、全体としては全く効果が無かったということではなく、起業家支援について様々な方法を検証しつつ、引き続き推進していただきたいと申し添える。

【その他審議内容について】

次年度以降の行政評価について

○第6次宝塚市総合計画の施策評価については、昨年度まで、各担当部局が作成した評価表をもとに、行政評価委員会によるローリング評価（全体を1/3ずつに分けて、3年間かけて全体を評価）を実施してきた。

○今年度は、PDCAサイクルを翌年度予算に確実に反映させるため、次年度の予算編成業務を行うまでに、全ての施策評価について市長・副市長による各担当部局への振り返りを行う方法とした。

○行政評価の成果として望ましいことは、「個別の事業を担う担当部局の行政活動の見直しに、効果的に活用することで、事業改善につなげていくこと」であるため、行政評価委員会としてより具体的な事業に関する評価の場として機能させていくことを検討している。

○次年度以降の行政評価の在り方については、答申後も引き続き当委員会で議論を続けていく。